



平成23年度 第45回

中学生の 「税についての作文」

作品集

第36集

主催 全国納税貯蓄組合連合会、国税庁

後援 (財)日本税務協会、(財)大蔵財務協会、日本税理士会連合会、(公財)全国法人会総連合

平成 23 年 第 45 回

中学生の
『税についての作文』

作品集
第 36 集

目次

内閣総理大臣賞	受賞作文	池 佐也加……………	5
税負担の公平・公正			
総務大臣賞	受賞作文	廣末佳子……………	5
税について			
財務大臣賞	受賞作文	中川ねお……………	6
自覚と税と私たち			
文部科学大臣奨励賞	受賞作文	鶴野篤熙……………	7
税の正しい使い方			
国税庁長官賞	受賞作文	伊澤佑佳……………	8
税がつくる幸せ		東海林莉奈……………	8
税金と人の優しさ		千葉雛子……………	9
感謝の気持ちを持って		菅波享平……………	9
震災で気付いたこと		五十嵐美帆……………	10
誰かのために、そして自分のために		遠藤優佳……………	10
税の使いみち		岩崎里衣……………	11
守れ、小児医療センター		浅野穂乃花……………	11
税について考える		渡辺匠……………	12
私の命		茂木麻希……………	13
税金、それは元気の源		春日友理……………	13
税のある暮らし		富田キアナ……………	14
納税者へ「感謝」と「誇り」を		矢部嵐麻……………	14
税とは何か			

復興と税	大橋彩里……………	15
「ふるさと」を守るために	篠原梨菜……………	16
「税について考えたこと」	山内瑠衣……………	16
僕達の生活を支える税金	馬淵智崇……………	17
暮らしを守る豊かな税	厚芝もえ……………	17
消費税から未来の日本を考える	東海林雄太……………	18
税という制度	辻本理佐子……………	18
生きるための税	伊藤優花……………	19
命と暮らしを守る税の大切さ	山本美彩子……………	19
父の給与明細	小野田春奈……………	20
権利の為の義務	塩田千紗……………	20
増税と私たちのくらし	下田舞……………	21
「心が一つになった瞬間」	藤原遼……………	22
『税』について	谷口明花……………	22
町の文化財	寺本安那……………	23
税から学ぶ感謝の気持ち	田ノ岡優紀……………	23
さまざまな号と税金	中村友美……………	24
私たちの税について	草薙由愛……………	24
私たちのための税金	木口芙巳……………	25
人を笑顔にする税金	柴田拓真……………	25
今、そして未来へ	中村百花……………	26
両親とぼくを結ぶ高速道路	村岡孝紀……………	26
税金は「思いやり」であってほしい	松野夏希……………	27
白い花	宮崎楓……………	27
助け合いの心と税	古閑原あずさ……………	28
すべての人々の命を守るもの	木田夕菜……………	29
“かっこいい”税金	平良匠……………	29

医療と税金の関係	小山内 まりな	30
幸せをもたらしてくれるもの	高橋 慶	30
介護を支える税金	佐々木 若菜	31
デイズニー貯金と税金	大森 彩加	31
消費税の増税について考える	倉持 拓海	32
見えない所、それが本質！	三宅 由莉	33
予防接種から学んだ税	富沢 愛理	33
税金に感謝	佐藤 結希映	34
税金の大切さ	大岡 堯史	34
税金がある意味	柳澤 茜	35
税金の使い道	高橋 果乃	35
わたしの町と税	平賀 あいり	36
人と人との架け橋	小野 杏奈	37
未来を切り開く力	羽藤 瑞姫	37
私達の税金	野寺 紗希	38
大災害における税の使い道	三塩 史瑠紅	38
明るい未来のために	横森 悠雅	39
みんなの公園	小林 叶佳	39
今、すべきこと	河合 ゆう子	40
震災を通して税を考える	木村 雛乃	40
税に対する私の思い	高井 風音	41
税金の使い方	田中 雄介	41
税金の大切さ	山本 汐莉	42
国家と家庭とのお金のバランス	町田 芽生	42
税は助けあい	田中 友鶴	43
「税への感謝の気持ち」	小森 悠我	43
「笑顔の源」	東 千晶	44

税の使い道	阪口 僚	45
みんなで支える社会保障制度	竹本 堯史	45
税金について	林 いずみ	46
税がもしなかったら……	中村 明日香	46
納税の義務	川口 真由	47
「税金」に感謝して	西 朱理	47
あの音と共に	高尾 純奈	48
当たり前のありがたさ	渡邊 倫子	48
税を贈る	平木 礼乃	49
「税」のすがた	大塚 麻央	49
自分の幸せと「税金」	森 みずき	50
税金・納税の大切さ	藤崎 真桜	51
命を守る税金	大城 渉	51
税金の大切さ	北林 瑠華	52
税で復興を	平内 さやか	52
税金とは何か、震災をとおして	長谷川 麻鈴	53
税金が救った小さな命	小平 七花	53
私たちの生活を支える税金	内藤 有貴	54
未来のための税	田山 祥吾	55
感謝の気持ち	早矢仕 貴美子	55
税金を納めるということ	佐藤 萌夏	56
今、自分にできること	江本 果穂	56
税との共存	平田 千夏	57
心豊かな生活を送るために	岩崎 拓也	57
税金の重要な役割	長嶺 紫織	58

財団法人日本税務協会の会長賞

受賞作文

一般財団法人大蔵財務協会理事賞 受賞作文

「税」について	早坂 瑞音	59
「納税」というピース	鈴木 由佳里	59
税の大切さ	深津 美帆	60
生きた税金	近藤 しえな	60
税金の力	梅田 颯山	61
税について考えた事	加藤 樹美子	61
税の使い道にうるさい国民になろう	北口 聖子	62
税金の必要性	田原 早央莉	62
エールのバトン	長尾 嘉大	63
祖父は納税者	上敷領 万貴	63
震災から税を学ぶ	高岡 さり	64
祖父母の店の確定申告	玉城 千瀬	65

日本税理士会連合会会長賞 受賞作文

日本のための税	佐藤 好	65
税金への感謝	宮崎 凌介	66
税金と命	磯部 友香	66
納税と福祉	大塚 美香子	67
税Ⅱ共生社会の「核」	本田 侑己	68
将来への貯金	庄司 光	68
ふるさと納税について	林 愛	69
「義務と権利・税金と学校」	塩川 飛悠生	69
見知らぬ人に支えられている!!	浅田 結生華	70
「日本人に生まれて」	山元 美保子	70
税は復興のカギ	前田 莉穂	71
税の存在	上地 媛子	71

公益財団法人全国法人会総連合会会長賞 受賞作文

税が救うもの	佐藤 みきと	72
「復興への架け橋」	佐々木 志玲奈	73
税金は人と人との絆	藤田 真綾	73
税金について考えたこと	小林 由花	74
「助け合い」のかたち	金原 正太郎	74
税と私	野尻 陽菜	75
税の在り方	飯塚 海渡	75
日本の復興に向けて	松富 香名子	76
税について	高橋 咲百合	76
「税」は「輪」と「和」	波多江 菜柚	77
学校生活と税	坂本 麻衣子	78
奨学金制度について	田場 貫太	78

※氏名については、原則として常用漢字を用いています。

内閣総理大臣賞 受賞作文

税負担の公平・公正

土佐清水市立清水中学校
三年 池 佐也加

私はこれまで、税のことについて自分で考えたこともないし、学校でも詳しく教わったこともありません。しかし、父が以前、市役所の税務課で仕事をしていたので教えてもらうことができました。

父は税務課の収納係というところで主に、地方税の徴収事務を担当していたらしく、地方税のことについて教えてもらいました。

地方税には、固定資産税や市県民税、国民健康保険税、軽自動車税といった税金があり、その金額は前年にどれだけ所得があったか、どれだけ価値の不動産を所有しているか等によって決まります。例えば、固定資産税は第一期から第四期までの四回に分けて納めることになっていて、それぞれに納期という税金を納めなくてはならない期限があると話してくれました。

そこで、私は、それじゃあ、その期限内までに税金を払わなかったらどうな

るのかということを質問してみました。

納期を過ぎても支払わなければ、督促状や、催告書という手紙を送って納付を促し、それでも支払われない場合は、最終的には財産の差押えをしなければならぬということに法律で規定されているそうです。

私は、なぜそこまでして、税金を集めなければいけないのか、払えない人も世の中にはたくさんいるのではないかと思います、とても理解に苦しんだし、人の財産を差押えたりすると、ひどい文句を言われたりするのではないかと思います。

しかし、父は、確かに預金や給与などの差押えをした後に、電話がかかってきて怒る人や、市役所にやってきて脅迫まがいの文句を言う人がたくさんいたが、本当に恐いのは差押えをして滞納者に怒られることではなく、税金を払えるのに払わない人たちをほったらかしにして、真面目に税金を払っているたくさんの人たちが、不公平感を持ち、税金を払うことがあほらしくなってしまうということが一番恐いことで、税負担の公平・公正を確保するために、市役所の税務課や税務署の人たちは一生懸命に働いているのだと教えてくれました。

税金は、所得などに応じて公正に課税されて、みんなが公平に負担することとで、まちに新しく道路をつくったり、学校や図書館、消防署などといっ

た公共施設を建てたり、その他の、私たちが安心して生活するために必要な色々なサービスを享受することができるといのが、社会の仕組みであり、この仕組みが守られなければ、とても住みづらい社会になってしまいます。私も近い将来、大人になって仕事をすると来ます。

そのときは、父から教わった「税負担の公平・公正」という言葉のとおり、社会の一員として税金の納期内納付がしっかりとできるような大人になつていたいと思いました。

総務大臣賞 受賞作文

税について

河南町立中学校
三年 廣 末 佳 子

「税金とは、国家に信託した国民の財産である。」

会計検査院の活躍を描いたドラマは、毎回この言葉で始まった。信託？税金は財産？分らない事だらけの堅苦しい言葉なのに、不思議と私の頭にこびりついている。

個人の収入に応じて納める所得税や住民税、土地や建物にかかる固定資産税、車にかかる自動車税、ガソリン税、そして消費税……。我が家も色々な税金を支払っている。

なぜ、税金が国民の財産なのか？それには、国家と国民の関係を考えなければならぬ。国家を人間に例えたら、税金は血液だ。血液が大幅に不足したり、その流れが滞ると、人間は死に至る。もし、日本が死亡したら、私達はもういないのだらう。

私の家は、私の家でなくなるかもしれないし、コツコツ貯めたおこづかいも紙切れになってしまうかもしれない。国家というものがあって、私達の

財産や生活は保障されている。だから、国民である私達は自分の財産の一部を国に預けて国を支える。それが納税なのだ。

そして、預けた財産の使い道について、無駄遣いや不公平がないか、常に関心を持って見守る必要がある。ずるい人やおおげさな人だけ、上手に何度も恩恵を受けていないか。本当に困っている人を助けられているか。

東日本大震災の時、宮城県南三陸町で津波が迫り来る中、住民への避難指示を放送し続けて犠牲になった職員の話がテレビで知った。消防隊員、警察官、自衛官など、多くの公務員の方々が命がけて仕事をしてくれている。

悪徳官僚や公務員がいるのは、事実だと思う。国民の財産で私腹を肥やしたり、無計画に国民の財産を浪費した者には、お金を返してもらわなきゃならないし、厳しい罰を与えるべきだ。だけど、一方で素晴らしい官僚や公務員についても、もっと報道すべきではないか。

信頼し尊敬し合える関係を築けなければ、預けた私達の財産は活かされないのだから。

税金や保険について、払った分はもらって当然だと主張する人がいる。でも、私は払った分だけでは足りないのではないかと思う事がある。払うだけで、受け取れない人達がいて成り立っているのか？本当のところは、よく分からない。

ふと校舎をながめると、新しくはないが立派で頑丈な建物だ。幼稚園から始まって、たくさんの先生方が私を指導してくださった。両親が払った以上の税金が私の為に使われているはずだ。自ら望んで日本人として生まれてきた訳ではないが、確実に私はこの国に育ててもらっている。

将来、自分で稼いで納税する事になった時、「私も、ようやく恩返しができるようになりました。」と、背筋を伸ばして誇らしく思えるといいな。

財務大臣賞

受賞作文

自覚と税と私たち

八王子市立打越中学校

三年 中川 ねお

ある人が電車に乗った。電動車椅子を使用している人だった。その人は、車椅子の機械部分に寄りかかるようにして立っている女性に、注意を呼び掛けたそうだ。

「危ないので、車椅子に触れないでいただけますか。」

「税金で生活しているくせに……。」と呟いたそうだ。

「税金のお世話にならないで生活している人なんて、いませんよ。」

女性は愕然とした様子で、黙り込んでしまったそうだ。

この女性のように、日常的に誰もが税金と関わって生活しているというところに気がつかない人は、おとなでも多いのかも知れない。しかし、身の周りには税金によってつくられたものや、財源が税金によって賄われているものが数多くある。

身近なものでは、公園、道路、病院、市役所、児童館、図書館、警察、

消防……そして学校がある。これらは「国家事業」として、国の歳出の半分以上を占めているそうだ。義務教育を受けている世代の私たち中学生にとっては、税金を納めるという実感は薄いものの、施設等を利用している機会は多い。

国の歳出という大きな金額の動きは、なかなか実感がわきにくいですが、その約四分の一は国債費なのだそうだ。社会科の授業で学んだ『日本の借金』についての話を思い出した。授業の終わりに先生がおっしゃった。「借金時計」というのを調べてみると面白いですね。」国の歳出にピンとこなくても、『借金時計』という言葉にはおおいに興味をわいた。家に帰って早速検索してみた。アメリカの「OUR NATIONAL DEBT CLOCK (財政赤字時計)」をモデルに作られ「財政再建」を目的としたデジタル表示には、画面上でその瞬間の我が国の借金の額が万単位で表されている。あまりの高額さに目を白黒させている間にもどんどん増える増える……。私がこうして作文を書いている間にも、この作文を誰かが読んでいる間にも、『日本の借金』はとめどなく増え続けているのだ。国民一人ひとり、生まれたばかりの赤ん坊も、年金生活をしている高齢者も皆借金を背負って生きている。そして、その膨大な金額の借金を税金で賄おうとしている。だれもが直接的に関わっている自覚がなくとも、このデジタル表示の数

文部科学大臣奨励賞
受賞作文

税の正しい使い方

学校法人尚学学園沖繩尚学高等学校附属中学校
三年 鶴野篤熙

字は止まることはない。
税金の使い道や日本の借金の話になれば、おとなたちは口をそろえてこう言う。「国民の血税の無駄使い」「税金泥棒！」…この作文を書きながら、将来自分が税金を納める立場になった時には、そんなことは決して言いたくはないと感じた。そしてみんなが税金のお世話になっっているということを自覚し、気持ちよく税金を納められるような時代が来てほしい。いや、変えていくのは私たちだ。

六年程前の或る日、父が突如激しい腹痛に見舞われた事があった。痛みは、次第に強さを増し、油汗が吹き出し始めた。小学生だった僕は、母に救急車を呼ぶようをお願いした。

ところが、父は、「救急車は、呼ばなくていい。もう少ししたら自分で病院に行くから。」と頑なに拒絶したのだ。あまりの語気の強さに二人とも、何故と疑問を抱きながら顔を見合わせた。一時が過ぎ、痛みを我慢してきたのか、父は自分で車を運転して病院に行った。

結果は、腎結石で、担当医は、「よく、ここまで我慢しましたね。もう少し遅かったら、大変でしたよ。」とおっしゃったそうだ。

僕は、後に、父が何故救急車を呼ぶ事をあれ程固辞したのか聞いてみた。すると、父はある話をしてくれた。父が大学在学中、友人が、突然構内で倒れてしまったそうだ。周りにいた人々は、すぐに救急車を呼んだらしい。と

ところが、一向に救急車は来る気配が無い。その友人は、救急車の到着を待たずして息絶えてしまったのだそうだ。何故、救急車が間に合わず、友人の命を救うことができなかったのか。父は、後に、その理由を知って愕然としたと言う。

それは、本当に急を要する状態でないにもかかわらず、自分は、税金を納めているんだから、救急車に乗って病院に行ってもいいじゃないか、或いは当然の権利だと言い張って救急車の出動要請をした人がいたそうだ。不必要な出動で、救える命が救われなかった悔しさを感じた父は、それ以来、決して、救急車に頼る事ができなくなったようだ。

僕も、その後、ニュースで、そういうタクシー代わりに救急車を利用する人が増加してきているという話を耳にした事がある。

税金とは、自分や多くの人々が、より快適で、より安全な生活を享受するために、国や地方などに納めるお金のことだと授業で学んだ。つまり、きちんと税金を納めている人は、義務教育や消防、救急といったサービスを享受される、ということだ。しかしだからといって、納税した分は取り返さなくは、サービスを受ける権利があるのだから何をしたらいい、そのような考え方は間違っていると思う。

なぜなら、税金は、一個人ではなく、社会生活を営んでいる全ての人々

に対して、使われなければいけないからだ。自分以外の人々の生活のためにも、納税を盾にむやみに救急車や警察を呼んだり、好きな時にゴミを捨てたりしてはいけないということを、もっと浸透させていくべきだ。

税金はきちんと納めるだけではなく、正しく公平に使うもの、そう考えられて行動していくよう心掛けていきたい。

国税庁長官賞 受賞作文

税がつくる幸せ

札幌市立あいの里東中学校
二年 伊澤 佑 佳

私の母子手帳。母が大切にしているもの。先日、子宮頸がんワクチンを接種してきた。受け付けを待っている間に、手帳を見せてもらった。乳幼児健診の結果や成長記録が、医師や保健師そして、母の手によって書かれていた。予防接種も全て受けていたが、病院名はまちまちだった。それは父が転勤する度に、受ける街が違っていったからだ。日本全国どここの市町村でも、同じように健診などが受けられることは、とても幸せなことだと思う。私はたくさん人の手で、大切に育てられているのだと思った。

子宮頸がんワクチンの案内に「札幌市では」と書かれていた。乳幼児健診などは、どこの街でも受けられるのに、これは、札幌市以外では接種できないの？と思った。今年母宛てに「札幌市無料クーポン」というものが送られてきた。母が毎年受けている検診が年齢により無料で受けられるものだ。私のワクチンも、母の検診も札幌市は

どこからお金が出ているのか、母に聞いてみると、「私たちの市税」という小冊子を貸してくれた。そこには市税の収入や予算、使い途などが細かく記されていた。その一つに「子どもを生育てやすく、健やかにはぐくむ街」とあり、予防接種のことが書かれていた。他にも学校運営、除雪など私の身近にかかわることに税金が使われていた。それぞれの街が、住民の為に大切な税金を使っているのだと思う。今、国や地方の財政状況は良くないという。札幌市も厳しい状況の中、

ワクチンを受けさせてもらえて感謝した。税金は、私たちの生活や健康を考え、安心安全に暮らす為に支えてくれていると実感した。世界には予防接種が受けられず、亡くなっていく子が数多くいる。私は日本に生まれ、みんなの力で育ててもらい幸せだと感じた。

東日本大震災。多くの人が犠牲となり、今なお復興の道は遠く、不自由な暮らしをしている人がたくさんいる。私に何かできることはないかと思ひ募金や手紙を書いたりした。がれきの山の撤去作業や、警察、消防、自衛隊などは国の税金でまかなわれている。父や母が納めている税金。私も買い物をする時に税金を払っている。今の私は直接現地へ助けには行けないが、わずかでも私の納めている税金が力になっていると思うと、復興に貢献している気がした。これらの税金を国は大切に使うって欲しいと思った。

日本国民は平等な権利が与えられていると同様に、果たすべき義務の中にも納税もある。小さい時から、税金の使い途をわかっていたら、その大切さもわかり、納税の意識も高まる。納税者のおかげで私たちは育てられていると思うと感謝の気持ちで一杯だ。税金は国の宝で、東日本を復興させることのできる魔法の力だ。豊かな日本を作るためにも、私が大人になったら税金の大切さを子どもに教え、納税者としての魔法の力を発揮しよう。

税金と人の優しさ

札幌市立稲穂中学校
三年 東海林 莉 奈

夏休み、私は祖父母の家へ遊びに行きました。そして税の作文の話をしたところ、祖父は私を近くの沼地へ連れて行き、「ここはキウシト湿原というんだよ」と教えてくれました。税の作文と何の関係があるのだろうと不思議に思っていた私に、祖父はこのような話をしてくれました。「この湿原は道路の拡幅工事のための環境調査の際に偶然に絶滅危機の植物や生物が生息していることが分かって道内でも貴重な場所と判明したんだよ。この場所を守っていくためには多額のお金が必要だったけど、市の予算がなかったから、市民がボランティアを結成して、

今も湿原を保護する活動を続けているんだよ」それを聞いて私は、市からの支援がなくても、自分たちの力で自然を守っていくことができると知って驚きました。

キウシト湿原の保護活動は、活動が始まった当時からずっとボランティアの人たちからのお金で行っています。しかし、ボランティアのほとんどが高齢者であり、その必要経費は不安定なのが現実です。そうすると、毎年同じ活動しかできなかつたり、湿原の新たな問題に対応できなかつたりします。なので、一定の税を市から受け取ることで経費が安定するため、よりよい保護に繋がるのではないかと考えました。ですが、税金はさまざまなお金の税金を湿原の保護に使うことはできません。そのため、私の祖父が行っているボランティア活動のように、自分たちでできることは自分たちで行い、必要最低限の税を受け取ることが湿原を守るために大切なことなのではないでしょうか。また、そうすることで、税の使い道を見直していけるのではないかと思います。

祖父から湿原の話聞き、環境と税との結びつきを初めて深く考えました。税の無駄をなくし、税を正しく使うことでこれからの湿原の保護活動が今よりも良くなっていけばいいなと思いました。

昨年は事業仕分けと言う、国の予算

を使う必要がある事業かそうでないかの話し合いがありました。税の無駄使いを無くすためにもとても良いことだと感じました。

あるスーパーでは、黄色いレシートを集めることで、売り上げの一部が色々な団体の活動資金に寄付されています。3月に起こった東北地方の地震でも人々の善意で沢山の寄付が集まりました。人の心の温かさが人を助け税金を無駄に使わないことに繋がります。もちろん町の復興にはそれだけでは足りません。しかし、無駄に使われていた税金も、本当に必要な事に使われるようになります。

私も税をおさめながら、ボランティア活動に参加し、無駄な税金が少しでも減るように考えていこうと思います。

感謝の気持ちを持って

気仙沼市立気仙沼中学校

三年 千葉 雛子

三月十一日の東日本大震災。

私は津波により、家も大切にしていた物も全て流されてしまい、家族とともに、学校の避難所で生活することになりました。避難所での生活は、今まで普通にあつたものが、簡単に手に入らないという状態でした。水や食べ物、そして電気などもそうです。初め

の頃は、暗くて寒い中、少しの水や食べ物のみなどで分けあつて生活していました。

しばらく、電気のない生活をしていたため気付きませんでした。復旧してから初めて、辛いと思つたことがありました。それは、本や教科書がなかったことです。本を読んだり、勉強をしたいと思つても、何も出来ない日が続きました。

しかし、数日がたつたある日、嬉しい出来事がありました。学校の先生方が、勉強する時間と場所をつくつてくれたのです。また、流されてしまつた一・二年の教科書も、新しく頂くことができました。この嬉しさは、ずっと忘れられません。

後になり、私たちが避難していた学校も、頂いた教科書も、税でまかなわれていくことを知りました。今まで、税金が何に使われているのかなど、考えたこともなかったのですが、今回の経験により、私たちは税金によつて守られているという事を実感しました。

例えば、市の職員さんが、同じ避難所で寝泊りをして、私たちの世話をしてくれたことや、自衛隊の炊き出し、風呂の提供です。様々な都市の市の職員さんが来てくれて、私たちのお世話にあつてくれたことにも、とても感謝しています。市の職員さんや自衛隊の皆さんのお陰で、私たちは普通の生活を取り戻すことができました。

また、その方たちだけでなく、全国からたくさんの方々が来てくれて、私たちが助けてくれました。震災後すぐに発生した火災を消火してくれたのも、消防署の方でした。また、避難所や市内の見回りをしてくれたのも警察の方です。そして、もし税がなかったら、安心して生活することはできなかつたら、安心して生活するの瓦礫もいつまでも片付くことはなかつたと思います。私は、税によつて支えられているということを改めて感じました。この時に感じた感謝の気持ちを忘れずに、これからも生活していきたいと思えます。

全国のみなさんの大切な税金により、私たちは前へ進んでいく事ができました。これからは、私たち自身の力で前に進んでいかなければなりません。税により守られている私たちの安心をたやさないように、私もこれから精一杯頑張つていきたいと思えます。税に感謝し、未来のために、私も大人になつたらしっかりと納税できるように人間になりたいです。

震災で気付いたこと

川内村立川内中学校

三年 菅波 享平

税金なんて知らない。

少し前まで、僕はそう思っていました。

た。税金なんてあつても、無駄に使つて、いらぬ物を作るだけで、人々の生活を圧迫するだけのいらぬお金だと思つていました。でも、自分が体験したある出来事で税金がどれだけ自分の生活の助けになっているかを思い知りました。

そのある出来事というのは、今年最大の悲劇である東日本大震災のことです。

震災当時、福島県の川内村に住んでいた僕は震災によつて長野県の祖父母の家へ避難しました。そして、何日たつても一向に好転しない原子力発電所のニュースを聞いて、やっぱり税金なんかなんの役にも立たないからお金だという思いが強くなりました。だけど、あるテレビ番組で放送された2枚の写真のエピソードを聞いて、税金のありがたさを痛感しました。

その写真というのは、震災の被害を受けた東北のある高速道路の写真で、片方は震災直後に撮影された写真、もう片方は震災からわずか一週間後に撮影された同じ場所の写真でした。

震災直後に撮影された方は道路の一部が盛り上がり、落ちくぼんだりして、とても車が走れるような状態ではありませんでした。しかし一週間後の写真を見ると、震災の被害を受ける前の真つ平らな道路に戻っていました。そして、自衛隊が支援物資を届ける手助けになつたと言っていました。それを見て、東北地方の復興に税金が

関わっていることにただただ驚きました。そして、初めて税金がどれだけ自分達の生活に関係しているのか調べてみたいと思いました。

その後、図書館やコンピュータ、社会の授業などで税金のことが少しずつ分かっていくたびに、自分は税金のおかげでこうして便利で安全な暮らしをしているということに気がきました。

税金と一口にいつても、様々な種類があります。消費税、所得税、法人税、なかにはたばこ税、酒税、入湯税などの特定の物にかかる税もあります。

税の種類も様々ならば、税の使い方も様々です。老人ホームや看護施設を作ったり、先程の写真のように、道路の整備や修理にあてられたり、火事や災害で家を失ってしまった人への負担金にもなります。

このように、いろいろなようで、いざという時に必要となる使い道、絶対にこれは税金を使うべきだという使い道があります。自分達にとって最も身近な学校も税金によって作られ、自分達が教育を受けることができるのも税金のお陰であると思います。経済がとてつもない今の日本では税金は「とられる」ものではなく「払う」ものであるという考えをもつべきだと思います。税金の大切さを学ぶことは、便利で安全な生活への第一歩だから。

誰かのために、 そして自分のために

酒田市直立第一中学校

三年 五十嵐 美帆

私は今、英語の弁論大会に出場するため、スピーチの練習をしています。「ラビズアクション」という題材の英文を暗記して発表するのです。内容は、「ウィー・アー・ザ・ワールド」という有名な歌がつけられたときの話です。

アフリカには貧困や飢餓に苦しんでいる人がたくさんいます。そのような人々を救うためにアメリカの有名な歌手たちが立ち上がったのです。自分たちのところに入るはずだった出演料や音楽商品の販売収入を全てアフリカに寄付することにしました。そして世界中のたくさんの人々が寄付に賛同して商品を購入し、アフリカにたくさんのお金を寄付することができました。

この活動は一人一人の寄付金は少なくても、たくさんのお金を集めて、それを人々の救済に役立てることができるのだと思います。

「納税」という行動も、これと同じことだと思います。税とは、みんなが少しずつお金を出し合ってみんなが暮らしやすくなるための仕組みのことで、私たちの学校も税金でつくられ、

中学生一人あたり九十五万円の授業料などもまかなわれています。また私たちが通っている道も税金でつくられているなど、税は社会生活のいたるところで使われています。

今年の東日本大震災ではたくさんの人々が被災しました。被災した人たちは全てを失って大変な思いをしています。家や財産が失なわれ、今までどおりの生活も出来なくなっています。全てを失なうということがどういふことなのか、私には想像もつきません。しかし、この状態を一刻も早く元に戻さなければいけないと思います。復興のためには多額のお金も必要になってきます。この場面で役立つのが、みんなが少しずつ負担し、大きな仕事ができる仕組みとしての税金だと思います。

アフリカの飢餓救済と同様に、賛同して納めた税金が震災復興に役立てば良いなと思います。そのためには、使う目的をしっかりと知らせて、自分から進んで納められる様にすることが大切だなと思います。自分がいつ被害を受けるか分かりません。だから、他人事のように考えず、自分に起きた場合を考えて行動するべきだと実感しました。

私が直接納めることができる税といえは消費税です。以前は、物を買うときに必ず払わなければいけないので、損をした気持ちになりました。何に使われているのかも知らなかったので無理矢理とられているように感じていま

した。しかし、今は違います。消費税について、このお金がどこかで役立てられ、自分もその手伝いをしているという考えを持てるようになりました。そして、これからも社会を支えるメンバーとして、気持ちよく税を納めていきたいと思っています。

税の使いみち

朝日町立朝日中学校

三年 遠藤 優佳

『大好評デマンド型タクシー』、私が住む朝日町の議会だよりに、利用者の喜びの音が載っていた。「今まで停留所が遠くて大変だったけど、家の玄関から目的地まで手頃な料金で送ってもらえてありがたい。」

私は、この記事を読んで、うれしくなると同時に、三年半前の悲しい事故を思い出した。

テレビのニュースを見て、私は信じたくなくて愕然とした。お世話になった大好きな習字の先生が通院の帰り、猛吹雪の中、交通事故で亡くなってしまった。あの時、デマンドタクシーがあったら、先生は事故に遭わずに済んだのに……。

朝日町では、昨年度から「あいのり号」というデマンドタクシーが運行している。予約をすると、希望する場所に迎えに来て、降りたい所まで送って

くれる。高齢者の利用が多く、病院や薬局、スーパーに出向くことが多いそう。高校生以上、一回四百円という低料金は、費用の一部を税金を財源にしているからだ。調べてみると、町の予算の約〇・四七パーセント、千九百六十五万円が当てられていた。現在は、一日に平均六十三・八人が利用している、昨年より約十五人増加したそう。町の人口は八千人弱なので、一日あたり百二十五人に一人が利用することになる。

母方の祖母は一人暮らし。心臓に持病があり、デマンドタクシーをよく利用している。以前自転車で病院に行っていた時、「もし転んだりしたら、大変なことになるところだった。」

と、主治医の先生に言われたそう。デマンドタクシーは命を守ってくれるとも言える。

通院と共に、利用目的が多いのは買い物だ。私が「買い物難民」という言葉を聞いたのが去年だった。近くに食料品店などがなく、交通も不便でなかなか買い物に行けない人たちのことだ。朝日町では、山あいの地域の人たちもデマンドタクシーのおかげで、待合所にお茶が準備されたお店に行くことができる。

それから、私たちの町には、山形直行バスがある。駅まで約二十キロも離れた地区からは、山形市内の高校まで、冬は片道一時間半以上かかってし

まう。直行バスを利用すると、高校生はもちろん、保護者の送迎の負担も少なくなつて助かっているそうだ。

このように、朝日町では、安全で安心に暮らせることを目指し、みんなで支え合う政策に税金が使われている。ゴミの収集のように、すべての人が受けるサービスも必要であるが、私は、高齢者の足になるデマンドタクシーや未来を担う高校生のためのバス運行などに税金を使うことはとてもありがたいし、大切なことだと思う。

私たちも、近い将来、納税者になる。みんなが安心して暮らすことができる社会のために、税の使いみちにも目を向け、しっかり納税できる社会の一員になりたいと思う。

守れ、 小児医療センター

行田市立長野中学校

三年 岩崎里衣

私には四歳上の姉がいる。今年、無事に大学の薬学部に進学した。しかし、姉は私より十センチ以上身長が低い。並んでいると、本当にお姉さん？と多々聞かれる程だ。しかし、それは訳がある。姉は超未熟児で生まれたのだ。以前、両親が話してくれた。姉の出産は大変だったそうだ。十二月の大晦日間近の日、姉を身ごもっていた

母は、お腹が急に痛くなり、熊谷の病院に担ぎこまれた。父は、産婦人科医から母が早期胎盤剥離という状態で、急いでお腹の子供を取り出さないと、母子共に危険な状態と説明された。出産予定日より二ヶ月前のことだ。お医者さんは頭を抱えていたそうだ。何故なら、自分の病院では取り出した未熟児を治療する専門の設備がない。かといって、このまま母を他の病院に救急車で運べば、車の振動に胎盤は耐えられないだろう。更に年末という事もあり、いつも転送を受け入れてくれる近くの総合病院からも、受け入れを断られてしまったのだ。お医者さんは受け入れ病院を探す為、電話をかけ続けて下さったそうだ。そして唯一、承諾して下さったのが県立小児医療センターだった。しかもこの病院には、未熟児搬送専用のドクターカーがあり、専門医、看護師さんに乗せてかけて下さったそうだ。姉はドクターカーの中で治療を受けながら無事搬送された。

後で分かった事だが、姉の搬送は例外中の例外で、岩槻から熊谷迄ドクターカーで運ばれた例は、その後一件ないそうである。四十キロを超える道のりの未熟児搬送というリスクを考えれば仕方のない事なのかもしれない。その後、二ヶ月余りの入院・定期通院を経て、小柄ではあるが元気な姉がいる。もし姉がいなかったら私の家族の生活は大きく違っていただろう。小児医療センターは、県立の病院であ

り、税金から補助を受けて運営されている。私の家族が、毎年のかなりの税金を納めているのか私には分からない。でも姉の命を救ってくれた小児医療センターのことを考えれば『国民の義務』であるという事以前に進んで納税していきたいと思う。

最近、受け入れ先の病院が見付からず搬送中に患者が亡くなってしまったという痛ましいニュースを耳にする。その度に、そんな悲しい事の起こらない社会になって欲しいと願わずにはいられない。救えるはずの命があるのなら、その為に税金を使う事は、生きた税金の使い方の一つだと思う。姉の命を救って下さった県立小児医療センターのように、未来ある子供達の命を救う医療機関をぜひ、全国に増やしていただきたい。そうすれば姉のように、将来医療の現場に返って、今度は命を救う側に立ちたい、という志がなくなるはずだ。少子高齢化が進む世の中で生まれてきた大切な命を守ることに、それも日本の未来の為にとても重要な事だと私は声を大にして言いたい。

税について考える

稲敷市立江戸崎中学校

三年 浅野穂乃花

「いやだなあ。予防注射か。」

来月、子宮頸がんの三回目の予防接種を受ける。注射が嫌いな私は、姉と二人でゆううつな顔を見合わせた。が

んの中で唯一予防接種の効果が期待されている子宮頸がんだが、その予防接種の費用は高額だ。我が家は二人姉妹なので、約九万円かかるらしい。しかし、私の住む稲敷市では、市からの補助のおかげで無料で接種できるのだ。母は、

「本当に助かる。なにより安心だし。」と話していた。

教育環境の整備された私の住む町・稲敷市はとても住みやすい所だ。中学校は冷暖房完備で、暑い日や汗だくの体育の後でも快適に過ごせる。中学校の隣にある中央公民館には、みんなが頻繁に利用する図書館をはじめ、大ホールもあり、無料の映画会やコンサートも開かれていた。会議室では夏休みなど様々なイベントが行われ、幼いころからよく参加させてもらった。市の人々も準備・運営に快く協力してくださり、市全体で私たちを支え育ててくれていることを感じた。

江戸崎中学校は、文武両道で部活動も盛んだ。その練習も学校だけでなく総合運動公園で行う部活が多い。サッカー部はグラウンド、テニス部はテニスコート、共にナイター設備がある。おかげで、野球部は学校の運動場を占有して練習ができる。バレー部やバスケット部も運動公園と学校の体育館と交互

に利用し練習している。

これらの文化・スポーツ・教育を支える施設は全て税金で賄われている。予防接種と同様に、誰もが平等に利用することができる。

私は、社会の学習をする中で、私一人ひとりの個人をかけがえのない大切なものとする基本的な人権について知った。資本主義が成立した十九世紀頃には、「働かざる者食うべからず」など個人の置かれた状況を考えない風潮もあった。でも今では、私たちのだれもが安心して生活できるように、医療・年金・福祉・介護など公的サービスのためにたくさん税金が使われている。他にも、身近なところで私たちの暮らしを支えてくれているものが税だと知った。

しかし、税金はいろいろな問題を抱えていて、まだまだ使い道を考えなければならぬ。今、日本は「少子高齢化」といわれている。一見、税金とは無関係の問題と思われるが、私たち中学生にとっては大きなことだ。日本の人口は二十四年を境に減少し、高齢者が増加している。つまり、税金を納める人が減って、使う人が増えるということだ。

私は、今の私たちの恵まれた環境土台となってくれている税金について更に正しく理解を深めていきたい。そして、私たちの還元された税金の豊かさを、今後は納税者として正しく判断し、有効利用できる社会人になっ

きたいと思う。

私の命

佐野市立城東中学校

三年 渡辺

匠

私は今、大好きなサッカーに夢中になり、友達とボールを追いかけ校庭を走り回っている。「元気で健康」そのものである。このような生活が送れることは想像さえできないことであつた。

そう、私は、「小児喘息」を一歳を迎えたばかりの秋、発症したのだ。

飲み薬と吸入で初めのうちは症状を抑えていたが、だんだん気候や体調によつて症状は重症化し、とうとう、点滴をするまでになった。一回の点滴で薬を二袋。朝晩病院へ通った。手の甲に点滴の針を刺したままの生活を送つた。

そういう日々が何年か続いたある日、医師から「小児慢性特定疾患治療研究事業」という事業に申請をしたらどうかというお話をいただいた。慢性特定疾患？なんと聞き慣れない響きだ。県の健康福祉センターに申請し、県から市役所の福祉課に通知されるといふ流れだ。この申請が受理されれば、小児喘息の研究のためということか、かかった医療費は全額無料となる。幼い私は、その補助が全て国民が

納めている税金で賄っていたことさえ知らず、ただただ咳が止まることを望んだ。

それから時が流れ、小学校高学年から中学校にかけて社会科で「税」について学んだ。言葉では聞いたことはあつても、具体的に文字に表すことは容易ではない。身近なものとしては、学校、教科書、図書館の本、福祉、介護。そして、世界中を震撼とさせた東日本大震災や福島原発事故に係る災害救助や復興等に形を変え私たちの生活を支えてくれていた。私も例外ではなく、医療制度のおかげですっかり健康を取り戻し、元気に毎日を過ごせている。「税金」というと無機質な響きに聞こえがちだが、生活を営んでいく基礎となるもの全てに姿を変え、私たちを包んでくれていたのだ。なんと頼もしいことであろう。

私は、改めて「税」について考えてみた。大人はよく「税金が高い」とか「こんなに高い税金を払えない」とか言うが、果たしてそうであろうか。大人も子供だったその昔、そのまた大人が納めていた税金で教育にしろ医療制度にしろ、様々な援助を受けていたのではないだろうか。先祖代々受け継がれてきた伝統を確実に次の世代へと継承していく風習や文化をもつ日本人だからこそ、次世代の人々が困窮したり路頭に迷ったりしないように「納税」の義務をきちんと果たしていくべきだと思ふ。

「この状態はとても尋常ではない。」
「私が幼い頃、医師に母は言われたそう。その私がこうして元気にサッカーができるのも、先人が果たしてくれていた納税と言う名の貯金があったからこそだと思う。私の命はこうして守られてきた。守られたこの命を大切にするとともに、一国民として日本の未来を築いていく誇りと責任をもち、胸を張り感謝しながら納税できる大人に私はなりたい。」

税金、それは元氣の源

共愛学園中学校

三年 茂木 麻希

「納税者になるってことは社会の一員としてみんなを守るってことなんだ！」そう気付いたのはつい最近のことだった。

私は税金を納めるということに対して、あまり良いイメージがもてなかった。学校の歴史の授業で、日本では何千年も前から税のしくみができていたことを学んだ。当時の税率の中には二公一民といって収穫の三分の二を年貢として納めるような厳しいものもあったそうだ。だから「税」というと農民を苦しめ縛りつけるような悪いイメージになっていた。

ある日私の弟にこんな事を聞かれ

た。
「税金って何で払うの？税金がなければあと二五円払わなくてすむものじゃない。」

それは弟が本屋さんで五百円の本を買う際に抱いた疑問であった。消費税は知っていた。しかし、その税金が何につかわれているかなんて知らなかった。だから私は弟の素朴な疑問に答えることができなかった。そこで税金について調べてみると、私たちは税金によって多くの恩恵を受けていることが分かった。

例えば道路。先日、私が駅から学校までに利用する道路が新しく造られた。以前その道はとても不便なものだった。多くの学生が通るその道は複雑で幅が狭く段差も多かった。夜になると電灯が少ないので暗く危険で不安だった。だから新しく道路ができたことで安全に快適に通学できるようになったし、高齢者の方にとっても大変便利になったのだ。

他にも税金は私たちの生活を豊かにしてくれている。地域の交番や近所の公園、市の病院や図書館。もっと身近なものでは学校で使う教科書など、税金が私たちの生活の一部に姿をかえて私たちを支えてくれていたのだ。もし、税金が無ければ便利な生活はできない。税金は人間の社会生活に欠かせないのだ。

三月十一日の東日本大震災によって多くの地域が壊滅的な被害を受け、心

の面でも大きな傷を負った人々がいる。そんな中、日本中が明るい明日を築くために一丸となっている。日本というチームの中で苦しむ仲間のために一人一人努力することで大きな力となって復興への道を切り開くことができる。ここでも税金はつかわれる。つまり納税という小さな積み重ねが大きな力となって困っている仲間の助けをするのできるのだ。

私の生活も同様に医療費や教育費などいろいろな面で税の恩恵を受けている。いまはまだチームの中で守られているが、いつしか私もチームを守り背負っていく納税者となる。

最近ニュースで取り上げられているような税金を払わない大人や税金を無駄遣いする大人にはなりたくないと思った。

そのためにもっと税金について理解し、弟や友達に納税の大切さを伝えていけるようになりたい。

今私が納めている、たった五パーセントの税金が、地域や日本、そして、世界を、百パーセントの笑顔に変えることができるのだ。

税のある暮らし

十日町市立南中学校

三年 春日 友理

税を納める事、それは私達国民の一

つの義務です。そして、税は「払わなくてはいけない物」というイメージが強く、私達がそれによって恩恵を受けているという事を見落としがちだと思います。私は、税は国民の暮らしを支える大切なお金だと思います。

今年三月、東日本大震災によって、大規模な津波が発生しました。その様子は、テレビやラジオで幾度となく放送され、誰もが衝撃を受けたと思います。液化化や建造物倒壊、原子力発電所など、太平洋岸に数多くの甚大な被害をもたらしました。しかし、そのような状況にあっても、救済活動は行われていました。仮設住宅の建築や飲食物の配給。他にも公衆電話やメールの無料化、各地の医療機関の患者受け入れや、医療チームの派遣。それらによって、被災者への負担が抑えられていました。それは、全て税金があつて出来た事です。そして、私も新潟県中越地震で被害にあつた際、それらによって助けられる事がありました。そのような災害は予測する事が出来ませんが、税がある事によって直ちに救済活動が行え、被災者も安心して事が出来るのだと思います。

そして、私達は他にも、身近で様々な形の税に支えられています。

二十〜三十代の女性が発症する全ての癌の中で、第一位である子宮頸癌。それは、予防出来る為、近年では予防ワクチンを接種する事が叫ばれています。そして、特に中学生はワクチンの

納税者へ「感謝」と「誇り」を

港区立六本木中学校

三年 富田 キアナ

効果が高いとされています。しかし、費用が高額であり、受けたくても受ける事が出来ない人は、少なくないと思います。ですが、最近では様々な場所で中高生を対象とした、予防ワクチン接種費用の全額助成がされています。注射を受ける事に対し、初めはとても抵抗がありました。受けられる事自体が恵まれていた証拠だと分かりました。個人の負担であれば、多額の費用がかかります。ですが、税金のお陰でこうして予防ワクチンを受ける事が出来るのです。

その他にも、小中学校での教科書無償配布や高等学校の授業料無償化、道路の整備・補修作業、充実した医療制度や福祉など、身の回りのほとんどのものが税によって支えられています。

日々の暮らしの中で、税とは気付かない内に関わっている物だと思えます。しかし、これらが自分の中で当たり前になってはいけません。当たり前ではなく、税があつて行える事、だという事を一人一人が忘れてはならないのです。税は、私達の暮らしを豊かにしてくれる大切なものです。ですから、税は国民の暮らしを支えるお金と言つて過言でないと思います。納税者として、税金について知り理解を深める事も大切です。まずは、税に対するイメージを変える事が、一つの大きな一歩となるのではないのでしょうか。

「なでしこジャパン・国民栄誉賞受賞」は当然のご褒美だと、誰もが思ったに違いない。

女子W杯の表彰式では、胸を張り金色に輝くトロフィーを高々と持ち上げる姿を見て、思わず「ありがとう！」とテレビに向かって感謝の気持ちを叫んでしまった。きっと選手全員、誇りに満ちあふれていた瞬間だろう。

このような感動的なシーンにめぐり会ふと思ひ出すことがある。それは、納税者への感謝の想いだ。社会科の授業で日本の三大義務を教わり、納税は当たり前のことだと思つていた。しかし今は、特別な気持ちでいる。

今年三月下旬、私は、奥・井ノ上記念日本青少年国連訪問団に参加させて頂き渡米した。ちょうど、東日本大震災後の復興支援を国連が決定したタイミングでもあった。

「世界中の多くの国が、自国の税金の一部を日本復興のために使うことを快諾してくれた。このような世界規模のサポートが得られた背景には、日本が世界における貢献を継続的にしてきたからだ」と、国連職員の方から説明を受けた。日本を応援してくださる世

界中の人への感謝の気持ちと、日本が世界の一員として役割を果たしている誇らしい気持ち、この両方が重なり本当に嬉しかった。

今まで『税』について詳しく知らなかったが、正しい使われ方を垣間見た私は、持ち前の好奇心から興味を抱き、帰国後すぐに調べてみることにした。

国の歳出の0・6%、ともすれば見落としてしまいそうな項目に「経済協力費」が計上されている。これが、開発途上国の経済援助のために使われ、たくさんの国や人を助けてきたと分かった。

同時に、『税金』は形を変えて、いつしか自分たちのところへ返ってくることも知った。私たちの健康や生活を守るための、医療・福祉に代表される社会保障。身近な地域の安全や教育の充実を図るため、地方公共団体や自治体での道路・公共施設の整備など様々ある。

正に『税金』は、幸せな社会をつくるチームワーク（共同作業）の一つだと思つた。そして、その中心メンバーが「納税者」なのだ。汗をかき働いた賃金や、持っている大切な財産などから貴重な税金が納められ、人の助けにつながっていく。更に言えば、私たちの子どもの未来や夢を叶える役にも立っていくのだ。

だから納税は、三大義務の一つと言つても、やはり特別な行為なのだ

気付かされる。言い換えれば、納税している人も、なでしこジャパンのメンバーと同じくらい、誇らしい人たち」と言えるのではないだろうか。

もし私が総理大臣なら、納税者の一人ひとりに「ありがとう」と言いながら、金メダルを渡したい。そして、より良い『税金』の使い道を追求したいと思う。この夢を実現させるためにも、整った学習環境を『税金』が支えてくれていることに感謝しながら、この先も勉強に励んでいきたい。

税とは何か

品川区立富士見台中学校

三年 矢部 嵐 麻

今年三月に東日本大震災があり、多くの町や、村が津波に流され、そして福島原発事故、大雨による水害など、たくさんの人々が厳しい生活を強いられています。テレビなどの報道で他人事のように見えていた自分でしたが、親戚が宮城にいて家が傾いてしまつたり電気もガスも水道もない生活をしていたと聞いて、もし自分がそんな状況になったらと考えさせられました。

復興のために今、国や地方の自治体などが一生懸命になつている中「税金」というものがどのように役立っているのでしょうか。

普段、「消費税は5%」。というくらいしか税金への意識がない僕はこの作文を書くに当たって税についての資料を読んでみました。正直なところ、国の歳出総額が92兆円だとか東京都では6兆円だとか言われても僕にはどのくらい金額なのか全く見当が付きません。そしてその金額の莫大さ故に、国民が所得税、法人税、消費税などの様々な税を納めても、国が必要とするお金の約半分にしかならず、その他半分は国が借金をしているという現実の打開策も当然見当が付きません。一体どうしたらいいのでしょうか。

僕達が生活している中で学校の設備や教材なども税金によって作られ、町の道路や信号、公園の整備など人々が暮らしやすいように、税金は使われているのです。国民の三大義務として、僕達は教育を受け、勤労をして、そして納税するという順番になっているのかと思っていました。が、買い物をした時に消費税を払ったり、病院に行った時に医療費が控除されたりしていることで税金を払ったり時には税金に支えられたりしていることに気づきました。

今回のような大災害が起きた時は、自衛隊の派遣や食材の供給など今までの以上に多くの税金が必要となり、人々の暮らしを元に戻すためにも、それぞれが意識をもって税金の使い方について考えていく必要があると思います。将来僕達が大人になった時、赤字が数

倍に増えてしまっていたらどうなるのでしょうか。そうならないためにも今からしっかりと税についての知識を深めなければと思います。一生懸命働いて税金を納める人もいれば、働かずに楽な生活しながら税金をきちんと納めない人がいたりしてはいけません。どうしたら平等に納税できて国に赤字を減らしていけるのか考え、時代によって変化し改定を繰り返していくことに不満ばかりを言っているとはいかないのだろうと思いました。

増税、税金、昨日、総理大臣が交代して、増税、という話題が更に大きく取り上げられています。僕達国民は、税という仕組みがあること、安全に安心して暮らしていけるということ、そしてその税がどのように使われ、役に立っているのかということを意識しながら国民一人一人が納税できる税の運用ができる明るい国を目指していくべきだと思います。

復興と税

大磯町立国府中学校

三年 大橋 彩里

三月十一日の東日本大震災後、テレビでは連日、被災地の壊滅的な映像が映し出されていた。大型船がビルに乗り上げ、世界一と称された防波堤は打ち砕かれ、町は跡形もない。一万六千

人もの尊い命が奪われ、今だ四千人の行方がわからない。ガレキの山で埋めつくされた町で、帰る家も仕事場も家族さえも失った被災者の重い現実、私は言葉を失った。

千年に一度の未曾有の災害に襲われた日本は、復旧、復興に向けての基礎となる財政について考えなければならぬ。

私の暮らしを見回せば、当たり前すぎて見過ごしがちな日常の様々な所で、税が活かされている事に驚く。一人一人の小さな納税の力が、大勢で共有できる国民の財産として生まれ変わり、私達に還ってくる。こうした税の役割によって、安心で安全な生活を送る私達は、便利で恵まれた環境の中にある。

しかし、被災地では、この当たり前の日常を失い、暮らしが立ち行かない現状に陥っている。被害があまりに甚大で、復興には莫大なお金がかかるだろう。今、被災地は「待ったなし」の現況に立たされているのだ。

大勢の被災者の為に私達が復興に向けて出来る事は、助けを求め差し出された手を受け止める心意気を、はっきりとした形で示す事ではないだろうか。その一つの方法が、増税により日本を復興させる事だと私は考える。

しかし、今日本は財政赤字を抱え、震災の影響もあり、景気が低迷している。このような厳しい経済状況の中、増税に踏み切れば、国民は負担が増

え、苦しい現実を受け入れなければならぬ。増税に反対の意見が多い事も理解出来る。

けれど、この問題を先延ばしにすれば、今後日本を担う子供達の未来さえ、輝きを失ってしまうだろう。今、被災地の子供達は教科書や文房具、楽器やユニフォームを流され、笑顔を見失っている。私と同じ受験生も、志望する学校での生活を夢見て、不自由な環境で一生懸命努力しても、学校再開の見通しが立たず、未来図さえ描けずにいるのだ。将来、復興の担い手となる彼らだからこそ、税の力を注ぎ夢を育てる環境を整える事が先決ではないだろうか。私は、彼らと同世代を生きたる仲間として、復興までの険しい道のりに寄り添い、苦しみを分かち合いたい。だから、復興の為に増税する事に賛成だ。大切な税が、無駄なく、納得のいく事に使われるなら、国民の理解もきつと得られるはずだ。

ガレキの中から思い出のアルバムを収集する自衛隊員の言葉が印象的だった。

「私にも家族がいて、とても大事な事とは思えない。みんな自分の家族と違ってやっています。」こんな風に、日本人は本来、相互扶助の精神を魂の根底に持ち、自らその姿勢を示せる民族だ。日本という船に乗る、国民全てが乗組員。増税という苦しみを分け合い、支え合い、一緒にこの危機を乗り越えていきたい。

「ふるさと」を守るために

川崎市立高津中学校

三年 篠原梨菜

税金——。あなたは、それがどのような役割を持っているか知っていますか？税金は、社会保障制度を充実させたり、国を運営したりするための資金として使われていますが、実は、税金の役割はそれだけではないのです。

ある日、私はニュースで「ふるさと納税」という言葉を耳にしました。どうやら自分のふるさとに寄付をすることができるといふ制度のようでしたが、どんな方法でそんなことをするんだろう？と思い詳しく調べてみることにしました。

ふるさと納税とは、自分の住んでいる自治体に収める住民税の一部をふるさとに寄付金として納めることができるという制度です。「ふるさと」には、生まれ故郷だけでなく、愛着のある町や、自分が寄付したいと思った町なども含めます。そのため、場所を限定されることなく、寄付したいと思っただけには何度でも寄付することができず。これは、人口の少ない自治体と人口の多い自治体との税収格差をなくそうという試みの中始まった制度ですが、ふるさとから都会に出てきて、自分のふるさとに何か貢献したいと思う

人が多いことを表していると思います。

また、寄付のお礼として地方の特産品を贈る自治体も多くあります。地元の野菜や果物などはもちろん、中には奈良県大和郡山市の金魚、大阪府貝塚市のバレーボールグッズなど地域の個性あふれるものもあります。私が生まれた北海道では、オホーツク海の流水を贈るところもあるそうです！どれも、その町の人々が誇りを持っているものばかりで、調べていくうちに、町を大切に思っている人達の「ふるさと愛」が伝わってきました。

「人々が大切にしているその町は、いったいどんなところなのだろうか？」

私は、たくさんの「ふるさと」を訪れてみたいと思うようになりました。そして、その気持ち、ふるさと納税が生み出す、地域の人との心のふれあいのかなと思いました。

東日本大震災のあと、被災地にはふるさと納税による寄付金が集まり、その額は前年の約六倍になっているそうです。あの町の助けになりたい、自分の税金を復興の資金としてほしいと思う人々がふるさと納税を利用しているのです。ふるさと納税が生み出す、国民の心の輪は、今この瞬間も広がっています。

税金は、私たちの暮らしをより良くしてくれるものです。その役割は、決して国の資金となることだけではな

い。ふるさと納税のように、国民の私たちが、日本という大切なふるさとをより良くしていくための大きなつながりだと思おうのです。

だからこそ、私たち国民はきちんと税を納め、同時にその在り方を見つめていくことが大事だと思います。日本というふるさとを、これからも大切にしていきたいために…。

「税について考えたこと」

木更津市立太田中学校

三年 山内瑠衣

税といえば消費税、これしか浮かばない私でしたが、昨年我が家が家を新築した事により両親すらも知識のない税金とかわることになりました。

まず、新しく家という財産を持つことによる固定資産税、土地を購入した事に伴う不動産取得税、登記の際の登録免許税、そして工事の契約書や住宅ローンの書類には必ず印紙というものが貼られ、それは印紙税として国の収入になっていくそうです。驚く事に戻ってくる税金もありました。住宅ローン残高の1%を国が補助してくれる住宅ローン減税や不動産取得税の軽減措置などです。この様に私達の生活は、こと細かに取り決められた税金の法律により納税の義務と恩恵が交錯し

ている事を知りました。そこでみんなの税金はどのように使われているのか、身近なところから調べてみました。

国や地方公共団体が私達中学生に負担している一年間の教育費は一人当たり約九十五万七千円！市がゴミ処理にかかる国民一人当たりの金額は約一万六千円！この金額を聞けば毎年配布される新しい教科書のありがたみを痛感しましたし、ゴミの処理を個人でするのは大変な事です。国民みんなでお金を出し合い豊かな社会を作りあげる構図をかいまいたと思います。

でも、国に入ってくるお金、約九十二兆円のうち四十兆円が税金、残りは国の借金だと知りました。なんと半分以上が借金なんて大変な事です。私達の未来に不安を感じずにはいられません。昨今、消費税の増税が騒がれています。目先の出費にとらわれがちですが私達が健康で豊かな生活を送るため、しっかりとした将来的ビジョンで望めば必要な事ではないかと思えてきました。

税金を納める事は大変な事だと思いますが税金によって私達が守られている事を目の当たりにしたのは東日本大震災でした。被災者を救ってくれた自衛隊の方々、被災地に送られる食料や衣服の救援物資など個人の力で可能な事は少なかつたと思われれます。税金に支えられる私達の生活に感謝することができました。

この未曾有の震災復興のために復興税の導入が取沙汰されています。経済不安定の情勢の中、円高の問題も加わり難しいのは理解できます。しかし、テレビから流れる映像には今だにガレキの山があります。私はあのガレキの山を取り除かなければ被災者は前に進めないと思うのです。ならば国民全員、復興税という形で助け合い日本の復興のために力を合わせたいと思うのです。

このように一人一人が税について真剣に考えることが私達の豊かな未来に必要なと思います。納税者である私達は正しく税金を納め税金の使い道にも十分関心を持ちたいと思いました。

僕達の生活を支える税金

旭市立飯岡中学校

三年 馬 淵 智 崇

「復興増税法人・所得税で」今日の新聞の一面の見出しだ。東日本大震災の復興財源などを確保するために行う臨時増税についての記事だ。

今、日本は三月の震災で受けた災害からの復興に向けて国を挙げて取り組んでいる。僕の住んでいる旭市も震災により大きな被害を受けた。親戚や近所でも津波で流されたり、家が壊れたりして大変な思いをしている。家や車

など今まで築いてきた財産も失ってしまった。避難所では、助け合い、励まし合った。たくさんの人達が災害援助にかかり、休日を返上してボランティア活動をしてくれた。しかし、震災以前の生活に戻るためには、たくさんのお金が必要となる。善良の募金や支援助資がいろいろなところから届けられているが、復興には国や地方の援助も必要不可欠である。行政機関の行う復興支援に使われるお金は、国民からの納税による税金によって賄われる。

僕は、今回の震災によって改めて税金について考えさせられた。税金によつてさまざまな公共サービスが提供されていたことは「租税教育」や社会科で勉強していた。税金によって行なわれているものには、みんなの重要な交通手段となっているコミュニティバスや道路の整備、ごみの処理などがある。僕たちが快適で安心してすごせる環境が成り立っているのは税金のおかげであるということが勉強していく中でわかり、とても大事なものだと思つた。

しかし、今回の震災では、税金の大切さがより一層身近なものとして感じた。災害からの復興には莫大なお金が必要となる。それには、税金が使われる。でも、今ある税金ではとても足りない。もつともつとたくさんのお金が必要になる。どうすればいいか。そこで考えられたのが、最初の見出しに

よる記事である。法人税と所得税を増税することで財源を確保しようというものである。法人税は、企業などの払う税金であるが、所得税は僕たちの親や働いている人たちが納める税金である。納税の義務のある国民一人一人が復興に向けて貢献していくのである。僕の住んでいる町は海浜にある。海岸沿いは、津波に家が流されたり壊れたりして建物がなくなり、スカスカになつてさみしそである。早く元に戻つて活気のある町になつてほしい。増税は、五年間と十年間にわたるものと二案あるということだ。どちらになるかわからないが、もし、十年間の案になると僕も納税者になつていくことだろう。僕も納税をとおして、再興にかかわつていけるかもしれない。

税金は、助け合いであると思う。みんなでよい環境を築き上げ、安心して心豊かに暮らせる生活を保障するものである。大事な税金を納めてもらつていふことへの感謝の気持ちを忘れないようにしたい。

暮らしを守る豊かな税

甲州市立塩山中学校

三年 厚 芝 も え

私は果樹王国と言われている山梨県に暮らしている。今は丁度桃やスモモの最盛期だ。私の祖父母も果樹農家

で、毎年おいしい果物をたくさん作っている。

しかし今年はいつもの年と違う。それは祖父が農作業中の事故で首の骨を折ってしまったからだ。幸い命に別状はなく、少し残ったマヒもリハビリで何とかなるということに安心した。

一人残った祖母は車の運転ができない。出荷を目前にしていた果物も、ほとんどのものをあきらめなければならぬ状況になつてしまった。祖父も祖母もとても悲しく、悔しかったと思う。

収入が絶たれた祖父母の家は、高い手術費や治療費で、大変だろうと思つた。しかし祖母は「医療保険のおかげで病院への支払いも何割かの負担で済むんだよ。」と言つていた。首を固定する器具も手続きをすれば後でいくらかのお金が戻ってくるということに、安心した。医療費には国の税金が使われているという。もしこの制度がなければ多額の負担を強いられ、本当に大変なことになつていただろう。

こうして考えてみると、私達の身の周りにはたくさんのお金が税金でまかなわれていることがわかった。私達が通っている学校や当たり前のようになっている教科書、町の中にある道路や公共施設も税金で作られている。私がジュースを一本買うのに払っている消費税も、巡り巡つてきつと何かの役に立っているのだろう。私は小さなことでも社会に貢献できていると思ひ、

うれしくなった。

しかし近年では少子高齢化が急速に進み、税金を納めるべき年齢層の人がどんどん減ってきている。二十一世紀半ばには六十五歳以上の割合が二・五人に一人というから驚きである。納税者の人口が減るということは、それだけ世の中の質が低下することにつながる。そうなるなら祖父のような高齢者が、果たして安心してお医者さんにかかることができるのかと心配になる。現に祖父の地域では今年になってから農作業中へのけがをした高齢者が、祖父で三人目だというのだ。

これからますます高齢化が進む世の中で、安心して暮らせる社会を作るためにできることはたくさんあると思う。納税者は正しく税金を納めること、医療や福祉、また日本の食を支えている農業の分野にも十分な税金が使われるような仕組みを確立することだ。消費税を上げるといふ議論もあるようだが、未来ある子ども達が老後に不安を抱えることなく生活するために、私達中学生は税金についてもっと関心を持ち、勉強していくことが重要である。そして税金を、私の大好きな果樹王国であるこの町の多くのことに有効に使ってほしい。

消費税から 未来の日本を考える

金沢市立大徳中学校

三年 東海林 雄 太

私たち日本国民が払っている税金の中で、最も身近で分かりやすいのが消費税だ。消費税は大人から子供まで、どんな人でも買い物をするれば、決まった割合を払わなければならない。そして最近、この消費税を増税するという政策について、ニュースなどで話題になってきている。私はこの政策に賛成だ。なぜなら、現在の日本は深刻な財政危機にあり、少しでも多くの収入が必要であると考えられるからだ。

消費税を少しでも高くすれば、国の収入はとて大きく増えると、あるテレビ番組で聞いたことがある。その通りだと思った。日本には一億人以上の人がいて、だれでも買い物をするには生活できない。一人一人の小さな負担が、国全体では大きく影響する。

また、次のようなことも考えられる。消費税は、冒頭でも触れたように、大人だけでなく子供も払わなければならない。このことから、消費税を増税すれば子供が政治への関心を高めるよききっかけになるかもしれない。例えば、ある子供がお菓子やマンガを買うためにコンビニへ行くとする。そこへよく行っている子なら、値段が上

がっていることに気が付くはずだ。そして知りたがりやの子であれば、なぜだろうと疑問に思い、だれかに質問することだろう。そこから、税金は他にどんなものがあるか、国の財政の仕組みはどうなっているのかなど、政治に興味が出てくる子もいるだろう。このように、一生懸命学び考える子供が増えれば、何十年か後の日本は財政危機を乗り越えられるかもしれないのだ。

しかし、消費税を増税すると、物価が高くなり、景気がますます悪くなるのではないかと考える人もいるだろう。これは、政府が国民を説得するべきである。日本は現在財政危機で、これを乗り越えるためには国民全員の力が必要だという意識を浸透させるのだ。そうして大勢の国民が、日本のためになるような消費生活を考え、実行していれば景気は良くなると思う。

現在の日本は、ずっと前から不況で、その上に東日本大震災、原発の事故もあり、借金はふくれ上がる一方だ。この財政危機を乗り越えるためには、政府と国民がそれぞれの役割をしっかりと果たすことが大切だ。政府は税金の無だ使いをできるだけ減らし、借金をどう返していくかを考える。国民は、一人一人が日本人としての自覚を持ち、積極的に政治へ参加していくべきだ。そして私は、これからもっと勉強して日本の未来について考えていきたい。大人になったら頑張って働いて税金を払うことはもちろん、日本のた

めになるようなことを実行していきたい。

税という制度

小松市立芦城中学校

三年 辻 本 理 佐 子

「百円ショップなのになんで百円なんだろう。」

小学生の時のこの疑問が、今から振り返れば、私の初めての税との対面だったかもしれない。

今年の一月の終わり頃、一通の封筒が届いた。送り主は私が住む小松市の「小松すこやかセンター」。宛名は両親のどちらでもなく私だった。少し不思議に思いながら封を切ると、子宮頸がんワクチン接種の案内と接種券、予防票が入っていた。

「また予防接種？面倒だな。」

それが私の正直な気持ちだった。子宮頸がんとは、日本で年間約一万五千人が発症し、約三千五百人が死亡しているがんのこと。これは女性特有のがんにおいて、乳がんが続く第二位である。ワクチン接種によって子宮頸がんの発症を約七十パーセント予防できるといわれている。今までは任意の予防接種であったが、高額な負担になるため、市が費用を助成するという内容が書かれていた。

考えてみれば、薬とはかかせないも

のだ。しかし、安いものではない。その薬を私たちが使用できるのは、税金が一部負担しているからだ。もし税という制度がなければ、私たちは必要な薬を高額すぎて手に入れることができなかつたかもしれない。私が子宮頸がんを予防できるのはこのワクチンのおかげで、私がこのワクチンを接種できるのは間違いなく税金のおかげだ。そもそもこのような便りがなければ、子宮頸がんもそれを予防するワクチンの存在も知らなかつた。

医療関係だけではない。私たちが勉強をできるのは、学校があるから。安心して過ごせるのは、警察や消防署があるから。水を毎日使えるのは、上下水道が整備されているから。それらはすべて税金によってつくられている。日頃当たり前だと思っているサービスや予防接種に対してもっと感謝しなければならぬと思った。

税は、支えあつて生きていく人間の社会にかかせないもの。人と人が助け合うための架け橋なのだ。

百円ショップではらう「五円」も、これから誰かのためになる、社会に役立てられる、有意義な「五円」であることを忘れずにいたい。

生きるための税

大府市立大府北中学校

三年 伊藤優花

今、私は税金に感謝しています。税金は、私の目を救ってくれました。

私は幼い頃から、十年間「カポジ水痘性発疹症」という目の病気と戦ってきました。初めて発症したときは失明する寸前のところでした。感染する病気のため病室は個室になり、目も開けられず家族の顔すら見ることができませんでした。振り返ると、この十年間何度も検査を行い、たくさん薬をもらいました。苦しい記憶と同時に、母から見せてもらった請求書の金額が今でも目に焼きついています。

私の目の病気を治すには多くの薬が必要でした。支払ったら一本五千円以上もするチューブの塗り薬や、お金のかかる検査。長い年月を経て、想像できないほどの金額になっていたと思います。

私は、よく両親と医療費の無償化について話をします。両親は、「もし医療費がかかっていたら大変だったよ。本当に助かった。」と言います。もしかしたら今、こうして笑って生活できる環境ではなかつたかもしれません。私は、お金の重みを知りました。そして、初めて医療費の無償化について知りました。

私の住む大府市では、中学三年生までの子供の医療費が無償になる制度があります。大きな手術、入院、治療費を一部サポートしてくれるのです。私は、一体誰が代わりに払うのか疑問を持ちました。そこで、母に聞いてみたところ、本当なら私たちが支払わなければならぬ負担の分を税金で賄ってくれていることが分かり、とても驚きました。病気を治療するということは当たり前ですが、検査をしてもらい、治すための薬を処方してもらわなければ治りません。省いたり、やめることができないということです。それがどんなに高額になったとしても、家族がそれを負担するとなると、収入の大小で医療を受けることができず、収入の大小で医療を受けることができる人とならぬ人が出てくるということになります。私は、家族のような「支え」という存在が、「税金」でできていることを知りました。「支え」があるから、みな平等に安心して治療に専念できると思うのです。

今まで私は、税金は「とられる」ものだと思ってきました。つねに損をした気分だったので。しかし、今は逆だと思っています。税金を私たち国民が納めるからこそ人は、支えられて生きていくことができるのです。

病気は、ある日突然身に起こりそこには多額の費用が必要になります。私たちが日頃納めている税金は、そのための貯金だと考えることができると思います。私が大人になった時に

は、納める税金が多くの子供の医療費として使われることを願っています。そしてまた、医療費の他にも学校や街中を見回すと、税金に支えられているものにあふれていることにも気づきました。税金は、私たちが生きていくために必要なものなのです。私は、感謝の気持ちでいっぱいです。

命と暮らしを守る 税の大切さ

河津町立河津中学校

三年 山本美彩子

ヘリコプターの飛来音が急を知らせている。

「また、誰かが運ばれていくねえ。助かるといいけどねえ。」

私の家からは、ドクターヘリの離着陸の様子を見ることが出来る。ドクターヘリを見るたびに、運ばれていく患者さんの容体や命が心配になる。と同時に医師が乗り込んで救急現場に直行するドクターヘリの有難さも実感する。

静岡県には、二機のドクターヘリが就航している。拠点となる救命救急病院から医師を乗せて、県内ほぼ全域を二十分以内でカバーできるそうである。ドクターヘリは、二〇〇一年から一都道府県に一機の就航を目指しているが、残念ながら、昨年度までに一道一府十五県でしか就航していない。こ

のことを知ると、私の住んでいる静岡県は、救命医療の面から見れば、恵まれている県であるように感じられる。ドクターヘリを導入すると、救急要請から治療開始までの時間が、救急車の場合の約半分で、また、亡くなる患者さんも約四割減らすことができるのだそう。こんなに良いことがあるのに、私は、なぜほかの県がドクターヘリを導入しないのかと疑問に感じた。調べてみると、ドクターヘリの運営には、年間約二億円の経費がかかるということや、その経費は、国と都道府県の折半だから財政上の理由で導入に至らない自治体があるということが分かった。ドクターヘリの導入を遅らせている要因の一つが、経費の面だと知ったとき、私たちの税金はどのように使われているのだらうと興味を持った。

税金には、多種多様なものがある。父母たちが納めている所得税や住民税。私も納めている消費税。そのほか、ガソリン税やたばこ税など私が知っているもの以外にもたくさんある。たとえ、一人一人が納める金額は少なくとも、それを集め、有効に使えば、ドクターヘリのような大きな事業も可能となるのだ。私たちの生活を守り、より豊かなものとするためには、納税者の一人として、税の使われ方にも目を向けていく必要があると感じた。

しかし、最近の報道で、納税者の中

には、故意に滞納をしたり、納税の督促が来るまで払わなかったりする人がいることを聞いた。このような行為は、社会生活の中で持つ税の意味や役割を理解していかないばかりでなく、国民としての義務をも果たしていないのである。そこで、一人一人の国民が、納税の意味を理解し、明るく安全な社会と安心して豊かな未来を作るために、今こそ税について再認識する必要があると思われる。

ドクターヘリに限らず、町の中を見渡せば税金によって作られたものがたくさんある。学校、図書館、道路、警察署、消防署…。税金という視点で町を見直せば、見慣れた風景も我々国民にとってかけがえのないものに見えてくるに違いない。

父の給与明細

長泉町立長泉中学校
三年 小野田 春 奈

「税金」と言えば、消費税はすぐに思いついたけれど、他にはどんなものがあるんだらう？学校でもらった資料を見てみると、所得税、法人税、相続税、贈与税…など、いろいろな税金の種類が挙げられていたが、どれも私にはなじみのないもので、説明を読んでどうもピンとこない。

そんな私に、母は父のお給料の明細

書を見せてくれた。その「控除」の欄には「所得税」「住民税」という項目があり、私からすればびっくりするような金額が書かれていた。

「毎月こんなにたくさん税金を払っているんだ！」と驚く私に、母がさらに見せてくれたのは、固定資産税や自動車税の納税通知書だった。マンションや車を持っていることにも税金がかかっている…。父が一年間にこれだけの税金を納めているということ、私は今までまったく知らなかった。

では、こうして父が納めた税金はどのようなことに使われているのか。調べてみると、教育費や健康福祉費、警察費など、私の身近なところでたくさん使われていることがわかった。確かに、教科書は無料で支給されるし、私が住んでいる町では中学三年生まで医療費は無料だ。でも、それらが税金でまかなわれているということに意識することはなく、当たり前のごとくのように考えていた。私は自分がこれまで税金についていかに無関心であったかを痛感した。

父の給与明細を見て、もう一つ感じたことがあった。それは、父はお給料の中から税金や社会保険料などいろいろなものを払った上で、さらに私の塾やピアノなどの習い事にずいぶんたくさんのお金を出してくれているのだ、ということだ。

「そういうことに使うお金はなくなっ

てしまうものではなくて、あなたのためになっっているのだから、もったいないとか惜しいとは全然思わないよ。」と母に言われ、私は、習い事にお金を出してもらっていることに對して感謝の気持ちを忘れず、なまけたりせず、きちんとやらなくては…と改めて思った。

税金も何かこれと似たところがあると思う。税金によってもたらされているものやサービスは父や他の人たちが一生懸命働いて得たお金から出されているものなのだということを忘れてはいけないと思うし、そういうお金だからこそ無駄に使ってほしくない。私たちは税金についてしっかりと関心を持たなくてはいけないと思う。

いつか私がお給料をもらうようになり、給与明細で税金が引かれているのを見た時には、もったいないとか損をしているなどと思わず、それまで税金の恩恵を受け取るばかりだった自分が税金を払える立場になったこと、そして自分が働いて稼いだお金が世の中のために使われることを喜べるようになると思う。

権利の為の義務

学校法人大谷学園大谷中学校
三年 塩 田 千 紗

これまで、何か税金というと大人に

関するもので、消費税を除くと私達には無関係のように思っていた。しかし税金について調べてみると、大人よりもむしろ学生である私達の方が、より多く税金に支えられているという事がわかった。

税金というと『日本国憲法 第三十条 納税の義務』から考えても、どうしても『義務』という意識が強く、歴史的に考えても、『年貢』など、とられるイメージが今でもつきまとっているように思われる。確かに税金は、どこに使われているか実感が薄く、又、『血税の無駄使い』という言葉もよく耳にする。しかし私達が、日常当然のように受けている公的サービスはすべて税金によってなされているのである。警察・消防・ゴミ収集・福祉など、身近すぎて意識しなくなっているが、これらはすべて安全に安心して生活するために本来に不可欠なものばかりである。私の祖母は何年前に倒れた事があり、又、隣の家が火事になった事もある。もちろんその時は、すぐに救急車や消防車がかけつけて下さったので、どちらも事なきを得た。しかしこれも、税金によってなされている公共サービスでなく、個々がその時々申し込んで受けるものだとすると、とり返しつかない事になっていくかもしれない。

公共サービスや公共施設が、みんなが平等に受ける事ができる公共のものでなくなったり、税を納めた人だけが

受けられるものになったらどうだろう。先程の病気や火事の場合もし隣の人や消防車を呼べなかったら火事は燃え広がってしまうだろうし、救急車や消防車を呼ぶ時、税金を納めた人の家の周りだけの道路が整備されていて、他の所の整備がされていなかったとすれば、救急車や消防車の到着は遅れ、手遅れになってしまうとも考えられる。道路も公園も学校も使う人だけでは成り立たないし、ゴミ収集も全体で行われなければ、衛生環境も保たれない。

よく『権利と義務は背中合わせだ』と言われるが、私達の持つ『健康で文化的な最低限度の生活を営む権利』は、私達が、安全に安心して生活するために自分達でもちよったお金である『会費』すなわち『税金』で支えられているのであるから、まさしく、表裏一体と言えるのではないだろうか。

今年日本は、東日本大震災という未曾有の災害にみまわれた。五ヶ月を過ぎた今でも、ニュースで、今だ避難所生活の人々や、整備には程遠い被災地の映像が写し出されている。その上、様々な原発の問題も抱えたままである。これらの問題を解決する為にも、公共の為に使われる税金の意味を今一度考え、国民一人一人が納税の義務を果たさなければならぬ。そうして集められた『会費』を、国や地方の枠を越えて有効利用し、一日も早い復興につなげていってほしいと思う。

増税と私たちの暮らし

京都市立西京高等学校附属中学校
三年 下田 舞

あなたは国民にとって最も身近な消費税の増税について、どう考えていますか。私は賛成です。「増税」と聞くと私たちの負担が増え、五パーセントの増税でも大変そうに感じますが、果たして本当にそうなのでしょうか。私は消費税率二十五パーセントのデンマークと日本を比較して、増税のメリットについて考えることにしました。

デンマークはすぐれた福祉国家として知られています。デンマークでは誰もが無料で病院の治療を受けることができます。入院や出産も含めて一切お金がかからないのです。また、学校の学費は大学に至るまで無料のため、すべての子供に平等な教育の機会が与えられています。日本では私たちの税金がどこに活用されているか、デンマークほど身近に感じることはできません。増税により私たちの生活の負担が大きくなりますが、それ以上に全ての人の幸せが実現され、税の使われ方が明確になると言えるでしょう。

私がデンマークの福祉で最も注目したのは、高齢者福祉です。デンマークの高齢者福祉最大の理念は「可能な限り在宅」です。デンマークでは在宅福

祉がとても充実しており、必要とあれば二十四時間介護を受けることも可能です。在宅福祉の充実にはサービスを提供する側にもメリットがあります。老人ホームなどの施設は維持に多大な経費がかかります。在宅福祉なら人材は必要ですが、維持すべき施設がないので費用削減に役立ちます。

日本は「子ども手当」という政策から分かるように、子どもを増やそうとする傾向があり、高齢者に対しては「年金」で済ませてしまっているイメージがあります。確かに、子どもを増やさないと日本の将来が危険だと思います。しかし、高齢者が増えている今、増えてきている人たちの幸せをサポートすることも大切だと私は思います。

例えば、最近「高齢者マンション」というものがあるのを知っていますか。食事や医療支援、介護が整っており、仲間たちと楽しめる共用空間もある施設のことです。バリアフリーで高齢者にとってはとても快適なのですが、値段が高いということもあり、あまり利用されていません。だから、税率を上げて福祉に力を入れるなら、高齢者マンションを増やし、入居の費用はどんな人でも払える値段まで下げたいと思います。デンマークにも高齢者センターという住居があり、入所費は個人の手元に二・三万円の小遣いが残るようになっていきます。

このように、増税にはたくさん

リットがあります。しかし、現実ではこれらを実現するのに多大なお金がかかるのも事実です。増税をしたとしてもすぐに日本の福祉が改善される訳ではないでしょう。でも、一人一人が払う税金は国民全員の生活の改善につながっています。税を払うということは国を通して全国民を幸せにできるんだと思います。

「心が一つになった瞬間」^{とき}

甲陽学院中学校

三年 藤原 遼

3月11日、未曾有の災害が発生した。阪神北区に住む僕達にとって地震は身近な存在だが、東日本大震災の、それをも超える被害の大きさに言葉を失った。津波は沢山の大切な命と共に建物や町を流し去ってしまった。自然災害の脅威と人間の無力さに体が震えた。科学技術の発展の賜とも言える原発は、皮肉にも人々や農林水産物に被害をもたらす想定外の事態を招いた。

家族や友人、家や全てを失った被災地の方々、日本全国が悲しみに包まれた。被災地へ赴く人、励ましの声と共に食品や衣類が届けられた。「今、僕達にできること」、誰もがそう考えた。僕達の心はこの時一つになった。皆の心に温かな気持ちたちが宿っていたが、でもこれだけでは被災地は救えない。

い。被災地には燃え上がる炎を消す消防隊員の姿や命を救い出す自衛隊員の懸命な姿があった。がれきと化した町での撤去作業や再建には多大な人員と費用がかかったに違いない。こうした国の労力や資金が税金により賄われていることを僕はこの時初めて認識した。税金がなかったら被災地は救えないのだ。

僕達は普段、「消費税が付く」とか「税金がかかる」という表現を耳にする。震災後、被災地へ税金が投与される事を思い、これが筋違いの不適切な表現だと気付かされた。税金は国の貯蓄、備えであり国民の生活を支え、守る必要不可欠な財源であるのだ。

僕はアメリカで生まれた。母は妊娠中、切迫早産になり、医師から未熟児出産の場合は個人では負担できない位の莫大な費用がかかるという警告にも似た説明を受け、不安な日々を送ったそう。僕は幸い母胎に留まり、事無きを得たが、日本で生まれていれば医療費の大部分の負担ばかりでなく、早産の場合には国が保障までしてくれるそう。税金は僕達の生活を陰で支えてくれている大切な存在である。

政治が揺らぎ、不況で国の格付けも下がったが、「震災後略奪も起こらず、秩序や冷静さを失わない日本人」と海外メディアで称された。僕は日本人の一人である事を誇らしく思った。戦後、日本は豊かな生活だけでなく、豊かな心をも培ってこられたのかも

れない。記憶に新しいイギリスの暴動は失業や格差への反発から起こったという。いつ何時、誰もが苦境で弱者となり得る可能性がある。

私達は今まで教育や医療や生活など、あらゆる面で国から支えられ、安全で安心できる社会で生活を送ることができた。日本は少子高齢化という問題に加え、今後震災復興へ向け大きな課題を抱えている。そのための増税も計画されている。こんな苦境だからこそ社会人になった時、僕はこの国を支える力になりたい。納税という形で社会貢献の第一歩を踏み出したい。豊かな日本を守り維持していくためにも。

『税』について

下市町立下市中学校

三年 谷口 明花

二年生の職場体験の時、「何故、(仕事)をするのか?」と、身近な人にインタビューしてくるという宿題が出ました。私は、父に「お父さんは、何のために仕事をするの?」

と聞きました。すると、父は、「奈良県に住む人達が、安全で、安心して快適な生活をするためや...」と、笑って答えました。父は、奈良県の道路の仕事をしています。車で出けると、

「この道出来て、ずいぶん便利になったんやで。いままでは三〇分かかってたのに一〇分で行けるようになったんやで。」

などと、よく話してくれました。この様に、人々の生活を便利にしてくれるお金は、みんなからの税金によるものです。税金には、色々ありますが、その一つとして最も身近なものが、消費税です。例えば、スーパーで買い物しても、その一つ一つにかけられている税なので、小さい子からお年寄りまでと、みんなが支払わなければならぬ税金です。この消費税は、世界百カ国以上で導入されている様ですが、国によっては、食料品には消費税をかけていない国もあり、母に聞く

と、「食料品とか生活に必ず必要なものは、税はかけないで、ぜいたく品などを高い税率にしたり...色々、国によって方法が違うらしいよ。」と、教えてくれました。

税の事は、難しくよくわからない事も多いけれど、社会の授業で、「税金を納める事は、国民の義務である。」

と、習いました。そして、その税金で、道路が便利になったり、私たちの学校教育に使われたり、ゴミの処理に使われたり...と、私達の生活を支えてくれています。

特に今は、東日本大震災もあり、税金が多く被災された方々の役に立つ

ています。今も尚、避難所ぐらしをさ
れている方々の生活を守るために使わ
れたり、また、津波によって壊された
多くのガレキの処理や街の復興のため
にも税金は使われています。私は、一
日も早く東北の人々が元通りの生活を
取り戻せるように心から願っています。

そして、私も色々、税金によって助
けてもらっています。それは、私には
障がいがあり、車イス生活を送ってい
るからです。学校では、特別に介助の
方をつけてもらったり、毎日の暮らし
については、病院にかかる費用や車イ
スなどの器具の購入費などに助成を頂
いています。本当にありがたいと感謝
しています。

このように、税金はみんなの暮らし
を守るために使われているため、その
ことをいつも意識しなければならな
いと思います。また、税金の無駄遣い
にならないように、私達はしっかり見守
らなければならぬと思います。将
来、私も次の世代の方々の力になれる
様、ちゃんと税金を支える大人になり
たいと思っています。

町の文化財

太地町立太地中学校

三年 寺 本 安 那

私は小さい頃から父と母の姿を見て

きました。私の両親は公務員です。父
は隣の役場で、母は地元で保育士を
して働いています。

私はこの夏休みに町の役場で職業体
験をさせていただきました。役場には
たくさん課があり、様々な仕事をし
てくれているんだと知りました。私は
太地町の文化財の見回りに参加させて
もらい、「夫婦イブキ」というイブキ
の木に肥料をまくお手伝いをしまし
た。夫婦イブキは、樹齢三百六十年余
りの大きな、堂々とした木です。きび
しい潮風に吹かれながらもしっかりと
大地に根を張り、たくましく成長して
いく姿に多くの人が勇気づけられたこ
とでしょう。役場の人達がこのように
文化財の維持、保存して下さっている
からこそ、今もかわらず雄大で活力が
あり、生き生きしているんだと思
いました。太地に住んでも知らな
かった文化財がたくさんあり、これか
らはもつと自分の町に関心を持ち、あ
たり前の風景ではなく、その一つ一つ
が、多くの人々の力によって大切に保
護されているんだと感謝の気持ちをも
たなければならぬと思いました。

私の父は、「お父さんはみんなから
頂く税金を大切にしたい」とよく私に
話してくれます。休みの日でも、夜中
でも、父は台風や地震、天候が悪くな
ると、すぐ町の安全のためにダムの様
子を見に行きます。私は職業体験を経
験し、改めて父のことを誇りに思いま
した。そして同時に、一人一人が汗水

を流して払った大切な国民の財産であ
る税に対して、深い感謝の気持ちで一
杯になりました。税金のおかげで、両
親も働くことができ、皆が豊かで健康
的な人生を送れ、歴史や伝統も大切に
守ることができているのです。

私はこんなにも身近なところで税金
が私たちの生活を支えてくれていること
に気がつきました。ゴミの処理、医
療、消防、警察、教育など、税金は他
にもたくさんの方に役に立ってくれて
いることも分かりました。私達が生き
ていくためには、税金はなくてはなら
ないとても大切な存在なのです。いま
で、遠くに感じていた税金は、実は直
に私達の毎日の生活にひびいてくるも
のなのです。私は将来、税金を喜んで
払える人になりたいと思います。税金
を払っていない人達もいることも今の
現状です。私達の暮らしに還元してく
れる税金を国民のみんながきちり納
めることができたなら、豊かな社会に
なると思います。

夫婦イブキは今日もがっしりと手を
組み合うようにお互いを支えあい、海
から運ばれるさわやかな風と共に、私
達に勇氣と安らぎを与えてくれていま
す。これからも、このすばらしい光景
が続くことを願ひ、私自身もしっかり
と成長していきたいです。あの夫婦イ
ブキのように。

税から学ぶ 感謝の気持ち

滋賀県立水口東中学校

三年 田ノ岡 優 紀

私たち中学生は朝、綺麗な道を通
り、学校へ行き、授業を受けます。そ
して、授業を終えるとまた、綺麗な道
を通って家へ帰ります。はたして、こ
のような毎日の繰り返しのおかげで、私
を感じたことがあるでしょうか。私
は、その「当たり前」のなかで、税を
実感したことなど全くありません。
きつと、多くの人たちが私と同じ考え
だと思っています。しかし、気付いてい
なだけで、私たちは毎日、税のお世話
になつていたので。

税金、その言葉を聞くだけで、難し
そうに思え全く興味などなかったもの
を、学ぶきっかけとなったのは、社会
の授業のなかで行われた租税教室で
す。知っている税の種類を挙げてみる
という時間に、私は一種類しか思いつ
くことができませんでした。しかし、
授業が進むなかで、税金がどれだけ私
たちの暮らしを支えているか学んでい
くことができ、知識も関心もなかった
前までの自分が、とても恥ずかしく
なっていました。

学校で授業が受けられること、綺麗
に舗装された道を通ることができるこ
と、ゴミを捨てる処理されること、

さまざまな号と税金

大津市立青山中学校

三年 中 村 友 美

などは私にとって気に留めることもない、当たり前存在です。しかし、税について学び、自分にどれだけ感謝の気持ちがあったかが分かりました。毎日、笑顔でそのような生活を送ることができるのは、全て税のおかげだったのです。

そこで、授業のなかでもビデオで見ましたが、もし税がなかったらということを変更して想像してみました。勉強をするにも、ゴミを処理してもらおうにもお金を払わなければならない社会で、人々は今のような生活を送ることができずでしょうか。おそらく、それは環境も悪化し、日本から笑顔も消えてしまうでしょう。そして、私の「当たり前」も崩れてしまうことと思います。

税金とは、私たちの身の周りに数え切れないほど溢れる存在です。しかし、ほとんどの人々がそのありがたさに気づくことができていないのではないのでしょうか。私は、今回税について学ぶと同時に、普段の生活への感謝の気持ちも学ぶことができました。当たり前前の意識が一変したのです。そして、これからは私たちを支える税に関するものへの感謝を忘れず、生活していきたいと思えるようにもなりました。今までの笑顔に、税金への「ありがとう」の気持ちをプラスして、日々を過ごしていきたいです。

私は小さい頃からかなりの本好き

だった。中学二年生くらいまでは、一カ月に文庫本を十冊以上は読んでいたように思う。しかし、お小遣いが少ない私は本を買うにはかなりの勇気がいる。そんな時私を助けてくれるのは、幼稚園に入る前から利用している大津市立図書館の移動図書館「さまざまな号」だ。「さまざまな号」とはバスの名前前で、そのバスの中が図書館のような構造になっており、月に二回近くの小学校にやって来る。これならば本を買わなくても、いつでも気軽に借りることがができる。その上、新聞等で私のお気に入りの本のシリーズの新作を見つけた時や、本屋さんで面白そうな本に出会った時は、予約をすれば図書館にない本でも係の人が検討された上でそれらの本を購入してもらえらる。しかし、最近不思議に思った。これらの本を購入するお金はいったい誰が払っているのだろうか。

大津市立図書館に電話で問い合わせると、それらのお金は市民が納めた税金で賄われている、ということだった。

中学生である私に身近な税金といえれば消費税くらいだと思っていた。しか

し、このようなところでも税金が使われていたことにも驚いた。それと同時に、市民から集められたお金ののだということを強く実感した。

私は、自分たちが納めた税金が、どこでどのように使われているのかをあまりよく知らない人が多いのではないかと思う。言い換えれば、私達の身の回りの多くの施設やサービスが、納められた税金によって成り立っていることが当たり前になっていて、かえってその恩恵に気がつきにくいのではないだろうか。また、私自身も税について学校で勉強したにもかかわらずあまり関心を持たないまま大人になり、いきなり税金を払う立場になったら、何だか少し損をした気分になっていたかもしれない。しかし、あらかじめ自分の納める税金がどこでどのように使われるのかを知っておけば、その大切さを感じることもできると思う。

「税金」という言葉は堅くて、遠い世界のことに感じてしまう人が多いと思う。けれども、税金の使われ方について今以上に大勢の人が、今回の私の「さまざまな号」のように具体的な関心を持つことで、「税金」という言葉も少しだけ身近なものになると思った。

私たちの税について

広島市立吉島中学校

三年 草 薙 由 愛

私は、この「税について」の作文を書くにあたって、改めて税について考えてみましたが、中学生の私には、あまりピンとくるものがなく、一番身近な消費税くらいしか思い当たりませんでした。しかも、その消費税も品物に対して五パーセント多く支払わなければいけないという、マイナスのイメージしかありませんでした。

そんな中で、とりあえず税金について調べてみると、自分が知っていた消費税のほかにたくさん種類の税金があることに驚きました。そして、物を買えば消費税が、お酒には酒税が、たばこにはたばこ税が、人が亡くなっても相続税がかかるなど、税金は、私たちの日常生活のあらゆる行動に密着してかかる仕組みになっている、ということに気がつきました。

税金の使い道としては、私たちの生活や安全を守るための警察・消防費や、毎日出るゴミの処理費用、私たちが通う中学校にも、一人当たり年間百万円近い税金が使われています。そのほかにも、あらゆることに私たちの税金が使われていることを知りました。

私はこの夏に「子宮頸がん予防ワクチン」を接種しました。そのとき、母

私たちのための税金

岡山県立岡山操山中学校
三年 木口 芙巳

から
「このワクチンはとても高額だけど、全額助成金でまかなわれているから、無料で接種できるんよ。」
と聞きました。高額であれば、接種しなくてもできない人もいるけれど、税金のおかげでみんな平等にワクチンを接種できるようになったことは、とても素晴らしいことだと思います。ワクチンの助成金だけでなく、病院に来られるたくさんの方々が、少しでも治療を受けやすくするために、税金はかせないものだと思います。

テレビや新聞では、今年三月に発生した東日本大震災の復興のための臨時増税も検討されていると言われています。

また、今の日本は「少子・高齢化」が進んでいて、二〇五〇年には、働き手一人二人で高齢者一人を支えることになり、来年の社会保障関係費を確保するために、消費税などの引き上げが必要だという議論もあるそうです。

これからの私たちは、単に「税金が高い、安い。」というのではなく、国民一人一人が、税の仕組みや使い道について、関心を持つことが大切なんだと思います。

国民一人一人が進んで納税し、人と人とお互いに守り支え合う、豊かな世の中になればいいなと、強く願います。

税金……。私はその存在を幼稚園児の時にはまだ知らずにいました。しかしその存在を知った今、税金というものがどれだけ社会にとってそして私たちにとって重要なものかということが分かるようになってきました。

私は幼稚園児だった頃、「ことばの教室」に通っていました。この、ことばの教室はことばやコミュニケーションに関する悩みがある子どもを支援し、改善のために指導を受ける場所です。私はうまく発音できない音があったため、そこに通っていました。そしてこのことばの教室に関してふと「そういういえばあの時、お母さんはどれくらいのお金を払ってくれていたのだから。」と思い、母に聞いてみました。

すると母は「あれは無料だから払わなくていいよ。全部税金が払ってくれているから。」と答えてくれました。私はそれを聞いて、税金がこんな所に使われているんだ！と驚きました。そしてその時に税金があつてよかつたと思

い、税金がとても身近な所で使われていることを実感しました。

さらに先日、三月十一日に起きた東北地方太平洋沖地震の復旧にも税金が使われていることを知りました。その

金額は四兆円を越し公的建物の他、様々なことに使われているそうです。

そんな現実を知って今、考えたこと。それは税金がなかったら今の自分、そして今の日本はなかっただろう。ということ。今私が何のともないもなくすら言葉が発せられるのは、ことばの教室のおかげ。そしてことばの教室があるのは税金のおかげです。さらに大地震の復旧のために四兆円を越すお金が使われたこと。これも税金がなければ四兆などという大金が簡単に集まることはなかったと思います。

このように私たちが払った税金は必ず私たちに戻ってきます。税金は私たち自身のためにあるものだということが再確認しました。

最後にこの学習を通して私が考えた「税金」とは何か。それは「雨」のよくなるものです。雨は、海面などから蒸発した水蒸気が上空で雲となりそしてそれがやがて水滴となって地上に落ちてきます。税金も同じで私たちが払った税金はいったん一箇所に集まり、やがて何らかの形で日本のために使われます。そこで重要なのが、雨は循環していて途絶えることがないということ。税金の流れも常にそうあるべきであり、それこそが税金の真のあるべき姿だと思えます。だから私も大人になつたら、税金をきちんと払い「税金の流れ」を止めないようにしていきたいです。

人を笑顔にする税金

松山市立雄新中学校
三年 柴田 拓真

税金というと、社会科の授業で『納税は国民の義務』ということはおぼろげに覚えている。なんだけか難しいイメージしか無かった。そこで、税金の使い道について調べてみると、社会保障費に最も多く使われていることが分かった。

社会保障とは、私たちの健康や生活を守るために必要な福祉・医療・介護・年金などのことだそう。この中で、介護という言葉に、身近に思い当たることがあった。

僕の祖父は、介護サービスを受けている。僕が生まれて間もない頃、脳梗塞を患い、左半身に麻痺が残る体になった。赤ちゃんの僕を、麻痺していない方の腕で抱き、病院のベッドの上で泣きそうに笑っている写真が、アルバムに貼ってある。祖父は、もともと、溶接などをする鉄工の仕事をしていて、職人気質の真面目な人だったらしい。この病気が祖父から仕事を奪い、そして、祖父は退院後も、つまらなそうにしている事が多くなつたそう。

今年に入って、祖父に会いに行つた時、僕は、祖父の変化に驚いた。よく笑い、とても生き生きとしていたから僕は、嬉しい反面、なぜだろうと

思った。聞いてみると、昨年の暮れから、デイサービスに通っているらしい。デイサービスとは何だろうか？我が国には介護保険制度というものがあり、四十歳以上の国民が納める保険料と税金で運営されている。介護認定を受けた人が介護サービスを受けると、かかった費用の一部を負担するだけで、残りは各市町村が負担してくれるらしい。デイサービスも介護サービスの中のひとつで、僕は、この事業に税金が使われていることを初めて知った。祖父は、週に二回、送り迎えしてもらい、お昼を挟んで半日ぐらいを介護施設で過ごしている。これまでに、クツキーを作ったり、しめ縄飾りを作ったり、カラオケをしたりしたそうだ。道後に行つて足湯をした後、車椅子を押してもらつて買い物を楽しんだり、お花見やいちご狩りにも連れて行ってもらつたりしたそうだ。友達もできたよ、デイサービスでの話をしてくれる祖父の目は輝いていて、僕の方まで元気をもらったような気がした。祖父に笑顔が戻つたのも、みんなが払つてくれていた税金のおかげだ。有難いと、家族一同、喜んでゐる。

今後、ますます高齢化が進み、祖父のように介護サービスを受ける人が増えてくるだろう。誰もが安心できる社会をつくつていかなければならないと思う。そのためには、税金について、もっと理解を深めることが大事だ。税金の無駄遣いをなくすことで、国民一

人一人が納得して納税するようになれば、社会はもっといい方向にむかうのではないだろうか。

将来は、僕も納税する立場となる。その時には、一人でも多くの人が笑顔で生活できるようにと願ひ、きちんと税金を納めようと思う。

今、そして未来へ

学校法人飯塚学園飯塚日新館中学校
三年 中 村 百 花

私の母が生まれる少し前。第2回モスクワ国際映画祭で日本の映画がグランプリを獲得したという記事を新聞で読んだ。新藤兼人監督の「裸の島」。夫婦と二人の子どもだけが暮らす小島。島には水がなく、夫婦が伝馬船をこいで隣の島に毎日水をくみに行くのだそうだ。「乾いた畑にまかれた水はすぐに吸い込まれる。運んで、まいて、吸いこまれる様子を映画は繰り返し映し出す。何かを暗示しているようだ。」(西日本新聞「春秋」より)

新藤兼人監督は、何を伝えようとしたのだろう。日本は今、前代未聞の国家的危機にあることは私も知っている。三月十一日に起きた東日本大震災。多くの人々の命を瞬時に奪つた津波。そして、原発事故。五ヶ月経つた今でも、行方不明者は五千人近い。避難所生活を強い

られている人は一体どれほどいらつしやるのだろうか。大切な家族、友人などを失つた悲しみ、住み慣れた家やふるさとをなくした喪失感。被災した方々に一体私たちは、そして国はなにをすべきなのだろうか。どんな「水」をかけたらいいのだろうか。運んでまいて吸い込まれる。運んでまいて吸い込まれる。「裸の島」のワンシーンのように、恐らく私たちの支援はすぐに吸い込まれて形がなくなつてしまうのだろう。どれほど多くの支援や善意が集まったのかしれない被災地。でも、いまだにがれきはそのままだ。吸い込まれ続ける支援の前に、私たち、そして日本の国は、その支援の手をいつかあきらめてしまうのだろうか。

そんなはずはない。私はそう信じる。かけ続ける水は、決して枯れることがない。なぜなら、その水は日本の国を支えている税金だから。国税庁のホームページには、「税金はみんなで社会を支える『会費』である」という一文があった。大人達が支払う税。その税が様々に形を変えて私たちの社会を支えているのだと思う。支援物資、仮設住宅、そしてこれから生活のための資金など。

私も来年は高校生。大人に近づくといいのはなんだかワクワクする。楽しいことがたくさん待っているだろう。だけど、「納税」という義務をきちんと果たせる大人になりたい。社会を支えるための「水」をかけ続け…その一

端を担えるのであれば、これこそが自立した大人であるように思う。

私が大人になる頃には、東日本が復興していることを願う。かけ続ける支援の水。被災された方々がその水で潤い、未来に希望を持てるように。税とは、私たちの未来に明るい光をさすものだと思う。

この国の未来を照らす税が、一人一人の生きる希望になるように。

両親とぼくを結ぶ 高速道路

早稲田佐賀中学校
一年 村 岡 孝 紀

僕は今年の春、中学生になると同時に親元を離れて寮生活を始めた。両親は宮崎、僕は佐賀の唐津にいる。入学式、保護者面談などの学校行事の時だけではなく、両親は、「僕の顔が見たい。」と、月に一、二回は必ず唐津にやってくる。片道約三五〇キロメートル、四時間半の道のりである。僕は「そんなに来なくていいよ。」と言うが、両親は「高速千円だしね。」と言って会いにくる。僕だって、内心では両親の顔を見ればホッとするし元気もでる。でも、この六月をもって高速道路の「休日特別割引」が廃止となった。理由は、予定してきた国の財源を東日本大震災の復興費用にあてるため

だそうだ。もちろんぼくは、この政策には大賛成である。東日本大震災の復興費用の為に税金を優先的に投入する事は、あたり前だと思う。税金とは、警察、消防、上下水道、道路、図書館など、僕たちの生活が健康で文化的であるために必要な公共サービスの経費を国民が公平に負担しているものであると思う。今回、震災でこれらの施設を失い、被災された人達は、この公共サービスが受けられない状況にある。そういった人達が、本来の健康で文化的な生活を取り戻すために、優先的に税金を使うのは、税の公平性を考えても当たり前のことである。税金の恩恵は国民全員に平等でなければならぬのだ。

最近、税金が不足しているという話をよく耳にする。そのためにムダと言われる公共事業を削ろうという話もある。確かに必要でないものに税金を使うという事は、あつてはならない事だと思ふ。国民全員が、公平に恩恵を受ける事ができるように、きちんと税金を使ってほしい。例えば、利用者の少ない田舎に高速道路は必要ないという意見をテレビで言っている人を見たことがある。しかし、田舎の人は高速道路を使って早く快適に移動する権利や企業誘致、地域振興を行う権利はどうなるのだろうか。税金は皆公平に納めているのである。僕のように、高速道路が家族を結ぶ大切なものである人もいるだろう。だから、目先の数字だ

けが必要か必要でないかを決めてほしい。きちんと見極めてほしい。今回の震災で皆の家の家計もほんの少し負担が増えることになりそうである。しかし、これも復興のためだ。僕が住んでいた宮崎県も口蹄疫の時には税金を投入してもらい助けられた。国民皆助け合いである。両親とぼくを結ぶ高速道路、「休日特別割引」の廃止は両親と僕の会える回数を少なくするかもしれない。でも、震災では僕より小さい子で両親と死に別れてしまった人もたくさんいる。その子供達が、そして震災にあつてしまった人達皆が笑顔になるために税金が使われるのなら、それでいい。一日も早くそういう日がくる事を願っている。

税金は「思いやり」であつてほしい

佐賀県立唐津東中学校

三年 松野夏希

今年三月におきた東日本大震災の映像は衝撃だった。たくさんの家や車がいとも簡単に押し流され、津波がひいた後は、がれきの山。総額十兆円以上といわれる被害を受けた。

あれから五ヶ月以上が経とうとしているが、連日、ニュースでは、悲しみや苦しみを乗り越えながら、懸命に生きていく人々の映像を映し出している。

山のようにあつたがれきも、徐々に片付けられ、道が整備され、仮設住宅が建ち並んでいる。復興に向けて立ち向かう人々の姿には、たくましささえ感じる。今、日本はこの震災からの復興に、全力をあげる時だと思うし、そのためには、みんなが痛みを分かち合う必要があると思う。募金も盛んに行われ続けているが、こういうときに最も必要な財源は何と言っても税金ではないだろうか。

私は、税とは「思いやり」の一つだと考えている。みんなが無理のない範囲の税金を納めることで、困っている人を助けることができる社会はすばらしいと思う。そういう使い方をすれば、税を納めることに納得する人も増えるだろう。また、その使い方をしっかりと国民に知らせていくことも大切だと思う。

今回の東日本大震災で被害に遭った人々の生活を税金で助けることに対し、大きな不満を持つ人は絶対にないだろう。政府は、状況に応じた特別措置法を作り、被害に遭った人々への見舞金や税金の優遇措置、仮設住宅の建設、産業の復興などの政策をどんどん進めて欲しい。今こそ、国の「思いやり」を苦しんでいる人々に発揮するときはないかと思う。

東日本大震災は、私にとって自然の破壊力とともに、思いやりの意識を高めるきっかけとなった。私自身は、まだ消費税ぐらいしか納めていないし、

納めているという感覚もない。しかし、いずれ国民の一人として所得税や住民税などを納めることになる。その時に「仕方なく支払う」という感覚はもちたくない。「助け合いの気持ちの表れとして納める」という感覚をもつて納めていけるようになりたい。そのためには、国民の一人としての意識以上に、思いやりの気持ちをもつことが大切だろう。

東日本大震災は大きな税金の使い道であるが、私の身の回りにも国や地方公共団体の援助を必要としている人はたくさんいるはずだ。税金の使い道は様々であろうが、何よりも本当に困っている人を助けられる税金でなくてはならないと思う。国民や県民が本当に困っていることは何かをつかみ、その改善のために正しく税金を使っていくことで、税金に対する理解も深まっていくだろう。それとともに、思いやりの気持ちも広がっていき、税金を納めない人が減れば、もっと豊かな社会へとつながるだろう。やっぱり私は、税金は何と言つても「思いやり」の表れであつて欲しいと願っている。

白い花

諫早市立諫早中学校

三年 宮崎楓

私の家の近くに、きれいに整備され

た花だんがあり、そこには季節ごとに咲く色とりどりの花がたくさん植えられています。ある日の下校途中、私はその中の一本の白い花にいつのまにか目を留めていました。他と比べて特に変わった特徴のある花ではなかったのですが、この花がこんなにも綺麗に咲くまでにはどれだけの、手間や栄養が必要だったんだろうと思ひあたりました。土を耕し、種を植え、肥料をまき、雑草をむしって、必要なら消毒をするなど、意外にその手間や手数は人を育てるのに似ているかもしれせん。

もし、私がこの白い花だとするならば、水や肥料を与え、栄養が行き届くように手をかけ、土の中に深く広く根を伸ばさせようとしてくれてるのは両親です。私は両親のおかげで、この花だんの白い花のように目立たないながらも健康に育っています。

でも私という花が育つには根からの栄養だけでなく、光合成の助けも必要です。それが私を含めた国民一人あたりに使われている様々な分野での税金の助けです。学校に通ったり、病院に通院したりするのも税金による補助があります。これらはすべて国民一人一人に大きく綺麗な花を咲かせてもらうために平等に注がれる恵みの光で、普段あまり意識することはありませんがこのことで私たちが受けてっている恩恵はとても大きなものです。

根から吸いあげる栄養と光合成から

得られる栄養によって花は大きく育ちます。言うまでもなく、ここでいう光合成は税金による公費などの負担のことです。私という白い花は両親の愛情に加えて、名前も知らない大勢の方々が誠実に果たされる納税の義務によって咲いています。そして、納税者である私の両親も他の数多くの花にとっては光合成を促す光の微粒子で、私はそのことがとても誇らしく思えます。

今の私は、両親からの愛情と納税者の方々からの恩恵によって小さな花を咲かせているだけの存在にすぎませんが、いずれ私も納税者となります。私が納める税金が日本中に咲いている花が、とりどりに色づくための助けになれば嬉しいことです。また、いずれ私も両親がそうしてくれているように、自分の子供たちができるだけ大きく色あざやかな花を咲かせられるように手助けをしたいと思ひます。

花は根からの栄養だけでも、光合成だけでも健康に育つことはできません。人間にとっても同じことが言えるようです。身近な家族からの愛情と、法律に則り納税の義務を果たし続ける誠実さが必要とされます。私も両方がかねそなえた大人になって家族と社会を支えられる人間に成長したいと思ひます。

助け合いの心と税

水町立三加和中学校

二年 古閑原 あずさ

私が卒業した小学校には、「もやいやい」という名の体育館があります。もやいとは漢字で催合と書き、共同で一つの物を使ったり、協力して一つの仕事をするという意味です。実際、地区の人たちがバレーボールなどをしているらしやいました。日本では米作りを通して共同で物事を行う必要が昔からあり、助け合って生きてきたと聞いたことがありません。このもやい、助け合いの精神は今の税金制度のもとになっていると思ひます。

先日、アフリカから来ている留学生のホストファミリーになりました。筑波大学で経済学を学んでいるジョン・バーノン・キカビさんというウガンダの方でした。彼はアフリカの貧困を減らしたいと日本政府奨学金制度を利用して勉強しています。ユニセフ主催のアフリカの子どもの日というイベント参加のために熊本に来られました。インターネットで調べてみると、このイベントを主催しているユニセフは税金と関係しているというのを知りました。ユニセフは国連の一つの機関で第二次世界大戦の犠牲になった児童の救済を目的として設立され、個人の募金と各国政府の任意拠出金で運営さ

れています。二千八年度、日本は百五十五・七百万アメリカドルを拠出して援助されています。こんな日本もユニセフに援助されていた時期があります。戦後、粉ミルクや子供用衣類などの支援を受けていました。その後日本は経済成長しユニセフを支援するドナー国となったそうです。

今回の東北震災でも多くの国が日本に義援金を送ってくれました。その中には経済状態が大変な国もあったと聞きます。これまで日本がやってきた、経済的援助や自衛隊の復興支援への恩返しというのを聞いて、嬉しくなりました。

キカビさんが受けている奨学金や自衛隊、ユニセフへの拠出金も税金でまかなわれています。このように税の使い道は様々な所で役に立っているのです。日本国内だけでなく、税は国と国を結ぶ大切な役割も果たしています。しかし日本は今、税収だけではまかなえない状況であると租税教室で聞きました。だから消費税が十パーセントに上がっても仕方がないことだと思ひます。実際、ウガンダの消費税は十七パーセントで日本よりも多いことが分かります。一人一人が税を少し多く払うことで、誰かのためになり私たちがもしつかり返ってきます。誰かが困っている時、みんなが助け合うしくみ、それが税だと思ひます。もやいの気持ちは大切に、きちんと納税し、住み良い社会を作りたいです。

すべての人々の命を守るもの

鹿兒島市立鹿兒島玉龍中学校

三年 木田 夕菜

それはあまりにも突然だった。受話器を握る母の手が小刻みに震え始めた。

「祖父が倒れた。」

種子島に住む祖母からの連絡は、それまでふざけ合っていた母と私を一瞬にして凍り付かせた。自宅でテレビを見ていた祖父は突然、天井を仰いでその場に倒れた。近くにいた祖母は慌てて救急車を呼んだ。救急車は祖父を乗せて町立病院へ。しかし、症状を判断して島の北部の総合病院へとサイレンを鳴らしながら走った。その間ずっと、動揺している祖母を気遣いながら、救急隊員の方が祖父に声を掛けてくれたのだそう。祖父は脳出血だった。幸い、発見が早く、速やかな対応のおかげで体の右半身に麻痺を残したものの一命を取り留めた。もう少し、対応が遅かったらと思うとぞっとする。

祖父の見舞いに向かう高速船の中で母が窓から見えた島影を見ながらつぶやいた。

「陸続きだったらね。」

離島に住む人々の一番の心配は「医療」である。祖父のように突然、病気が

なつたときに十分な処置や治療ができるのだろうか。

船を降りて祖父の入院している病院に着いた私に、叔母がそっと教えてくれた。

「もしもの時には、ヘリコプター搬送も考えたそうよ。」

鹿兒島県には多くの離島がある。そのため、自衛隊や消防・防災ヘリが急患搬送を行う仕組みがあるのだそう。平成二十二年度だけでも百四十八回も出動している。それだけではない。県では今年の十二月からは、高度医療施設を装備し、専門医を乗せて現場へ飛ぶ「ドクターヘリ」の運航を始める。

医療体制が十分とはいえない離島でも、救急体制は整備されてきている。

これらは全て私たちの税金でまかなわれている。都市部であろうと山間部や離島であろうと同じように大切な命がえのない命を守るために、税金が使われている。日本中どこであろうと突然命の危険にさらされた時に、施設や費用の心配をすることなく信頼できる人々や仕組みに身を委ねられる安心感は、税金の働きによってもたらされている。

入院してしばらくたった頃、祖父は院内で町議会選挙の投票を行った。自分の住む町ではない隣接の市で、まして病院の中で、まだ文字を書くことができない祖父でも投票が行えることに驚いた。一人一人の大切な権利を決し

て無駄にしないためにも、ここでも税金が使われている。

祖父は今必死に戦っている。病気によって失ったものを少しでも取り戻そうと、辛iriハビリを続けている。それは、祖父の戦いであり、私たち家族の戦いでもある。しかし、この国には、それを見守り、サポートしてくれる社会の仕組みが、税によってつくられていることを、私は心強く思ったのだ。

“かっこいい”税金

那覇市立松島中学校

二年 平良 匠

青く透き通った川の流れ。川のほとりに咲く鮮やかな花々。これは、僕が旅行に行ったときに見た光景だ。その美しさは、今でも鮮明に覚えている。

だが、その美しい川はどのように守られ、維持されているのだろうか。僕は疑問に思い、インターネットで調べてみた。答えは、国民から集められた「税金」であった。これまで僕は、税金は年金や生活保護など、「人」のために使われているものだと思っていた。だから、川の整備のために税金が使われていることを知って、とても驚いた。さらに詳しく調べてみると、税金の使い道は、学校や僕の使っている教科書、公園、病院、道路の整備や信

号機の設置など、身の周りにあるものばかりだった。僕の近くで税金が使われ活躍していると思うと、何だか税金がかっこよく思えてきた。

でも、みんなの役に立っている“かっこいい”税金を納めるのも、僕達国民だ。所得税や住民税など税にもいろいろ種類があるが、その中でも一番有名で身近なのは消費税だと思う。買った商品の五パーセント分、消費税として加算される。僕も、一〇五円のお菓子を何度も買ったことがある。今までは何げなく払っていた消費税分の五円も、税金の使われ方がわかった今では、かっこいい税金に変身するため

の大切な五円と思うようになった。一人ひとりが捻出する「小さな税金」が集まり、「大きなお金」となって社会のために使われると思うと、僕もよりよい社会のために貢献したという、うれしい気持ちで一杯になってくる。

しかし、税金を納めない大人がいるという問題があるのも現実だ。その人達は「税金を払うのがもったいない」という考えの人がほとんどだと思う。たぶん、一円でも自分のお金にしたいい、という気持ちがあるからだろう。でも、税金はみんなのために、よりよい社会をつくるために使われているかっこいいもの。ということを理解すれば、税金への向き合い方が変わり、このような問題も無くなるのではない

かと思う。

人の生活とそれに大きくかわる税

金は、バランスが大事だと思う。税金が足りないとい国民の生活は不便なものになる。また、税金を無駄に使うと税金が足りなくなると、本当に必要なことに税金がいなくなる。

税金は「もの」となって僕達に返ってくるものもある。でも、それは全て安全で快適に生活するため、そして、将来のよりよい社会のために必要不可欠なものであるはずだ。だから、今から税金のことについて理解を深めることが必要ではないだろうか。そして、僕達が税金と協力して、よりよい未来をつくっていかなくてはならないと思う。

全国納税貯蓄組合連合会
会長賞 受賞作文

医療と税金の関係

北海道龍谷学園双葉中学校
三年 小山内 まりな

私の兄は小さい頃喘息が酷く、入院と通院を繰り返していました。そのため私は、通院やお見舞いに母と一緒に病院に行っていました。何度も病院に行くうちに、兄の担当医が私の身長がなかなか伸びないことに気が付き私は検査入院をすることになりました。検査の結果、私は「ターナー症候群」という病気で、染色体に異常があることが判明しました。

そしていま、ターナー症候群の患者として小児慢性特定疾患の認定を受け、国と道から保障をもらっています。しかし、もしも保障がなかったとしたら私の両親は一ヶ月ほどの位医療費がかかっていたのでしょうか。私は治療のために毎日成長ホルモン剤を投与しています。調べた結果、その薬は一週間で八万二千四百二十円、一ヶ月では四十一万二千円もの大金を使う計算になります。そしてその大部分を私達家族は国と道から保障してもらっています。計算をして、改めてそのあ

りがたさが分かりました。そして、同時にその保障は税金から支払われているということに気が付いたのです。

家では私が国や道から保障されている他にも病弱だった兄が、通院や入院の度に医療費の多くを税金でまかなってもらっていました。そのお陰で今の生活が出来るかと父や母がよく私に話してくれます。私も最近それを実感する事が多くなりました。学校に通えるという事、家族や友達とあたり前に話せる環境。全てが税金に支えられていると思います。私が実感していること、兄が体験したことは、税金があればこそだと分かったことが、私にとつて一番の収穫だと感じているからです。

しかし一方では、「貴重な税金が無駄に使われている。」だから、「増税をする必要はない。」など批判的なことがニュースなどで報道されています。私はそれらのニュースを見る度に、私達が今使っている教科書、将来お世話になる介護施設を建設するお金、全てが税金からできているのにと複雑な気持ちになってしまいます。もし、批判的なことばかりで国民が税金を納めなければ、困るのは私達なのです。従って税金は義務としてしっかりと納め、これからの国の未来のために使われる様にしていきたいと思っています。学生の大半が関係ないと思っている税金、でも身近にある税、その意味をしっかりと実感し、気付くことが出来た私は、税

金は必要なものとして支払っていきたくて考えています。

幸せをもたらしてくれるもの

奥州市立立山中学校
三年 高橋 慶

先日、母と一緒に出かけた時のことです。母がどうしても欲しい本があり、書店に立ち寄りしましたが、残念ながらその本を見つけないことができませんでした。あきらめきれなかった母は、そのまま市立図書館へ足を運び、そこで、ついにその本をみつけることができました。その時、

「これも、税金をきちんと納めていたご褒美だなあ。」
と、母はつぶやきました。

社会の授業で税について学習していた時、ふと、母の言葉が思い出されました。税とは、私達の納めたお金を変えて幸せをもたらしてくれるもの、あの時の母の言葉には、こんな意味が込められていたように感じました。また、税金をきちんと納めているからこそ、税のありがたさを感じることが出来るのではないかと、とも思いました。

最近、テレビや新聞では、税金のムダ使いに関する話題が取り上げられています。例えば、救急車をタクシー代

わりに呼ぶ人や、診察を優先してもら
えるからという理由で一一九番する人
が増えているそうです。自分は税金を
納めているのだから公共サービスを利用
するのは当然のことだと考えている
のでしょうか。だとすれば、私はこの
考えには反対です。自分が納めた大事
な税金だからこそ、個人的に使うこと
を控え、もっと公的に役立てるべきで
はないでしょうか。

三月十一日の東日本大震災を経験し
た今、この国は大きく変わる必要があ
ります。中学生の自分にも何かできる
ことがあるのではないかと考えてみる
と、税のありがたみを忘れ漠然と生活
していた自分自身を省みる事ができま
した。

また、大きな傷跡を残した大船渡市
と陸前高田市を訪ねた時、その変わり
果てた様子を見て、復興の道のりの困
難さを痛感しました。私は、今こそ公
的なお金が大切に使われ、人々に希望
をもたらす時だと思えます。被災地で
は、混乱の状況下で、人と人との連帯
感を強め、個人よりもみんなを優先さ
せ、助けあって生活しています。他へ
の優しさや思いやりを大切にする日本
人の姿は、海外からも多くの称賛を受
け、日本人として誇りに思いました。
今、納税者にも連帯が求められていま
す。納税者一人一人が自分の行動に責
任を持ち、日本がひとつになって前進
していくべきだと思います。そして、
どんな災害にも負けない国に生まれ変

わることを信じて協力していくことが
大切なのではないのでしょうか。

税金は、姿を変えて必ず私達に幸せ
をもたらしてくれると信じています。
その幸せは、すぐに訪れないかもしれ
ません。もしかしたら、これまでの幸
せと同じではないかもしれませんが。で
も姿を変えた幸せは、きっとこれから
の未来につながるものだと思います。
だからこそ、みんなですっかり税を納
め、ご褒美を手に入れてみませんか。

介護を支える税金

湯沢市立稲川中学校

二年 佐々木 若 菜

今年の五月のこと。母の実家の九十
歳になるひいおばあちゃんの姿が見え
なくなつた。数年前から認知症で、毎
日母が世話をしに通っていた。何度も
同じことを言ったり、物がなくなつた
と騒いだり、家族のことがわからなく
なつたりする。お互いの気持ちがうま
く伝わらず、世話をするのが難しく
なつて、家族みんながストレスをため
ていた。

いなくなつたのは今回が初めてだつ
た。手分けをして捜しても見つからな
かつたのだが、パトロール中の警察官
が、家から十キロも離れた所に座つて
いたおばあちゃんを保護してくれた。
無事に帰って来てくれてみんなホツと

した。けれども、この日以来、おばあ
ちゃんの話すことも笑うこともしなく
なり、悲しい顔ばかりするようになって
た。

私の父は特別養護老人ホームで介護
士として働いている。おばあちゃんの
様子を見た父は介護サービスの申請を
提案した。それは行政や民間で行つて
いる福祉サービスで、お年寄りを朝か
ら晩まで預かってくれて、食事や入
浴、レクリエーションなどのサービス
を受けられ、お年寄りには心穏やかに過
ごせるそうだった。また、お年寄りがサ
ービスを受けている間は家族が介護から
開放されて自分の時間が持てるよう
なり、気持ちに余裕ができると父が説
明してくれた。

しかし、介護サービスにはお金がか
かる。家族みんな、どの位かかるのか
心配だったが、要介護認定と介護保険
が適用になると聞き、安心したよう
だった。私には少し難しい話だった
が、適用されれば、おばあちゃんの間
合は被保険者なので、支払うお金は
サービスにかかった部分の一分で済む
そうだった。残りの九割は市町村で負担し
てくれると聞き、驚いた。

市町村で負担する九割のお金。これ
は税金なのだ。おばあちゃんとは全く
関係のない人たちが払ってくれた税金
で、おばあちゃんは介護サービスを受
けられるのだ。私はこの時、心から税
金制度をありがたく思った。
今、おばあちゃんは週二回、デイ

サービスに通い、サービスを受けてい
る。以前の悲しげな顔ではなく、デイ
サービスに行く日を心待ちにしてい
て、とても良い顔をしている。母もお
ばあちゃんの世話から少し開放され、
少し気持ちにゆとりができたようだ。
もし、税金制度がなく、介護サービ
スを受けることが出来なかつたら、お
ばあちゃんも母も、毎日苦しい思いを
していただろう。

「税金」という存在を今まであまり
気にしなかったが、自分の家
族がきっかけとなり、身近なものとし
て考え、知ることができた。

一人一人が納めた大切な税金は、
様々な形を変えて多くの人を支えてい
る。私も大人になつたらきちんと納税
し、おばあちゃんに笑顔が戻つたよう
に、みんなが笑顔で安心して暮らして
いけるような社会をつくりたい。

デイズニー貯金と税金

春日部市立大沼中学校

三年 大 森 彩 加

私が、中学に入学した年の春のある
日、「五百円玉貯金を家族全員でして、何
か家族全員で楽しめることに使わな
い？」
という話になりました。いろいろ考え
て、三万円貯まったら、家族でデイズ

ニーランドに行こうということになりました。

三万円が貯まる缶型貯金箱をリビングに置き、五百円玉が出来たら入れるようにしました。私はお手伝いをしてから百円といった風に、無理のない範囲で五百円玉を作っては、貯金をしていました。

家族全員で力を合わせたせいも、意外と早く三万円は貯まり、家族でドイツニーに行くことができました。ドイツニーには、何度か行ったことがありましたが、五百円玉貯金で行った時には、達成感のようなものがあり、以前よりもとても楽しく感じられました。

「今回の旅は、彩加も貯金に協力したでしょう？今までは、親から与えられる旅だったけれど、今回は自分も参加して作り上げた旅だったから違っていったんじゃないかな？」

と親にも言われ、妙に納得してしまいました。

そして母は言いました。

「このドイツニー貯金って、ちょっと税金と似ているのよ。」

私は、なぜドイツニー貯金が税金なのかさっぱり見当が付きませんでした。

「税金も、国民が働いたお金の一部を集めて、学校を建てたり、道路を作ったりと使われているでしょ。一人だと大変だけど、皆で少しずつ出し合えば、負担が少なく、大きなメリットが

全員にあるじゃない？今回のドイツニーも、彩加一人で貯金したなら、とても大変だったでしょう。家族で少しずつ出し合ったから、早く目標を達成できたんだよね。」

今まで、耳にする税金についての周りの感想は、正直、あまり良いものでもありませんでした。

でも、今回の経験で、私の中でちょっと、税に対する見方が変わってきました。

確かに無駄な税金を払うのは嫌なことかもしれない。でも、納めた税金が、きちんと正しく使ってもらえるのなら、むしろきちんと納めたほうが、「自分たちの手で自分たちの住みやすい国を作り上げている」という達成感につながるのではないかと思うようになります。そう、今回のドイツニーの旅のように。

自分も旅費を貯めるのに参加したドイツニーの旅は、一人前に扱ってもらえたようで、とても誇らしかったです。

そういう誇らしい気持ちになれるような税金の使い方をしてもらいたいと思います。そして、私は、そうであるなら、誇りを持って納税したいと思います。

消費税の増税について考える

八千代町立東中学校

三年 倉持拓海

平成二十三年三月十一日、私は学校でその恐怖の数分間を体験した。東日本震災だ。その大震災は、私の住む茨城県でも大きな被害をもたらした。

海沿いの地域では、東北地方と同じように津波の被害にあった。また、山沿いの地域では、土砂崩れなどもあった。私たちの町、八千代町でも屋根が壊れたり、ブロック塀が倒れたり、水田が液状化したりする被害があった。日本全体では、その被害額が数十兆円になるようだ。東電の原発被害を含むと計算できないような被害額になると言われている。

この被害額を、日本はどの様にして補っていくのか。一時は、消費税を増税して復興費にする案が検討されていた。現在は、所得税や法人税を増税する案が有力なようだ。消費税は、課税の上は製造業者や販売業者に課せられるものだが、実際には消費者が納めている税だ。私たち中学生が「税を納めている。」と実感できる唯一の税でもある。私がよく買い物をするコンビニエンスストアのレシートにも、しっかりと税額が印刷されている。だからこそ、私は東日本震災の復興費を消費

税の増税で行ってほしいと考えている。私たちがする買い物の額では、大した力にならないかもしれないが、少しでも協力したいと考えているからだ。現在の消費税額は五パーセントだが、ニュースや情報番組で良く耳にするのが十パーセントという数字だ。しかし、現在はその増税は復興が目的ではなく、医療や介護の「社会保障」が目的のようだ。

私は、日本以外の国の消費税について調べてみた。驚いたのは、消費税を課税している国としては、日本の五パーセントは一番低い税率であるということだ。ヨーロッパの各国では、そのほとんどが二十パーセントを超えている。(食料品などの特定品目は軽減している。)日本で検討されている十パーセントを遥かに上回る数字だ。その使い道だが、日本と同様に「社会保障」に充てられている。もともと日本の消費税はヨーロッパを参考にされたものだから当然と言える。

私は、ヨーロッパで出来るのだから日本でもできると考える。もちろん、いきなり二十パーセントへの増税は国中が大混乱になってしまう。しかし、東日本震災発生当初の情報番組のインタビューでは、消費税の増税について「復興費に充てるなら賛成する。」という意見が多かった。被害にあった地域の復興は、日本全体で行うということを持っている人が沢山いるということだと思う。少子高齢化で、社会保

障費が増大になることも日本にとって
は深刻な問題だ。だから、私は消費税
を十パーセントにして、七パーセント
を社会保障費に、三パーセントを復興
費に使ってほしいと考えている。私た
ち子供にも、日本の復興を手伝わせて
ほしい。

「がんばろう！日本」

見えない所、 それが本質！

宇都宮大学教育学部附属中学校

二年 三 宅 由 莉

私の両親は自営業の歯科医である。
ある夜、母は帳簿をつけていた。こ
の帳簿は仕事での売り上げ、支出、を
記載しておく必要があり、それを税理
士に毎月見せ、税務署に年に一度提出
するものと母に教えられた。毎日夜
遅くまで帳簿をつけている母を見ると
胸が痛み、仕事で疲れているのだから
早く休んでほしいという思いは子供な
がら幾度となく思ってしまう。

何処そんな事をしていいのか。母は
言った

「どうして新しく道ができたり、橋が
できたり標識ができるのだと思う？」
どうやら帳簿をつけ税理士に所得税と
いう個人に課せられる租税を納付する
事で国の各省が私達の生活を豊かにし
てくれているのだ。

「由莉が学校で宿題が出されて必ず終
わすように大人にも帳簿をつけて税金
を納付するという大切で絶対に守らな
ければならない宿題があるのよ。」母
は微笑を浮かべながら言った。

税金が私の生活に深く浸透している
最もな例は学校である。私達学校生徒
は、新学期が始まると何気なく新学級
のための教材を使い授業を受けたり、
時にはテスト前の勉強、時には次回の
授業への予習と言わば、教材をいつく
しんでいるといっても過言では無いだ
ろう。そんな教材も、やはり税金に
よってまかなわれているそうだ。我、
学舎も国税によって建てられ実存して
いる。私たちが生きるにあたって快
適、かつ豊かでいられるのは、働いて
税金を納付してくださる人々、また税
金を正確に徴収してくださる税務署あ
りきのことであると私は考えた。
正直なところ、私はずっと税金を徴
取されることよって自分達は損する
のだと思っていた。母は夜遅くまで疲
れていても正確に帳簿をつけていて、
税金として納付する額を聞いた時果敢
にとられていたのであった。
しかし、今この年令となり、改めて
税の納付の話聞きよく考えてみると、
外見と本質が良く分かる。まだまだ
社会の秩序を理解しきっていない私
にとっては一見、税の納付は損に値す
るように見えるが、実際、税は私たち
の生活を快適にしている。本質、根本
的なところ私たちは税と隣合せであ

る。決して損をしているわけではない
のだった。

私は月日をかさねるごとに大人へと
成長し直接的に税との関わりが深くな
る時が来る。だからそれまで私は、自
分がおかれている立位置をしっかりと
わきままえ、税を納付してくださる
人々、徴収してくださる人々に感謝の
気持ちを持ち身の周りの物一つ一つも
もちろん大切にしたいと思う。
私は見えない所で支えられながら生
きているのだから。

予防接種から学んだ税

桐生市立広沢中学校

一年 富 沢 愛 理

「痛いね。聞いていたとおり。」

私は、子宮頸がんワクチンの接種を
受け、思わず母につぶやいた。そんな
私に母は、

「お姉ちゃんも痛がっていたね。で
も、この予防接種が将来の体を守って
くれるんだって。二人分で六回も無料
だから助かるわ。」

と言った。そして、生まれてからたく
さんの予防接種を受けさせてもらって
きたと話しながら私に母子手帳の記録
を見せた。

「これ、全部無料なの。」
と聞くと、母はほほえみながらうなず
いた。

帰宅後、私は姉の母子手帳も見せて
もらった。同じように十六回もの予防
接種の記録がずらりと書かれていた。
私は、この全てを自費で払ったらいく
らになるのだろうか考えた。相当な金
額である。と同時に、私たち中学生ま
では、医師の診察や薬を無料で受けら
れていることを思い出した。これらは
すべて税金のおかげである。今まであ
まり考えることもなく利用させても
らってきたが、とてもありがたいもの
なのだ気づいた。

私は、急に『税金』を身近なものに
感じた。学校で勉強できることや図書
館で本を借りられることを無意識のう
ちに当たり前と思ってしまうていた
私。ごみの収集がされず、病院や救急
車などが機能しない社会を想像すると
怖くなった。私は、安心して暮らして
いる毎日は、税金に支えてもらってい
るおかげであることに改めて気がつい
た。さらに、私たちの健康も、税金に
守られていたためなのだと理解し、感
謝の気持ちでいっぱいになった。

私は、もっと税金のことについて知
りたいと思い、インターネットと本で
調べてみた。すると、税の種類などを
学ぶことができたと同時に、日本の財
政の厳しさが伝わってきた。日本の経
済社会は、少子・高齢化の進展や働き
方の多様化によって、大きく変化をし
ている。労働力の低下は、特に深刻な
問題となる。そのためには、社会保証
制度を安定させることと、安心して子

供を産んで育てられる社会を築くことが重要な課題となることを学んだ。今の社会制度のままであると、年金や医療の負担が上がり続け、将来に大きな負担を残すことになる。この二つの課題は、これからの社会において対策が急がれるものだと感じた。

私は、予防接種を受けたことをきっかけとして、税について深く考えることができた。私たちの生活は、税金のおかげで安全であり安心できる暮らしが保障されている。その税金を支えるのは、私たち国民の納税だ。私たちは、税に対する正しい知識を身につけなければならぬと感じた。そのうえで、税が有効に使われるよう、関心を持つことが大切なのではないだろうか。税が正しく使われることで、未来の明るい社会が作られると思う。私は、税についてもっと勉強し、日本の社会をつくる一員として考えていきたい。

税金に感謝

学校法人長野日本大学学園長野日本大学中学校

二年 佐藤 結希映

私は、学校の帰り道の途中で道路が舗装されていることに気付いた。昨日までその部分はヒビが入っていたり、コンクリートがはがれたりしていたのだ。登下校の時もその上を自転車で通

るとカゴの中の荷物がはねるので困っていた。しかし、その上に新しいコンクリートがあり、とてもきれいな道路に変身していたのである。

家に帰り、母親にそのことを話してみると、その道路は、税金によって直ったということを教えてもらった。税金とは、国や地方公共団体が税として徴収する金銭のことだが、果たしてどんなことに使われているのだろうか。

調べてみると、とても沢山あったが、私達中学生にとって一番身近なのが、教科書や机などといった主に学校で使われているものであることが分かった。私達が普段、何気なく使っているものが、税金で賄われていると知り、驚いた。これからは、教科書や机をもっと大切に扱い、また、自分が安心して勉強できるのは税金のおかげだという気持ちを忘れずに生活したいと思った。

次に、日々登下校している道での税金の使い道は、もちろん道路の舗装はそうだが、その他にも信号機や歩道橋、花壇の手入れ等がある。毎日、安心・安全で登下校できるのは、税金のおかげだと思った。

私が最も思うのは、三月十一日の東日本大震災のことだ。あの時避難を誘導してくれたたり、救助してくれたのは自衛隊だ。自衛隊も税金で賄われている。また、震災のときに避難する体育館などの施設も全て税金だ。さらに、

今沢山造っている仮設住宅も税金である。これから東日本が復興していくには沢山の税金がかかる。今回の震災で、税金の大切さを改めて感じた。

私は、震災の復興のため募金をした。私が思うに税金とは、みんなが安心して暮らせるようにするための「募金」だと思う。働いているみんなが「募金」をすれば、世の中はもっと豊かになるだろう。私が募金をする時は、みんなや社会のためにも思っていてやる。税金も、払うときは募金をする時のような気持ちになってやれば、社会はもっと明るくなると思う。

今、増税が審議されており、反対意見も出ているが、未曾有の災害が起こった今となっては、必要不可欠なものではないかと思う。東日本復興以外での増税のメリットは、国の財政悪化が改善されること。もう一つは将来的な増税や社会保険料などの負担増や、私達が受ける公的サービス（施設・公的年金・医療・福祉・教育など）の質の低下への不安に少しは歯止めがかけられることだ。

増税は大変だが、みんなが増税のメリットを理解して税金を納めれば、社会はもっと良くなると思う。

税金の大切さ

五泉市立愛宕中学校

一年 大岡 堯史

「なぜ、税金を払うのだろうか。」と、ぼくはいつも思っていました。どうしてこう思ったかというところ、定価の分だけ払えば良いのになぜ税込み分まで払うのかとても疑問に思っていました。それに、その税込みの税金は何に使われているのか全く知らなかったのが不安でした。

そして、小学六年生のときに税金について調べる機会がありました。実際に税務署の方をお招きしてお話を聞きました。税についてのビデオや税の使われる道についてお話を聞きました。税の使われる道は、教育・経済を運営するためのものでした。来年度完成する愛宕小学校にも税金が使われていてびっくりしました。その他には、ごみ収集車や警察のパトロールや救急車や消防車などたくさんものに使われています。その他には、学校や消防署や警察署やあのビックスワンも税金でつくられていてとてもびっくりしました。もし税金がなかったら、救急車を呼ぶのや警察の人に頼み事をするのにもお金がかかり、それも自己負担なので、大変だなと思いました。また、ごみ収集車も走らなくなるので、街が汚れてしまいます。そんな生活はしたく

ないと思えました。だから、税金があるのだと思えました。

今現在、税金には消費税、法人税、所得税、相続税、酒税、たばこ税などたくさん税金があります。その中の消費税を五パーセントから十パーセントに上げるかという案が出ています。ぼくは、上げて良いと思えます。三月十一日に起きた東日本大震災の復興に役立てたら良いと思えます。また、少し国民の負担が必要ですが、国民の今後の暮らしも楽に快適に過ごせるので、五パーセントから十パーセントに引き上げるのは良いことだと思います。

税金は、みんなの暮らしを守り、支えているとても大切なものだなと思えました。今、国民の人々は税率が上がることを嫌だとぼくは思っています。しかし、今、税金についてみなさんに知ってもらいたいです。税金はみんなの街の公共物や政治にも使われています。街のみんなが、

「税金は大切なものなんだね。」
「しっかりと税金を納めよう。」
と、言ってもらえるような社会をつくり上げていくことが重要だと思えます。国民全員が税金を理解することでもっと暮らしやすい日本がつかれると思えます。

ぼくが、今、通っている学校も税金でつくられているので、みなさんに感謝したいです。ぼくたちの身近なものが税金でつくられていたのはとても

びっくりしました。今は子どもだからみなさんに助けってもらっているけど、ぼくが、大人になったら、子どもたちをちゃんと学校に行かせられるようになりたいです。ぼくは、税金の意味が分かり、税金の大切さがよく分かり、とても嬉しい気持ちです。

税金がある意味

八王子市立第七中学校

三年 柳 澤

茜

税はみなさんの生活にかかせないものであり、消費税などはどんな人でも払えるものです。しかし税はみなさんの負担になってるかもしれません。税金が高い、払うのがめんどくさい、などあまり良いイメージをもっていないと思えます。ですが税金はみなさんが知らないところで国民の生活をとても助けています。そして、私個人も税金に助けられていて、また中学生の私としても税金に助けられている部分がたくさんあります。

何故、私が税金に助けられているのか。それは、私自身、持病をもっている、「医療費助成制度」という制度を受けているからです。これは都が医療券に記載されている疾病の治療に要した医療費のうち自己負担額を負担してくれる制度です。これはみなさんが払ってくれている税金でまかなわれて

います。私はこの制度を四年前から利用していますが、とても助かっています。病気のせいで病院に行つて、たくさん薬をもらいますが、病気に関する薬などは全て都が負担してくれています。社会保障関係費の一部として、みなさんの税金が私のような持病をもっている人々のために、使われています。この制度がなかったら、私の父や母はとても高い額の医療費を病院に行くたびに支払わなければなりません。

私の家族の場合は、私と妹の二人とも同じ病気にかかっています。そのため、治療や薬にかかるお金も二倍です。なので、「医療費助成制度」がある事でとても助かっています。このような制度があるのを感謝すると同時に税金を払ってくれている、国民のみなさんにも感謝しなければいけません。世の中には、私の様に税金によって助けてもらっている方がたくさんいます。

今回、東日本大震災の影響で税金の額が増えるかもしれません。しかし、それで東北の人たちが助かり、東北の町が復興してくれるなら「復興税」として、消費税を少し上げるのは私としては賛成ですし、いい考えだと思えます。

他にも私たち中学生は税金によって教科書などが無償で提供されています。父や母、日本のみなさんが頑張つて働いたお金から、税金によって教科書などが配られています。私たちは、

それが当たり前になっていますが、もっと大人に感謝しなければいけないと思えます。

税金は私たち子供のためや、色々な病気で苦しんでいる人のため、日本のために使われています。私自身も簡単に払える消費税などから、少しずつ払いたいと思えます。それが目に見えて出来る社会へ返せる感謝の形だと思っています。

私は税金によって助けられている事に感謝し、また、みなさんにも改めて「ありがとう」と伝えたいです。

税金の使い道

江戸川区立瑞江中学校

三年 高 橋 果 乃

政府が国民から税金を徴収する理由。それは、国民を豊かにするため、そして国民の生活を快適にするためである。

子供手当、医療負担の軽減、高速道路無料化など、私たちの生活はさまざまな面で税に助けられている。しかし、税の使い道はいろんな制度が行われているものの、財源となる税は追いついていない。最近になり、ようやく消費税の段階的増税も決まったが、それでも足りないのは目に見えていることだ。東日本大震災の被害を受け、苦しんでいる人々が多い今まさに、増税

を踏らなくてはいけない時だと思ふ。
更に高齢化社会が進んでいく現代において、政府の税収入はますます必要になるだろう。

東日本大震災をきっかけに、改めてお金の大切さに気付いた人も多いと思ふ。チャリティ活動が世界中で行われ、私も参加をして、世界が繋がっていることに感動した。私たち日本人も繋がっているのだから、助けるためにできる事なら何でも協力をしたい。全壊してしまった地域もあるが、そんな地域も早く復興してほしいので、復興税を増税させるのは良いことだと思ふ。例えばそれで集まった税は、学校を建てたり、工場を建てたりするなどに役立つし、喜ぶ人もたくさんいるはずだ。これで「国民を豊かにする」という税の役割りは果たすことができるだろう。

もしもこの「税」というものが無くなってしまったら、恐らく私たちは生きていけない。それほど私たちの暮らしには税が関わっている。社会保障や公共事業、年金など一生お世話になるものと言っても過言ではない。普段から使っていた教科書や道路だって税があるお陰だ。こんなことはあまり考えたことが無かったが、改めて考えるととても恵まれているんだということがわかった。

少子高齢化が進んでいる日本は、この先さまざまな問題が出てきてしまう。私が大人になって納税者になった

時には負担も大きくなるだろうし、財政がどうなるのかわからない。高齢者が増えるのだから、福祉施設のほうに税を使うことが必要だと思ふ。もちろん子供に使うのも大切だが、一番に使ってもらいたいのがやはり、高齢者や障害者の施設だ。

世界の国々と日本を消費税について比較すると、日本は最も低い値であった。高い所だと二五パーセントを超えている国もあった。そのような国は、「国民へのいろんな制度も整っていて、「幸せ」と感じている人が多い。このような国を見ると日本が増税することにもメリットが多く生まれるだろうと考えることができる。

私は、今回このような作文を書くにあたり、初めて税について考えることができた。増税に反対の意見を持つ人も少なくないと思うけれど、それもこれからの日本国民が豊かに暮らしていくために必要なのだと理解をすれば正しい考えで税を納めることができる。

わたしの町と税

江戸川区立松江第五中学校

三年 平賀 あいり

私達の周りにある公共の施設・設備はすべて税金によってまかなわれています。税について考えると、私達の生

活は税金にとっても支えられていることに気が付きます。一日中家にいたとしても、税金がなければ水も使えず手を洗うこともできません。散歩しようとして外に出ても、税金がなければ信号もなく、とても危険ですし、道にある木や、花壇に咲いている花もそこになくなってしまいます。今住んでいるくらいで明るい私達の町は、税金がなければ存在しないのです。

七年前、私の生活は、税金を使った区の事業によって大きく変わりました。私の住んでいる地域が区画整理になったのです。それまで、道路は細い道しかなく、デコボコで、車を通れる場所も限られていました。段差もあちらこちらにあり、安全とは言えない町並みでした。当時、小学校の二年生だった私は、不便を感じることはありませんでしたが、今思うと、お年寄りには優しくない町だったと思います。

そもそも、区画整理とは何のために行われたのでしょうか。区画整理とは、上下水道を整備すること、美しい町並みを造ることなど様々な理由があります。中でも消防車が通れる道幅を確保することが大きな目的の一つでした。細く段差の多い道ばかりだったため、消防車や救急車が通れず、緊急時に、すぐ対応することができませんでした。区画整理とは、安心と安全を実現させるために税金を使用して行った区の事業だったのです。

区画整理が始まると、今まで住んで

いた家も引越さなくてはいけないし、今まで一緒に学校に行っていた友達ともバラバラになり、私にとって嫌なことも少なくありませんでした。しかし、そのおかげで道幅も広くなり、平らで段差もなく、車いすやベビーカーなども安全に通ることができるようになりました。近所には公園がたくさんあり、今でも友達とよく利用します。道路には桜の木が植えられて、まだ小さいですが、春にはかわいい桜の花を咲かせてくれます。そして、私は新しい家で祖父母と家族四人で仲良く暮らしています。

このように街並みが整備されているのも、父や母、周りの大人たちが一生懸命働いて納めた税金があるからです。きれいになった私達の町は、税金と共に出来ています。町だけではなく、私達の学校、生活は、税に守られており、私達自身が守っています。今、私は税金を使えばかりですが、私が働くころには、次世代の子供たちが、うまく活用できるように世代から世代へ繋いでいきたいです。私が税を納めるまでに、税について真剣に考え、学び、みんなのために税を納められるような人間になりたいです。

人と人との架け橋

横須賀市立石戸中学校

三年 小野 杏 奈

私の兄は生まれた時から体が弱く、持病を患っていた為生まれた時から病院通いが多かった。兄は四歳の時から子供医療センターに通い始める様になり、眼科・皮膚科・内科などと合わせて八つの科にかかっていた。兄はどの科も検査が多く、その科によっては半日以上もかかる事があったので私は物心がついた時から祖父母に預けられる事が多かった。

私は「税」について作文を書くのに、兄のあの頃の事を思い出した。兄が通っていた子供医療センターは重度の病気・障害・難病の子供達が病氣と戦うために頑張っている。私知知っているだけでも血液検査・レントゲン・CT検査・MRI検査・エコー・超音波などがあり、これらの精密な医療器具にも税金が用いられている。兄が長期に渡って通院していた医療費も税金によって賄われていたのだ。現在、兄は元気に高校生活を送っているが、もし日本に税金制度や保険制度が無かったら兄は長い時間を費やして医療センターに通う事も、多くの検査を受ける事も出来なかつたかもしれないと思うと「税金」というシステムに心から感謝している。

振り返ってみれば、私達の身の周りには税金によって成り立っている事が山の様にある事に気が付いた。母が毎年受けている市の無料健康診断も、私が幼い時から受けている予防接種が無料なのも「税金」のおかげなのだ。私に通っている中学校も、今まで何の気なしに渡っていた歩道橋も、暗くなつた塾帰りの道を照らしてくれる街灯も、車から守ってくれるガードレールも、すべて税金で賄われていたのだ。

私達は日常を当たり前の様に暮らしているが「税」とは私達が産まれてから死ぬまで、様々な側面に関わり、生活するうえでなくてはならないものだと思う。今までコンビニでパンやジュースを買っても、レシートなど見ずに捨てていたが税金について調べる様になってから、私の税に対する意識が変わってきた。この間、百五十円のパンを買うとレシートに百五十円、内消費税五円と記入されてあった。ほんの少しだが、私も国民に役立てる税金の一部を納めているのだと思うと嬉しくなった。私が産まれる前から、大勢の国民が一生懸命働いて納めてくれた尊い税金で、今の私達の生活が成り立っているのだから、それを受け継ぐ私達の手には日本の将来がかかっていると一言でも過言ではない。少子高齢化とよく耳にする言葉だが、これからの事を考えると近い将来、増税もありうる事かもしれない。この作文をきっかけに、私はこれからも税について関心

を持ち続け、正しい知識を学ぶ事で社会に貢献していけたらと思う。そして次の世代の人達へと繋がってほしい。税金制度がこれからも国民の生活を支える、人と人との架け橋になつてほしいと願う。

未来を切り開く力

川崎市立西生田中学校

三年 羽藤 瑞 姫

小学二年生の時、左足を五針縫い、中学二年生の時には肉離れをしまし、何度病院に行つたか、数えられない程です。しかし、そんな場面でも、両親が払つた税金が、私を助けてくれたのです。そんな大切な事を、私はつい最近まで知らずに生きてきました。今、この時にも、多くの人たちが、税金によって助けられている、と思うと、本当に税とは大切なものなのだと、実感します。しかし、今の私たちには労働の義務、権利がなく、税を納めることはできません。義務を果たしていない私たちが、権利を持つことができるのは、多くの大人に支えられているからです。教育を受ける権利が平等に与えられていることも、無償で教科書を手にもすることも、たくさん大人の納税の義務を果たしてくれているからなのです。そんな大人たちに対

して、今私たちができることは、一生懸命に勉強し、沢山の事を学んで知ることだと思えます。将来の日本を支えていくのは、他でもない私たちです。今は未来のために、税金について理解を深める準備期間なのだ、私は思います。きっと、私たちの中には、まだ考えるには早いのではないのか、その時になって考えれば良いのではないか、という考えを持った人もいます。しかし、時は待っていてはくれません。時間というものは、自分が思っているより何倍も早く過ぎ去っていきます。あの時、税について、もっと知っておけば良かった、と、両親に知らず知らずのうちに助けられていた時のように、後悔したくないのです。

きっと、これから私たちが、税について学び、知っていく上で、知ることができて嬉しい事、逆に、知ってしまったてがっかりする事、驚く事、納得する事、様々な事があると思います。時には、目をそらしたくなる現実もあるでしょう。しかし、私たちは、その事実から、決して逃げてはいけません。先程、記したように、将来を切り開いていくのは私たちです。これからの、未来のルールを作っていくのも、私たち自身です。確かに、今までのルールを変えることは、難しいと思えます。でも、私は、どうして私がこんなに沢山の税金を払わなければならないのだろうか、と思う

未来よりも、私が納めた税金で、自らの暮らしをより良くしていきたい、日本を支えたい、誰かを助けたい。そう心から思える未来を作りたい。それがいいです。きっと、何人かの、もしかしたら多くの大人たちが、そんなことは無理だ、と言うと思います。でも、私は信じたいのです。自分たちの努力で、そんな未来が作れると。なぜなら、私たちの可能性は無限大だから……。

私達の税金

柏市立豊四季中学校

三年 野寺紗希

私はよくテレビで「消費税の増税」という言葉を耳にしていました。消費税は私達子供にとって最も身近な税金なので、理由がわからないまま増税されるのはすごく嫌でした。

そこで、私達から集めた税金は一体何に使われているのか、なぜ消費税を増税しなければならぬのかを調べてみる事にしました。すると、私が思っていた以上にたくさんの方に税金が使われている事がわかりました。

私達が納めた税金が一番多く使われているのは社会保障に關わるものではない。社会保障というのは、私達が安心して生活していくために必要な「公的サービス」の事をいいます。例えば、

私達が病気になった時、病院で手当をしてもらおうとたくさんのお金がかかりますが、その一部は税金で払われているため、私達の負担を軽くしてくれています。他にも老後も安心して暮らしていくために国から受け取る年金や、年をとって体が思うように動かない、介護サービスを利用した時にかかるお金の一部にも、税金が使われている事がわかりました。

そして、今年の三月十一日に起こった東北地方太平洋沖地震で、被災地の人々の救出活動を必死に行っていた自衛隊の給料が、税金で支払われている事も知りました。自衛隊の人達は、寝る間も惜しんで救出活動を行い、自分達は風呂に入らず、被災地の方々に優先させてあげていました。それに税金は、今回の地震で住むところを失ってしまった人達の仮の住まいを建てるお金としても、使われています。

他にも税金は日本だけでなく、世界中の人々のためにも使われている事がわかりました。苦しんだり、困っている人達が多くいる国はたくさんあります。そんな国を助けるため、日本はお金を貸してあげるだけでなく、ダムや道路、病院をつくったり、病院で使う薬や注射器などを送ったりしています。このような活動を「政府開発援助・ODA」といい、私達が納めた税金が使われています。

今回調べてみて、私達にとって税金はなくてはならないものだと知りまし

た。そして、一人ひとりが税金を納める事で、日本だけでなく、世界中のたくさんの人々の役に立てる事がわかりました。今まで私は、税金がこんなに色々な事に使われているとは知らなかった。消費税を増税する事に不満を持っていましたが、今は税金はいくらあっても足りないくらいだ、と思うようになりました。またいつ大きな地震のような災害が起きるかもしれないので、その時のために、これからは「自分の納めた税金で人の役に立てる」と、誇りを持って税を納めていきたいと思っています。

大災害における税の使い道

八街市立八街北中学校

三年 三塩史瑠紅

自然災害がこれ程恐ろしい被害を起すとは誰もが予測することは出来ませんでした。今回の東日本大震災では、二万人以上の尊い命を亡くしました。町は地震と波におそれなにもかも無くなりました。災害に備えて万全に整備していたはずが、ことごとく波に飲まれ全てを失いました。私達は毎日多くの公共物を使用し、快適なくらしを送っています。国民の納めた税金が町の治安を守り、国や地方公共団体が行う活動の財源となっています。し

かし、災害は最大級のものとなりそれらのものをすべてを消し去りました。今回の震災の復興には税金が使われず。仮設住宅やがれきの撤去、道路や学校、市役所、公民館、消防署など、町並にあるものがこんなにも税金でまかなわれていることがわかります。建築して直しなど、失ったものを再建しなければ、元の間人として、最低限の生活が出来ません。どれだけの財源と人力が必要となるのでしょうか？そして、震災により起きた原発事故は、日本を、世界を揺るがす大事件です。不安はつきません。東京電力で支払うべき賠償金は莫大で補えず、税金が投入されるそうです。日本は今、税金や寄付金、ボランティアの方々などにより、一歩一歩前進しています。しかし、今回の災害では、多くの人が職をなくし、財産を失くし、家を失くし、家族を失くし、全てを失った人達が生きるために頑張っています。未来を担う子供達が、何の不安もない将来や未来のために今私達が出来ること、生きることに、生きる力となるような、税金の使われ方がされる事を望みます。その継続力のためには、日本中の国民で税金をまかない、健康で豊かな生活が出来るように、これからも税の意義と役割についてももっとも考えたいかなければならないと思います。予算があっても、実行しなければ意味がありません。政策を実行できる内閣総理大臣がこの震災からの再建を早め

てくれることを祈ります。国民の私達、一人一人の思いが早く形になり、心の傷が癒える日が来ればいいと思います。失った物は二度と帰らなくとも心の中の過去の思い出は、誰にも消せないから。

明るい未来のために

中央市立田富中学校

三年 横 森 悠 雅

私の弟には、生まれながらにして足の骨の病気がある。しかし、毎日生き生きと生活し、元気いっぱいである。十歳を迎えたが、赤ちゃんの時から足に装具をつけて生活をしている。装具に合わせ、靴も特殊なものを作ってもらっている。さらに、これらは成長に合わせて作り替えなければならぬ。大変な経済的負担となるため、「高額療養費制度」を利用して、身長とともに足の大きさもどんどん大きくなる年頃である。もしこのような制度がなければ、経済的な理由のために、足に合わなくなった装具などを無理して使用しなくてはならないことだろう。弟はこれまで一年に一度の間隔で装具と靴を作り替え、元気に生活することができています。他の子と同じようにはいかないまでも、弟は装具をつけながら、自転車に乗り、走ることができ、サッカー、水泳、野球などのスポーツ

が大好きだ。どんなことも、まず挑戦する気持ちを持っていて。「高額療養費制度」のお陰で、安心して体に合った装具や靴を使うことができていますから。

今回、足の骨の手術をすることになった。治療するための器具を骨に固定する手術である。この一回の手術で完治するのではなく、治療を始める第一歩である。十年たつてやっと手術ができるということは、弟が一歩前進することであり、私にとって喜びであった。

その一方で、手術の話を知ったときにとても大変な手術であると感じた。それと同時に「どのくらいの費用がかかるんだろう」と不安に思った。私が幼いころは三歳までの「乳児医療支給制度」であったが、その後「子ども医療費助成制度」として小学校入学までと延長された。さらに現在では助成年齢が延長され小学校卒業までの医療費を助成していただけるまでが変わってきた。このような制度のお陰で弟の手術を経済面での心配をしないで迎えられることを知った。弟の通う病院には様々な病と闘っている幼い子どもたちがたくさんいる。その子達に付きそ親にとつて、医療費を負担してもらえるとすることは、ありがたいことである。経済的な心配をしないで、精一杯この世を見てあげることができると思う。「税金」というと、親の給料からとられていくというマイナスのイメージ

があった。働く人、一人ひとりが納めている税金によって、私の弟を含め、たくさん子ども達がいよいよ治療を受けることができています。今回の弟の手術で、この制度のありがたさを改めて実感した。今の私には税について知らないことがあまりにも多い。税によって支えられていることがまだまだたくさんあるだろう。税のマイナスイメージばかりでなく、税についてしっかりと理解した上で納税できる大人になつていきたいと思う。

例えば病気や障害があつても、税のお陰で、今を生き生きと生きることができ、明るい未来があるのだから。

みんなの公園

坂井市立丸岡中学校

三年 小 林 叶 佳

ジリジリと照りつける太陽、焼けるように暑い日差し。夏休みのある日、私たち三人は公園にいた。三人で遊ぶでいたのだが、あまりの暑さでアイスを買って日陰のベンチに座り、ひと休みしていた。友達がアイスを食べながら「この公園きれいだよね。」とつぶやいた。確かにこの公園は最近できたので、とてもきれいだ。緑の芝生が鮮やかで心地よい。花だんにはきれいな花も咲いている。向こうの方ではカラフルな遊具で遊んでいる子供達。小高

い丘を元気に走り回っている子供達。広い公園内は楽しそうな子供達でぎわっていた。私が小学校のときにはなかった。私たちが小さい頃にもこんな公園があつたらよかったのになと思う。もう一人の友達が「今までここ、何もなかったのにどうして公園つくったんだろうね。」と言った。私はなんとなくだけれど「近くに幼保園があるからじゃないのかな。」と答えた。やっぱり、公園は利用してくれる人たちが多い方がいいのだと思う。でも、誰が公園を作ったのだろうか、本当に不思議になってしまった。

家に帰り、私は母に聞いてみることにした。すると母は「あの公園はみんなが作ったんだよ。」と言った。みんなってどういう事かを聞くと「公園や警察、消防署などはみんなの払う税金でつくられているんだよ。」と教えてくれた。それを聞いて、一番はじめに思いついたのが消費税だった。中学生の私にはあまり税のことにくわしくはないが、その税で公園がつくられるのは、すごいことだと感じた。そこでもう少し調べてみると、他にも多くのところで税は使われていた。高齢者や体の不自由な人たちの暮らしを支えるため医療費に使われていたり、道路、図書館、市立病院、学校など身近なところで利用されていたのだった。こんなにも社会に役立っているのは、いままでも知らなかった。税金は私たちの生活にかかせないものになっていくと、強

く感じた。

しかし、最近テレビなどを見ると税金を納めない人が多くなってきた。そう。私は大人になったら絶対に税金を納めたいと思う。理由は、私が中学三年生になって学校で習った公民の内容だ。国民の義務は三つあり、勤労の義務、普通教育を受けさせる義務、納税の義務だと知った。私たち国民はこのたった三つの義務は守らなければいけない。だから、少しでも社会のためになるようなこと、つまり義務はきちんと果たしたいと思う。そして、最も大きな理由は、公園で楽しそうに遊んでいる子たちをみたということだ。税金を納めてくれた人たちのおかげで、あの笑顔はできている。そう思うと、あの笑顔を守るためにも税金は必要だ。そして、今税金を納めている人たちが老後に笑顔になってもらうためにも、私は税金をきちんと納めたい。税金はよりよい将来のためにも必要だから。

今、おぐれいじ

名古屋市立豊国中学校

三年 河合 ゆづ子

私たち中学生は、どのように税と関わっているのでしょうか。まず思いつくのは消費税です。百円のお菓子を一つ買う時に支払う、あの五円。消費税

は、一番身近な税です。

他にはどんな税があるのでしょうか。調べてみると、税は五十種類ほどもあるようです。所得税、たばこ税、自動車税、固定資産税……。こんなにたくさん種類があるのに、どれも払ったことのない税ばかりです。それどころか、聞いたこともない税もありました。

では、私たち中学生は、消費税以外の税とは関係がないのでしょうか。いえ、そうではありません。春になり学年が上がると、私たちは、新しい、きれいな教科書がもらえます。机や椅子も割り当てられます。また、学校では毎日きちんと授業が受けられるのに、塾のように授業料を払う必要はありません。このように、私たちが無償で教育を受けていられるのは、まがいなく、大人が支払ってくれている税金のおかげです。こうして考えてみると、どうやら、私たち中学生は、税の恩恵を受けてばかりのようです。さらに、今までは、税金が私たちのためにたくさん使われていることさえよく知りませんでした。しかし、先日の大震災で、私が当たり前だと思っていた学校生活や、教科書、机などをたくさん失ってしまった中学生が大勢います。私は、テレビで見た被災地の様子を忘れることができません。あの日から五ヶ月以上経った今でもなお、テレビでは、被災した小学生が避難合宿をする様子や、ボランティアの取り組みが報

道されています。そのような状況の中で、今、何に一番税金を使うべきか。

私は、東日本大震災の復興に使うべきだと思います。きつと、同じ意見の人がたくさんいると思います。国会でも、復興財源をどのように確保するかが議論されています。復興に使うお金は、税金でまかなわれ、そのため増税をすることになるようです。私は、この増税に賛成です。もともと税金は、公共のために集められ、使われるべきものです。復興支援という税の使い道は、もつともその考え方に合っているのではないのでしょうか。それに、被災地の様子を見れば、役に立ちたい、多少の増税なんて我慢できる、とも思います。

しかし、増税の対象として有力なのは、中学生は払わない、所得税や法人税だということです。これでは、私たちは協力することができません。だとすれば、私たちにできることは何でしょうか。それは、自分たちの生活が税に支えられていることを自覚し、教科書などを今以上に大切に扱うことです。今はまだ税を払うことはできません。けれど、税のありがたみを知り、「あつて当たり前」という意識を変えていかなければいけません。そして、将来納税者になった時には、税について正しい知識をもち、何に税金を使うべきかしつかり考えて、税金を払っていきたいと思います。

震災を通して 税を考える

名古屋市立西春中学校

二年 木村 雛乃

税金といえば、中学生の私にとって印象深いのは「一番でなくてはいけないのですか、二番じゃだめなんですか。」と流行語にもなった「事業仕分け」での場面です。これは、世界でも注目をあびた「はやぶさ」の衛星などの開発に使う税金の仕分けでしたが、これほど大きな成果をあげるものに対しても節税が訴えられるほど、日本の財政は危機的状況になっているのだと思います。

税金は、私達自身が安全で健康的、文化的な生活をおくるために国民の義務としてはらうものです。だからこそ、その税金が何にどのくらい使われるのかを知ることが国民としてあたり前のことなのですが、今まではそれを知る機会が少なかつたように思います。しかし、「事業仕分け」によって私のような中学生でもテレビをつければ自然に情報として得ることができ、多くの国民が税金について改めて考える機会が得られたことは、とてもよいことだと思います。

そこで、私なりに税金について考えてみました。私が今、一番疑問に感じていることは三月十一日、日本を襲っ

た東日本大震災についての税です。多くの人々が命をおとし、今だに行方不明の方も多く残されたままの状況が続いています。幸運にも命が助かった人達さえも、家を無くし、仕事を無くし、故郷を無くし、普段の生活をおくることができなくなっています。その中で、国が復興に使う税金を二十三兆円としています。しかし、この税金の使われ方が、私たちの思いとして、きちんと被災者の方々へ届いているようには思えないのです。例えば、特別交付税について例に上げれば、一世帯五万円の交付金でさえ、すぐに配布されることなく、被災者としての証明や名簿の作成に時間がかかり、必要な時に迅速にお金を受けとることができなかつたことです。ある番組で、一世帯五万円の交付金を家族二人がもらってしまい、返しにきていたおじいさんがいたと話していました。それを聞いて、私はなんだか心が温かくなるのを感じました。日本は世界各国から、震災の混乱の中でさえも、本当に他人を思いやり、道徳性が高く、秩序を守る国民であると絶賛されました。私たち日本人は、互いに信頼し合い、助け合える国民であると思います。

かりと働き、誇りをもって税を納められる大人になりたいと思っています。

税に対する私の思い

本巣市立本巣中学校
二年 高井 風音

どうしたら、税金が「いやなもの」だというイメージをぬぐえるのか。夏休みの自由研究として、昨年から二年間、税について調べてきて思ったことだ。

調べた中で、今、日本の財政が厳しい状況だと知った。どうにかできないかと、自分でも財務省のホームページで予算を作ってみた。二〇二〇年までの黒字化達成には、三十パーセントの増税に加え、様々な方面への予算を大きくカットする必要がある、サービスに対して税収がとて少ないと分かっただ。どうにかして税収を増やさなければと考えた。しかし、増税をすると、生活が苦しくなる等多数の問題が出てくる。まずは増税の前に、私達がきちんと納税する事が大切だと思う。滞納を減らせば税収が増え、増税による負担の増加を防げる。私は、滞納や脱税を減らすには、税を「とられる」というイメージを変える事が有効なのではないかと考えた。

では、その為はどうしたら良いのか。私が税に興味をもち、税に対する

考えを変えたきっかけの一つは、租税教室だった。税がなくなるとどうなるかというビデオを見て、驚きと、大きなショックを受けた。学校へ行くのにお金がかかり、苦しくなった家。道にはごみが散漫し、消防にお金がかかる。自分の身におきかえて考えると、ぞっとした。そうならない為に税金があるのかと思った。とても分かりやすく税の大切さを知ることができた。それで、分かりやすい広報が大切なのではないかと思った。もちろん今も、分かりやすい租税教室やパンフレットで広報がされていると思う。自由研究の為に、東京上野税務署のタックススペースで教えて頂いたり、岐阜北税務署で職場体験をさせて頂いたりした。けれど、今以上に広く分かりやすく行う事が大切だと思う。その為に私は研究の一環として税金クイズを自分で作り、掲示物としてまとめた。みんなに税を知ってもらいたいと思い、小学生も分かるよう絵をたくさんかき、身近に税を感じられるような内容にした。

そして私達が進んで税を知る事も大切だ。税はみんなが住みよい社会のためにあるものだと思う。社会のあり方に深く関わっている税について知り、私達も考えなくてはならない。岐阜北税務署で署長さんとお話させて頂いた時、

「税はとられるもの、払うもの、納めるもの、どれですか。」

と問われた。始めは分からず、私は

じっくり考えた。そして、税は納めるもの、納める権利があるものだと思う。払うというのは義務だ。これは納税者の心持ち一つだが、私は、税を納め、国を支えて幸せな社会を作るのに協力する権利を持ちたい。その為に私は、公共物を大切にしたり、税についてもっと知ったり、こうして税を考え、自分の考えを持ち続けたいと思います。皆さんにとって税はとられる、払う、納める、どれですか。

税金の使い方

大阪市立東中学校
三年 田中 雄介

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分東北地方に巨大な地震が起こった。東日本大震災だ。あれから五ヶ月がたつたが未だに四千人以上の方が行方不明で、八万人以上の方が避難をしている。阪神・淡路大震災を経験している父は、「復旧、復興が遅いなあ。さつさとお金を使ってやらなあかんぞ。」と言っている。僕もその通りだと思う。国民が困っているときに助けられるのが国であり、そのために使われるのが税金ではないか。

「高津の宮の昔より、よよの栄を重ねて、民のかまどに立つ煙、にぎわいまさる、大阪市、にぎわいまさる、大阪市」これは大阪市の歌である。仁

徳天皇が高台から国を見渡し、みると、食事時に民家のかまどの煙が少ないことに気が付いた。これはきつと民が食事を作ることすらできないくらい貧しいからに違いない、と考えた天皇は、三年間税を免除した。そして三年後にまた見渡すと、今度はかまどの煙が沢山見えた。そこで、もう大丈夫と税を戻したという逸話をもとに作られた歌である。その仁徳天皇のお墓は大阪府堺市にあり、ピラミッドより大きい世界一のお墓として有名である。あれだけの物を作るには労働者を無理矢理働かせるのではなく、労働意欲を持たせて作らせたそう。今で言う国が公共事業を行うことに似ているかもしれない。

大人の人の話を聞くと、税金の集め方、使い方に不満や疑問があると言っている。「何故こんなところに税金を使うのか」、「何故ここにもっと税金を使わないのか」、「何故税金が上がるのか」、「何故あそこから税金は取らないのか」など。しかし、僕たちの社会は多かれ少なかれ税金のお世話になっている。お互いが助け合いながら生きていかなければならないのだから、税金の集め方、使い方に不平不満ができるだけ無いよう、無駄な誤った使い方はしないようにしなければならぬ。

歴史をみると、国家はどのように税金を集め、どのようにその税金を使うかということを行ってきた。その使い道がうまくいっているときは、国家は

安定し、国民も平穩に暮らしているが、うまくいかなくなると国民に不満が溜り、最後は国が減びてしまうことになる。僕たちが大人になり、税金を納めるときに国が減びてしまっていたということが無いように願っているし、そのようなことの無いように僕たちも社会に関心を持ち、勉強していきたいと思えます。

税金の大切さ

枚方市立第四中学校

三年 山 本 汐 莉

私は中学二年生まで、「税金なんか、なくてもいいやん。お金減るの嫌やし。」と思っていました。でも中学二年生の職場体験学習で税務署に行くとき、そう思っていた自分が恥ずかしくなりました。

職場体験学習での私たちの仕事は、小学生に税金について教えることでした。小学生に教えるためには、まず自分たちがきちんと理解しなければなりません。なので事前訪問の時に、たくさん資料をもらいました。その資料に目を通していくと、税金の使い道や、たくさんある税金の種類など、自分の知らなかったことが多くてびっくりしました。また、もっと税金について知りたいと思いました。

資料にしっかりと目を通して臨んだ、

職場体験学習一日目。その日もまた、衝撃だらけの一日でした。まず税務署を案内してもらったのですが、たくさん部署があり、たくさんの人々が真剣に仕事に取り組んでいることに、おどろきました。そして、よく考えてみると、私たちが行かせてもらった税務署以外にも、たくさん税務署があり、さらにたくさんの方が、税金のために働いているのだと気付き、さらにおどろきました。税務署案内が終わると、税務署の方が税金についての授業をしてくださいました。資料に書いていないことなど、たくさんを教わり、税金はこんなに奥が深いのかと、わくわくしました。

そしていいよ、小学生に教える日が来ました。前の日にしっかりと練習して、税務署の方々に、色々なアドバイスをいただいていたので、本番は大成功でした。小学生は税金についてあまり知らなかったようで、「へえ。」や「そうなんだ。」という声がよく聞かれました。質問タイムでの発言も活発で、税金に興味を持ってくれたんだと、うれしくなりました。そして何よりうれしかったのが、授業の感想を聞くと、「税金って大切だなと思っただ。」と言ってくれたことです。

今回教えた小学生は税金の大切さをしっかりと理解できて、よかったと思います。きっとこの子たちは、私が最初に書いたようなことは思わないと思います。この子たちがもし、「税金なん

かいらんやん。」と言っている人に出会ったら、できれば「税金ってこんなに大事なんだよ。」と教えてあげてほしいです。

これからの日本は、一人一人が税金について理解し、大切に気付き、払わされるものではなくて、払っていくものだと思うようにしていくのが大切だと思います。

国家と家庭とのお金のバランス

京都市立旭丘中学校

三年 町 田 芽 生

日本は非常に便利な国だ。例えば私の住む京都から祖父母が住んでいる岡山まで新幹線を使えば約一時間、父の運転で高速道路を走っても約三時間で着くことができる。国は国民が便利な生活を送ることが出来るように高速道路や新幹線を作り、多くの人達が喜んでいてよいのだろうか。これらの便利な施設を作るためには莫大な費用が必要であり、それは誰が支払ってくれているのだろうか。

国は国民のために色々な施設や制度を作ってきたが、その費用は税金でまかなわれている。税金には収入の多少によって負担する割合が異なる所得税（直接税）と全てのの人に等しく負担を

求める消費税（間接税）がある。日本は外国と比べて間接税の割合が低く五パーセントであるが、北欧諸国の様に高い国では五〇パーセントもの消費税を負担している国もあると聞いたことがある。そのため、国民の大多数のサラリーマンに負担を求める所得税を増やすよりは、消費税を上げようとしているのが最近の動向であろう。

政治家が大多数の国民が喜ぶ施設を作ることは熱心になるが、そのための費用の負担を国民に求めるために必要な説明の努力をしないで済む国債でまかなってきたために、今では国債の利子を払うのに国の予算を大きく使わなければならず、更に年々国債の額を拡大している。このような状況で、デフレーションによる経済不況が続いたり、消費税を上げ物価が上がると高度経済成長期に起こったバブル経済を再び起こす危険性もある。次世代を担う私達は残された国債の支払いを負担させられる生活しか残されていないことになり、夢や希望を持つ生活を切り開くことができなくなるであろう。

一方、一般の家庭では、給料の範囲内での支払いの遣り繰りをしなければ日常生活を送ることはできない。収入に合わせて支出をコントロールするのが「家計の遣り繰り」である。これに対して、国は支出に合わせた税金を国民に負担させることが納得がいくように説明する責任がある。もしも説明を正確に理解させてくれていれば、年

に数回しか使わない高速道路や新幹線の建設をむやみに求めたり、単純に開通を喜んだりしていなかったかもしれない。

何をすることもお金は必要であるが、それだけ税金収入と支出のバランスにも関心を持つべきである。国に便利と安全・安心を「要求」する場合は、国民はその負担を覚悟して求めなければならぬと思う。そして、国民一人ひとりが現在の国の財政状況としての税収入と支出のバランスについても正確に知り、今後日本がどのような状況になつていくのかを見極める努力をしなければならぬであろう。

税は助けあい

神戸市立烏帽子中学校

三年 田中友鶴

私の家庭は生活保護を受けています。私の両親は私が小学校一年生になった時に離婚し我が家は母子家庭になりました。両親が離婚してからは、何か心の中にポツカリと穴があいてしまったような感じがして、絶望の気持ちだけでいっぱいでした。けれども、母は精神的に疲れていたにもかかわらず、私たちが三兄弟を養っていくための金銭面の事を悩んでいました。そんな母を見ているのはとても辛かったです。しかし、私の母はこんな事で弱音

を吐く人ではありません。私たちのために母は区役所などいろいろいるところを走り回ってくれた結果、私たちは生活保護を受けられることができたのです。

その後は、母が仕事をした上で、それでも足りない分に関して、必要最小限の生活費が支給されたり、医療費も無料になりました。今では「明るく元気な母子家庭」という家訓をかかげて、そのとおりの楽しい毎日を送っています。なので、私の家庭は笑顔が絶える事のない、最高の家庭だと誇りに思っています。

そんな生活をしている中で、生活保護のお金は誰が負担してくれているのだろうという疑問がわきました。答えはすぐに出ました。税金です。社会のたくさんの人たちが払ってくれている税金によって、私の家庭は成り立っているのです。これまで、何のための税金なのかよく分からなかった私は、そのことに気づいてハッとしました。そして社会の人たちに強い感謝の気持ちを感じました。

例えば、それまでの私は「なぜ子どもも、買い物の時に消費税を払わないといけないのだろう」と思っていました。しかし、私のような状況の人や、困っている人たちの事を考えると、国民の一人として納税の義務を果たすことは当然の事だと思えるようになりました。

学校の社会科の授業でも習ったとお

り、国民が税金を納めることは憲法三十条に定められた国民の義務です。さらに調べてみると、所得税などは累進課税といって、所得が高いほど税率も高くなる制度がとり入れられています。払える能力にしたがって納める税金の額が決まるといって考え方です。

私は将来、保育士になる夢を持っています。保育士になってお給料をもらい、そこから税金を払うことで、その税金が今の私の家庭のような人たちにいきわたり、恩返しができると思っています。

税とは社会全体の助け合いであり、言いかえると人と人をつなぐ架け橋でもあるように思います。

「税への感謝の気持ち」

丹波市立氷上中学校

三年 小森悠我

三月十一日、東北地方の太平洋沿岸で大規模な地震と津波により、何万人もの尊い命を奪い、町を破壊しました。被害に遭われた方達は、自分の家族や家などを失ったショックでどうすればいいのか分からなかったと思います。そんな中、自衛隊や消防、警察の方達が必死に救助活動や復旧支援を行っているのをニュースなどで見えました。

税は、僕たちの暮らしを安全にする

ものと、豊かにするものがあります。安全に暮らすために警察や消防、自衛隊などがあります。だから、すぐに被災地に駆けつけることができたのだと思います。

僕の父は、岩手県へ被災地の復興ボランティアとして派遣されました。被災地から毎日メールと写真が父から送られてきました。そこには、街は道路も何もかもない壊滅状態で、復興には長い時間がかかると書かれていました。

僕が住んでいる丹波市のように安心して暮らすためには病院や警察、豊かに暮らすためには学校や文化施設などが欠かせません。被災地の場合は堤防や避難所などが必要だと思います。これらのものをすべて作るには莫大な税金が必要です。義援金を集めたり、節電を呼びかけたりすることは大切だと思うけど、復興への近道として、みんなが税金をきちんと納めることが、一番大切なことではないかと思いましたが。

政治では、どの党が正しい意見を持っているのかどうか、僕はまだわからないけれど、税金は多くの人々の生活に役立つように、大切に使うべきだと思います。税は、僕たちの生活になくてはならないものだと感じました。

納税とは、僕が社会に出る時や、その後になった時に豊かで安全に安心して暮らしていくために、少しずつ貯金をしていると思います。そして納めた税

は、形を変えて僕達の元に届けられています。税には納税者の苦労や思い、願いが結まっています。だから、その思いをしつかりと受け止めて大事にしたい、一人一人が税について関心を持っていくことが僕達の役割ではないかと思えます。そして、僕達が社会に出る時は、今度は納税者として社会を支えていかななくてはならない大きな責任があるから、税の使い方や仕組みなどについて、よく知っておくことが大切です。

今、僕達にも出来ることはたくさんあります。例えば、資源の消費を少なくしたり、学校などの公共施設を大切に使うことなど、身近なところにあります。どんなに小さなことでも、大切に税金を使うことが僕たちが出来ることではないかと考えました。

今日、この一日も税があちこちで生きていて僕たちは生活しています。だから、一円であろうと税の重みを大切にしていき、僕達を支えてくれている税や納税者への、「感謝の気持ち」を忘れずに、この国を支える一人になるうと思いました。

「笑顔の源」

平群町立平群中学校

三年 東 千 晶

私には高校生の兄がいる。先日、兄

が発熱し医院に行く際、母が見慣れない証明書準備していた。よく見ると「心身障害者医療費受給資格証」とある。母の説明によると、聴覚に障害をもった兄の医療費を町が助成してくれる証明書だった。他にも「特別児童扶養手当」という給付金制度もあると聞いた。生活や成長を支える様々な福祉制度に兄は助けられているのだ。耳鼻科の定期検査に通ったり、補聴器を購入する必要もあった。これらの全額がもし家庭の支出であったなら、大変な負担になったと思う。金銭だけではない。平群の町営プールでも障害者手帳を持つ人とその付き添い者に、入場料軽減の措置がとられている。ハンデに よって、外出せず引きこもりになりがちなの社会参加を促す、大変意味のある制度だ。これらは県や町の財政から支出されているとも母は言った。

多くの人の税金で兄は支えられていると痛感した。兄を育てるために、母は仕事をやめた。できるだけ兄と共に過ごし、愛情を注ごうとしたのだろう。母が仕事をやめた分収入は半減してしまった。そんな家計を様々な福祉制度が補ってくれた。これらの制度の財源となる税を払った多くの人に私は感謝の気持ちを忘れたくないと思う。兄ももうすぐ成人する。今度は自分が税を納めることで、社会を支えていく立場になるのだろう。

税を払うということは、国民の義務

である以上に、一人ひとりが社会に貢献できる誇らしい役割なのだ。先頃起こった東北大震災では、多くの人が義援金を送った。日本ならではの「大変な時こそ助け合おう」という思いやりの精神が、顕著に表れたといえる。しかし、義援金を継続的に送ることは簡単ではない。また、世界には私の知らないところで苦難や貧困の淵に立たされている人もあろう。そんな人たちに私の納めた税金が有効に使われているとすれば、嬉しい限りである。

つまり税金は、公共施設や道路となつて私自身の生活を送りやすくしてくれるだけではない。社会の隅々に私の思いを運ぶ一助となつてくれるものなのだ。

今日日本では少子高齢化が進んでいる。年金や医療費が増加するのは確実である。被災地の復興のためにも莫大な資金が必要だろう。これから納税者となる私たちの責任は大変重い。税がどのように集められ、何に使われているのかを注意深く見守っていかねばならない。税金によって支えられるありがたさを知る私は、これからも税が多くの人々の笑顔の源となることを思いを寄せ、社会の一員として精一杯生きていきたい。

税の使い道

紀美野町立美里中学校

三年 阪 口 僚

三年の社会の授業で、憲法でさだめる国民の三大義務として、普通教育を受けさせる義務、勤労の義務、そして納税の義務を学習した。国民の生活の安定と向上のために、国民自らの手でおこなうものであり、その費用も自分で負担しなければならないと書かれていた。

新しく誕生した野田新内閣も国民に税負担を御願いしたいと話していた。僕は、税金は納めなければならぬということはわかってる。でも、税金が増えれば、僕達の生活費に影響してくることは、まちがいない。お菓子をかう数を減らさなくてはならないというのだ。税金は大切だとわかっていても自分の身にふりかかるとなると、嫌だなあと感情が湧いてくる。でも、先日、「税についての講演」が僕の学校であった。その時、もらったパンフレットには和歌山県の歳出額のトップは、教育費であった。歳出総額の二十%も、教育関係にあてられているのには驚いた。僕達が安心して勉強できるのも、税金のお蔭なのである。

僕の母の叔母は、八十六歳で一人で生活している。一年程前から足を悪くして、買い物にも行けなくなり、時々

母が買い物に連れて行ってあげてくれた。母がデイサービスをお願いして、みることを提案しても叔母は、

「自分で何かできるうちは、少しでも、自分の力でしないと、若い人達が納めてくれている税金を無駄に使っては、罰があたる。」

と言って、今でもがんばって一人で生活している。病院へ行けば医療費がかかるので、できるだけ病気にならないようにと食事に気をつけたり転ばないように気をつけたりしている、と聞く。納めた税金を、無駄に使わない。本当に大切なことだと思った。

講演に来て下さった人もおっしゃっていた。国民一人一人がポケットの中に入っているゴミを一つ道路に捨てないだけでも、数百億円という金額が浮いてくると話された。家庭のゴミを減らしたり、軽い症状で救急車を呼んだけりしないという、ちょっとしたことに気をつけることで、税金が無駄な所へ使われなくて良い。又、パンフレットを見て、知ったことは、国債費に二三・三%が使われていることだ。国の財政支出の約四分の一が借金の支出に当たっているということになる。そして歳入は国の借金である公債金収入が予算の半分も占めているという事実が驚いた。国の借金を減らし、返済していかないと、日本の国民の子孫にまで大きな借金を残すことになってしまう。国民の税金や多数の借金で成立する予算だから、無駄な支出を省けば、支出額

は今よりもっと抑えられ、借金も少なくなっていくと思う。

今、僕達にできること、しっかりと勉強して無駄をなくすことである。そして、未来に多額の借金が残らないように考えていかなければならない。

みんなで支える 社会保障制度

滋賀大学教育学部附属中学校

三年 竹 本 堯 史

「ゆりかごから墓場まで」社会保障の充実を意味する言葉で、日本を含め多くの国が目指す姿だ。しかしながら、財源確保が出来なければ夢物語となってしまう。現に社会保障制度の充実している国の税率は非常に高い。「税金は高いと困るが、社会保障は充実させて欲しい」今の世論をそんな風に感じるのには僕だけだろうか。

昨年僕の祖父は他界した。呼吸器疾患で絶えず酸素吸入をし苦しそうだったが、最後はとも安らかだった。悲しい別れの後、夫を亡くした祖母は「もう酸素装置もベッドもいらねえ。永い間ほんとお世話になったわ。」とぼつりとつぶやいた。祖父は訪問介護は勿論、高額な酸素装置や電動ベッド等をわずかな負担で利用し、その他様々な行政公共サービスも受けていたのだ。すべて自費では到底無理

な負担であったろうし、費用だけでなく様々な相談窓口もあり、病状の進行に伴って主治医を軸にトータルサポートを受けたと言う。母は解約手続きをしながら「こんなにお世話になっていたのね。」と驚くと同時に非常に感謝していた。その時僕は少し意外な気がしていた。ニュース等では問題点ばかりを耳にしていたからだ。祖父の事が無ければずっと誤解していたかもしれない。現状や事実を知らず非難だけしていたようで恥ずかしくなった。日本の健康保険制度は簡単にいえば「みんなが負担して助け合う」といったシステムで、国民健康保険という目的税になる。元氣な世代が高齢者を支える。年金も同じだ。でも大きな問題点は少子高齢化だということ。支える人口が少なく、支えられる人口が多い逆ピラミッドなのだ。益々財源確保は困難になる。更には追い打ちをかける先の震災。危機的状況、絶体絶命の日本だ。当然増税といった言葉も聞こえてくる。

「ゆりかごから墓場まで」安心して過ごすことができる幸は、何物にも代えがたい。そのためには国民の義務として税を納める必要がある。当たり前前の事だ。しかしながら僕も含め、無知であり無関心のため本来に必要な事も現状も知らずに、不安と不満を抱いているようだ。増税は確かに喜ばしいことではない。だけど納得する課税方法で、税の収支決算や使用目的を明らか

かにし、財政ビジョンを国民に明確に知らせ、国民も責任と意識を持って知る。そうすることで互いの信頼関係を築きあげれば納得し変わるはずだ。

母が言ったことがある。「この国の未来を背負う貴方達の為、有効に使用されると信じて税金をしっかりと支払っているのだから。貴方も大人になつたらきちんと納税できる人になつてね。順番よ。」やがて僕たちがこの国を背負う時代が来る。その時には胸を張って納税できる人になりたい。それが祖父、いや自分自身もお世話になつた事への恩返しだと思ふから。

税金について

広島大学附属中学校

三年 林 いずみ

中学生である私が一番身近に感じる「税」は、何かを買ふと必ず払ふことになる「消費税」だ。私はいつもこの消費税で損をした気分になつてしまふ。欲しい物に支払うのではなく、よく分からない目に見えない何かにお金を出さないといけないと感じてしまうからだ。同じように感じたことのある人もいるのではないかと思う。しかし、もし税がなかったら私たちが何気なく過ごしている日常はどう変わってしまうのか。私たちが納めている税は

どのように使われているのか。疑問に感じたので、税の使われ方を調べることにした。

調べてみて分かったのは、税金の主な使い道は社会保障だということだ。社会保障は、国家が国民の生活を守ること。つまり、私たちの生活は国家が税を使用して、言いかえれば私たちが間接的に私たちの生活を守っていることになる。さりげなく通り過ぎてしまふいそうなもので、ゴミの収集や消防署、警察署、横断歩道や信号機の設置などが例だ。もしも税のシステムがないと、ゴミの収集はされず衛生面の問題になり、緊急の場合の救急車やパトカー、消防車などは有料。呼ぶが遅れてとりかえしのつかない状況になるかもしれない。交通量の多い、横断歩道や信号のない道で事故が起こる可能性もある。税金で、と軽く言つても、私たちの日常は深く税金に支えられ、その上に成り立っているのである。

三月十一日、誰もが想像も、予想もしなかった大震災が日本を襲った。未曾有の大打撃に国民や国家は揺れ、落ち着きを取り戻しつつも今なお不安定に揺れ動いている。日常が非日常になり、非日常が日常になりかわる現実を目の当たりにして、ようやく当たり前のことなどないと気づいた。当たり前のように一日が始まつて、何事もなく一日が終わることがただだけ幸せか。自分が普通だとおもっていることの裏側で何人の人が動いていたか。遠い被

災地の惨状をきっかけに考え直させられた。

それ以来、ふと目にしたものに「これも税金だね。」と考えることが増え、その数の多さにびっくりした。何気ないことの裏でお金が動き、人が動き、国家が動き、政治が動く。どう割り切つても当たり前にはならない。その上に生かされている自分は幸せだと感じた。

私もあと五年すれば、政治を動かす議員を決める権利がもらえる。国を、強いては自分たちの未来を決めることになる。何が正解で何が間違いかは答えの出ない世界だけど、今の当たり前に見える幸せを壊さないよう、さらにより良くしていけるよう、今から知り、考え、行動することが必要だと思ふ。

税がもしなかったら…。

岡山県立岡山大安寺中等教育学校
二年 中村 明日香

チリチリリン、目覚ましの音で私は目を覚ます。顔を洗いたいのが水道なんでもものはない。だから自分たちで川から汲んできた水をキレイにして利用する。トイレも同様に。なんて手間がかかるのだらう。ああ、面倒だ。顔を洗い終えてリビングで朝食を食べていると、もう七十七歳になる祖父がスーッ

を着て出かけて行く。年金がないので生活費を稼がなければならぬのだ。

母は家事をしながら「あなた、もう少し収入は増えないの。最近お姉ちゃんが体調を崩してほとんど治療費もつてかれちゃうの。生活費のやりくりが大変なのよ。」と父に言っている。ああ、そうか。医療費も全部自己負担なのだ。ついでに言うとうと、介護がないと生活できない祖母の介護費も全部自己負担。：朝っぱらから我が家の会話はお金のことばかり。頭が痛くなつてくる。そろそろ学校に行く時間。家を出ようとした私を「待って、教科書代忘れてる。」と母が呼び止めた。ため息をつきながら、財布から母が教科書代を私に出す。その教科書代を持って私は学校へ向かう。きちんと整備された道を通るにはお金が必要。だから通学路はゴミが散乱した整備されていない道。そんな異臭がする道を歩いて学校へ到着。そして授業を受け、放課後。授業でわからなかったところを職員室にいる先生に質問しに行く。先生の机の上には『質問一つにつき百円』と書かれてある。私はその箱に百円入れて勉強を教えてもらう。それが終わつたら、また異臭がする道を通つて家へ帰る。「ただいまー」と言つても家には誰もいない。母はパート、病弱な姉も学校が終わつてすぐバイトに、祖父と父は仕事、祖母は介護施設。ぼーっとしていると父が大急ぎで帰ってきた。どうやら財布を落としたらしい

納税の義務

新居浜市立南中学校

三年 川 口 真 由

い。交番に行くと言うのでなんとなく私も一緒についていった。交番に入ったらおまわりさんが「いらっしやいませ、どのようなご用件でしょうか。」と言ってきた。「落とし物をしたんですけど。」と父。「落とし物でしたら、一つにつき二千円です。」そう言われて父は二千円支払った。「ありがとうございます。」と、おまわりさんがニコニコしながら言っている。私と父は、異臭がする道を通って家へ帰った。夕食を済ませ、面倒な歯磨きとトイレをしてベットに入る。宿題？そんなものはない。先生が作るのダルいからと言って。良いことなのか良くないことなのか。複雑だ。頭がモヤモヤしつつ、私は眠る。

もし税がなかったら、こんな毎日だろう。そう思うとゾツとする。そして改めて税はなくてはならないものだと実感する。税は国のためだけに存在するのではない。私たち国民の生活をより豊かにするために存在するのだ。そんな生活を支えてくれる税を納めてくれている人々に、私は心の底から感謝している。『本当に、ありがとう。』

「放射線の治療費は、いくらぐらいかかりますか？」

八月に祖父が肺ガンの治療の為に、松山のガンセンターに入院することになった。以前からあった腫瘍を放射線によって治療してもらおう為である。手術は、肺機能が低下している為、難しい状態だ。検討の結果、放射線治療でお願いすることにした。今まで手術はした事はあったが、放射線は初めてだったので担当医師に、尋ねてみたのだ。

「七十万。」

医師の言葉に、祖母は驚いた。でも、手術と違って放射線だから高いのだなと、思いつつも費用負担の大きさに不安を感じていた。ところが、医師は続けて、明るく言った。

「でも七十歳以上よね。一割負担だからね。」

日本には、医療保険制度がある。私たちが病院に行って支払う治療費は、全体の三割だそう。それが七十歳以上の人は、一割負担になるらしい。以前テレビドラマで、人と人が助け合い医療を皆が等しく、受けられるようにとの思いから、医療保険制度が出来たと知った。今まであたりまえのよう

に、感じていた制度だが考えてみると、素晴らしい制度だ。先進国であるはずのアメリカには、医療制度はない。病院に行くと治療してもらおうと高額な医療費がかかるそう。全額負担だからだ。そうなる自然に少しくらいの病気なら、我慢しようか、市販の薬にしようとか考えるようになるだろう。その結果、症状が悪化したり、他の病気の早期発見も遅れてしまうことになる。

今年日本は、三月十一日に東日本大震災にみまわれた。あの時、私たちは、午後の授業を受けていた。振動は全く感じなかったが、しばらくして津波に注意するように、喚起する広報車の声を遠くで聞いた。地震、津波、原発損傷など、被害はとてつもなく大きい。日本はこれからどうなるのだろうか。復興財源確保の為に、所得税の増額や、消費税の増額は避けられない。しかし低所得者や老人にとっては生活に直接響く為、死活問題になる。生活用品や食品だけは負担を少なくするなど、制度の細分化も検討してもらいたい。

税金によって、私たちの生活は成り立っている。そのおかげで、医療、学校、各施設、道路も整備出来ているのだ。警察、消防など私たちが安全に生活出来ているのも、税金で守られているからだ。今まで税金について何も考えたことがなかった。でも、税金を学べば学ぶほど納税をすることは、私た

ちの『義務』だと感じている。私たちも大人になった時、きちんと納税出来るように、今は自分の勉強をしようと思う。明日の豊かな日本社会を築いていくのは私たちなのだ。

「税金」に感謝して

つるぎ町立半田中学校

一年 西 朱 理

この夏、私あてに二つの予防接種の案内が来ました。麻疹・風しん混合予防接種と子宮頸がん予防接種の案内です。どちらも接種料は「無料」と書かれてありました。病気から体を守る大切なワクチン接種がなぜ無料で受けられるのか、不思議に思い母に尋ねてみました。そこで初めて、これらの予防接種には大切な税金が使われているということを知りました。

例えば、子宮頸がんの予防接種を受けるには、すべて自己負担なら五万円程度の費用がかかります。しかし、「中学一年生から高校一年生に相当する年齢の女子は、市町村や県から通常かかる費用の全部の助成を受けることができます」と書かれてありました。子宮頸がんは唯一、ワクチン接種により予防が可能ながんです。もしワクチンの費用が全額自己負担だとしたら、どうなるでしょうか。予防接種を受けたくても受けることができないという人

もいるかもしれませんが。税金はみんなが平等に受けられるように、そして病気が予防できるように、助けてくれているのです。私が生まれてから今日まで無料で受けてきた予防接種は、すべて税金で賄われていたことを知り、健康な体で生活でき、勉強や部活に励むことができる幸せをかみしめ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

考えてみると、税は様々なものに姿を変えて、国民の暮らしを支えてくれています。行き届いた医療制度はもろんのこと、福祉、私たちが通う学校、教科書、毎日部活で汗を流している体育館。そして、警察署や消防署、自衛隊など、日本の治安や災害時の救助、復興にも。考えてみれば、私たちのまわりは税金で成り立っているものであふれていることに、改めて気づかされます。

しかし、私たちが豊かで安心して暮らしていくために、なくてはならない税金なのに、どうして「納めさせられる」というマイナスイメージを持つのでしょうか。

近い将来、消費税の税率が引き上げられるという話をよく耳にしますが、国民が納めた税がどのような使われ方をして、私たちの生活とどのように関わっているか理解することで、マイナスイメージはなくなるのではないかと思います。

税金によって受けている恩恵は、私たちが一番よく分かっているはずで

す。だからこそ一人一人がもっと納税の意味を理解し、どう役立てたいか考えていくべきだと思います。

日本は人々が支え合えるすばらしい国です。その日本が悲鳴をあげないよう、気持ちよく納税し、その税金が、幸せな暮らしづくりに役立てられる社会であってほしいと思います。

そして、中学生の私にできることは、納税者の方たちへの感謝の気持ちを忘れずに、その期待に応えて勉強し、社会に役立てる人間になれるよう成長することだと思います。

あの音と共に

久留米市立田主丸中学校

三年 高尾 純 奈

救急車のサイレンの音が遠くから聞こえてきた。その音を聞くと、この夏の出来事を思い出す。八月のある日、私は祖父を亡くした。あまりにも突然に。

その日、祖父が息をしないことに気付いた祖母は、すぐに救急車を呼んだ。救急隊員の人々が急いで心臓マッサージを行いながら、そのまま祖父は救急車の中へ運ばれた。救急車の中でも、病院に着いてからも、心臓マッサージは休むことなく続けられたそうだ。

祖母と私の母は、祖父が救急隊員に

処置してもらっていると目を目の前で見ていた。その時の救急隊員の表情は、真剣そのものだったという。

後から聞いた話だが、私の母は、祖父はもう息を吹き返すことはないと言われた時、これだけ一生懸命に頑張ってもらっても無理ならば、もう仕方がないと思ったそうだ。救急隊員や病院のみなさんが、祖父の為に一時間もの間、心臓マッサージを続け、汗だくで最善を尽くしてくださったことが伝わったからだと思う。もし、手を尽くして救命にあたったということを目にしていなければ、「祖父の死」というものを、なかなか受け入れられなかったのではないだろうか。しかも、そのあとに救急隊員のみなさんは、祖母のところへ挨拶をしに来てくださったそうだ。

税金は日本に住む国民が納めているお金だ。そんな税金で救急車は動いている。病气やケガで困っている私たちの元へ、電話一本で夜中でもかけつけてくれる。しかも、いつもこんな風に最善を尽くしてくれるのだ。私はもちろん、たくさんのお金に税金が使われていることは知っていた。でも、実際にこんなに身近に税金の凄さを知ったのは初めてだ。税金は「取られる」という言い方をされるけれど、きちんと私たちの為に使われていて、役に立っている。税金を納めることは決して無駄ではない。それが、すごく素晴らしいことだと私は思う。

祖父は残念ながら亡くなってしまっただが、救急車のおかげで助かる命もたくさんあると思う。そして、祖父のように自分が納めていたお金が、自分自身のために使われる、そんなこともある。きっと自分の税金が誰かのために使われるということを、納税者一人として祖父も喜んでいるだろう。税金がある。私は今、そのことに心から感謝している。

当たり前前ありがとう

明治学園中学校

三年 渡 邊 倫 子

「お母さん、これ洗って置いて。」また口に出してしまっただけ、はっとする。夏休み、私は三週間親元を離れ、イギリスの国際キャンプに参加した。普段は口うるさいし、いて当たり前だと思っていた家族がこんなにありがた存在なのだ初めて思った。改めて私の日常に目を向けてみると、当たり前すぎてそのありがたさに気づくことができなかったことが多くある。例えば、毎日学校に通い、楽しく学べること。整備された道路や街並み。警察や消防に守られた安全な暮らし。実はどれ一つが欠けても、安定した日常

生活を送ることができない、大切なものばかりだ。しかも、これらは、全て税金によって作られ運営されている。私の一日一日は、目に見えない形で多くの人に税金によって支えられているのだ。そう考えると、当たり前がどんなにありがたく、感謝すべきことなのかを私は初めて実感した。

一方、増税の可能性がある、というニュースが流れ、「また税金を取られるのか」とため息まじりにコメントしている人々の姿が報道されると、私は何だか違和感を覚える。税金は一方的に取られるのではなく、人々が支え合って暮らしていく仕組みなのだ。私達は当たり前がありがたさを見失ない、税によって支えられていることに感謝することを忘れていたのだと思う。だから、目に見える形で納める消費税が五%から七%へ引き上げられるニュースに敏感に反応してしまうのだろう。

イギリスのデパートでTシャツを買った時、私は消費税の高さに驚いた。ガイドに聞いたところ、イギリスの消費税は二十%だという。食料品や紅茶・子供の衣料品などには税金がかからないそうだが、イギリス国民は税金の高さに疑問がわかないのか、不思議に思った。一方、税金の使われ方を目を向けてみると医療費は全額無料で、子供は薬代も無料になるなど、社会保障が充実し、税金によって支えられている実感が持ちやすいことが想像

できる。また、歴史的建造物の維持や博物館などの文化施設の無料化など、イギリス国民が自国の文化や歴史に誇りを持って、社会を支えていることがうかがえた。税により支えあう精神がしっかりと根付いているのだ。

三月十一日に発生した東日本大震災によって、多くの日本人が安心して暮らせる日常を失ってしまった今だからこそ、私達は税金によって支えられた当たり前がありがたさに気づき、心から感謝すべきなのだ。私はまず、税金によって目に見えない多くの人々に支えられて学べる幸せをしっかりと噛みしめて、精一杯自分自身を磨きたいと思う。そしていつか、力強く社会を支えることのできる大人になりたい。将来、大人になったら、次の世代に必ず伝えよう、当たり前がありがたさに、心から感謝することを。そして、多くの人を支えあい、助け合う生き方のすばらしさを。

税を贈る

福岡市立高取中学校

三年 平 木 礼 乃

毎年夏休みになると、私の祖父は蟬の鳴く縁側で色々な話を聞かせてくれる。今年祖父が蚊取り線香の煙の中で話してくれたのは、若い頃所属していたという自衛隊の話だった。

今年三月十一日、東日本大震災で東北地方が大きな被害を受けた。津波が街を飲み込み、道路も橋も流された。私が生まれ人生の三分の一を過ごした場所も海に吞まれるのを見た。私は何をすればいいのか分からなかった。募金はした。いらなくなった毛布を引っぱり出してもみた。でも何がいいことなのか分からない。

その答えは祖父がくれた。税金でちゃんと東北とつながっているよ、と。そして自衛隊もそのつながりを作っている一つだ、とも。

私たちが払う税金が役に立っている事と言えば、警察署や消防団、教科書や学校などと身近な人や物が浮かぶ。では道路や橋はどうだろう。壊れたり穴が開いたりしたら、一体誰が修理してくれているのだろうか。

実は、土木業を専門とする会社の他に、自衛隊も道路や橋を修理してくれている。もちろんそういった作業は全て税金でまかなわれている。

自衛隊は、今回のように日本で災害が起きた時にも出動をし、被災地で救援活動をする。被災地に供給される食料や水、毛布などの日用品にも募金等で集まったお金だけでなく税金も使われている。

私達が払う税金、それは自衛隊の支援という姿に変わって、ちゃんと東北地方に届いていた。壊れた道路も橋も、もつと丈夫に修理され、東北の人達の生活を支えられる。募金だけでは

なかなか難しい日用品の供給も、税金なら私達が自分自身を支えるために出したお金だから、必要な人の元に確実に届く。

税金は日本中を結ぶ大切な道、希望への架け橋になっている。その事に気付くことができ、私は本当に良かったと思う。今年の夏はいつもと少し違う、大切な事を教えてもらった夏だった。これからは税金を、心を込めて払おう。この少しだけが積もって、大きな贈り物となる日がきつと来る。今困っている人に、それでもしかすると未来の自分へ、税金は人と人を結ぶことのできる大切な贈り物だ。

蟬の合唱がびたりと止んだ。耳に染みる静けさもいいね、と祖父が言う。うなずきながらそうか、と思う。税金は私の大好きな祖父の未来も支えてくれる。

「税」のすがた

佐賀市立美蓉中学校

三年 大 塚 麻 央

「税について簡潔に説明しなさい」こんなテストのような質問をされたとき、昔の私だったらこう答えていました。

「社会の一員として納めなければならぬもの。」

「仕方なく」という言葉が入る方が正解かもしれませんが。「税」は私にとって都合のいいことではないと思っていました。しかしそれは、この税の作文を書くまでです。「税」に対する考え方と思いが大きく変化しました。

私にとって「税」とはどこか遠い存在のような気がしていました。私は毎日きれいな通学路を通り、毎年新しい教科書をたくさんもらっています。毎日を安全で安心に暮らしていること、学校生活を楽しく過ごしていること、そんな全ての「あたりまえ」が、「税」のおかげだったなんて私は考えたことがありませんでした。「税なんて関係ない」と無関心だった自分が恥ずかしくなりました。自分は「税」によって今があることの実感と、「税」を納めてくださっている方への感謝の気持ちが込みあげてきました。「人が税を納めて、人が税で救われる」

「税」はただ「納めるもの」ではなく、人と人とを繋いでくれる、「絆」のような役割を果たしているのだと思います。今この瞬間も誰かが納めた税で、きっと人が救われていることでしょう。そう思うと「税」が素敵なものに思えてきました。

もしも、この世に「税」の仕組みがなかったら、私達の「あたりまえ」は成り立っていないかと思うと思います。私は十四年間生きてきて、幸いにも、事故にあつたり事件に巻き込まれ

たりしたことがありません。そんな「あたりまえ」で素敵な毎日が「税」の仕組みなしで成り立っていたでしょう。きっと違うと思います。道路や橋が整備されていなかったら、安心して人と車が通行できません。公園や学校がなかったら大切な仲間との出会いもなかったと思います。

現在問題になっているのは東日本大震災による増税問題です。テレビでたまに見かけます。「増税」と聞いて嫌な思いをするのではなく、もっと一人一人が「税」について考えなければなりません。東日本で被災された納税者の方が納めた「税」で、私達は何か救われたことが、今まで、そしてこれからあると思います。増税に「嫌」の一点張りではなく、協力の心を持ってもいいかもしれません。

私は「税」が人と人とを繋いでいることを感じました。これから大人になるにつれ、納める税がどんどん増えると思います。そんなときも、人のことを想って納税したいです。

「税について簡潔に説明しなさい」

こんなテストのような質問をされたとき、今の私だったらこう答えています。「税とは人と人とを繋ぐ絆です。」

自分の幸せと「税金」

日田市立三隈中学校

三年 森

みずき

三月十一日。世界でも最大の地震が日本を襲った。中学校生活最後の夏休みは、改めて自分の幸せについて考えさせられた。

父から夏休みの始まる前、「今年も東北に行くぞ。」と連絡があった。父は国家公務員で単身赴任中である。そんな父は今年の夏、被災地である岩手で復旧作業をすることになり、私も夏休みの三日間行くことになった。

そこで私の目にとびこんだのは、本当に何もなくなった広大な土地、そして、がれきの山。重機が入るために道が整えられ、止まったままの信号は他県からきた警察の手でその役目を果たしていた。

「自然が壊すぶんにはお金はかからなくて、片づけたり、元に戻すのにはとてもないお金がかかるな。」父がある時言った言葉をハッと思い出した。がれきを片づけるだけでも、重機を用意したり、人を雇ったり、一時保管場所を用意したり……。きっと私の気付いていないところにも膨大なお金が使われている、ということに気付いた。

そんなお金はどこから？と考えると

き、一番に浮かんだのは、私の通う学校やテレビ、街頭で集めている義援金だった。そして「税金」からも「災害復旧費」としてお金が使われていること、私たちの県ではその予算が八十七億円もの額を占めていることを学校の授業を通し、知ることができた。

「税金」と聞くと、どうしても「難しい」というイメージがある。しかし、復旧途中の被災地を見て、国民の払う税金の一部が有効に利用されているのを目の当たりにした。そして、未だ学校などの避難所や仮設住宅で暮らす多くの人々の命をつないでいるということにも気付くことができた。

被災地で驚いたことがもう一つある。それは「ありがとう」や「報恩」など感謝の言葉が多く場所で見られたことだ。直接的な支援はできなくても、間接的な支援が感謝されている、ということを知った。

「税金」について改めて考えると、私が義務教育を受けられることも父の給料で自分が幸せに暮らせているのも「税金」のおかげだった。そう考えると「税金」は自分のとても身近にあったことに気付いた。

大きな困難は皆で力を出し合えばきっと乗り越えられる——今回の震災でもその姿は多くの人々に勇気を与えた。「税金」も一人ひとりが出し合うことで、大きな力になる。今回だけでなく、「税金」は幅広い場面で役立っていていくに違いない。近い将来、納税の

義務を負うときがきたら、自分も大きな力を一部になれるよう社会に貢献していきたい。

税金・納税の大切さ

諸塚村立諸塚中学校

一年 藤崎真桜

私は、税金が何に使われているのかあまり知りませんでした。だけど、中学校で租税教室が開かれた時に学び、税金の大切さを初めて知りました。

私がまず初めに知っておどろいたことは、税金が意外と身近なところに使われていたことです。私達が普段、当たり前のように使っている道路や公共の施設などは、税金があることによつて、みんなが使えろといふことを知り、税金がなかったら、私達の暮らしはきつと今みたいに豊かで安全に過ごすことができなかつただろうと思ひました。

さらにおどろいたことは、私達中学生の一人一人の教育費に年間約百万円もの税金が使われているということだ。教科書などが税金で支給されていることは知っていたけれど、そんなにお金をかけて下さっているなんて、全く知りませんでした。

税金は、私達の暮らしに深く関わっていることを知り、本当に本当にありがたいことだと思ひました。でも、そ

んな大切な税金を納めない人だつています。自分達のために納めろといつても良いほど大切な税金なのに、なんで納めないんだらうと思つてしまひます。

そんな人もいる中、私の住んでいる諸塚村は、平成二十二年度で税金完納六十年という記録を達成しました。こんなによい記録を達成したことは、村民の税金に対する理解や協力が大きかつたと考えられます。このよくな記録を出すまでに、どんなことがあつたのかを調べてみました。

諸塚村は、終戦直後の混乱の中、財源が少なく、事業の一部を村民に負担させたり、村の財産を処分して財源にするなど、苦しい時代があつたそうです。また、その頃の納税者も生活が貧しくて、やむを得ず滞納しており、それによる差し押えもひんばんに行われていたそうです。そこで、昭和二十六年に村税完納運動をおこし、村民一体となつて努力した結果、百パーセントの完納を達成することができたそうです。この百パーセント完納の偉業が、昭和二十六年度以来、村民の自覚と努力によつて今までずっと、伝統のように継続されているのです。

私はこの事を知つた時、あまりにも素晴らしいおどろきでした。こんなによい偉業を達成している諸塚村を、私はほこりに思ひました。

私達は、今までもこれから先も、税金のおかげでより良い社会で暮らして

いけるのです。私は、税を納めない人に、「税は必要」という事を知つてもらいたいです。

私が大人になつたら、諸塚村のこの素晴らしい記録をさらにぬりかえていけるように、自分達のためにしっかりと納めようと決心しました。そして、私達が生きていく未来が、税によつてもつとよい社会になつてほしいと願っています。

命を守る税金

石垣市立石垣中学校

三年 大城涉

僕はこう見えても、けっこう新聞を読みます。新聞配達をしているのが関係しているのかもしれませんが、とにかく読みます。

最近では東日本の震災に関連した記事、福島県の原子力発電所の事故に関する記事、それから菅総理がいつやめるのか、はやくやめてほしい、という記事がほとんどです。

でも、先日僕の目をひいた記事はこれらのものとはまったく違う記事でした。それは、『看護師になりました』という見出しでした。二十一年前、三歳の時に崎枝で自動車にはねられて意識不明の重体になつた黒島愛理さん（現在二十四歳）が、八重山病院で治療を受けた結果、奇跡的に回復し、今

では琉球大学附属病院で看護師として働いている、というものでした。

この記事を読んで僕はいろいろなことを思ひました。まず最初に思つたことは、黒島さんの意思の強さです。黒島さんは病院に入院していたときから看護師になるのが夢だつたそうです。夢を実現させるために、何年も一生懸命に勉強したのだと思ひます。

それから黒島さんは、「いずれは島に戻り、地域の医療福祉に貢献したい。」

とも話していました。自分を助けてくれた病院や地域に感謝の気持ちを持ち続けている点にも僕は感動しました。

もう一つ僕が思つたことがあります。それは、

「もし、二十一年前に八重山病院がなかったら黒島さんはどうなつていただろう。」

という事です。八重山病院は今から六十二年前に、八重山民政府立慈善病院としてスタートしたそうです。そして今から三十一年前に現在の場所に移転したのだそうです。もし、八重山病院が石垣になかつたら、黒島さんは本島の大きな病院に運ばれることになつたかもしれませんが、運が悪ければその途中で命を落としていたかもしれせん。八重山病院が石垣にあつたからこそ、現在の黒島さんがあるのです。

八重山病院は県立です。だから、税金で作られたのです。もし税金がな

かったら、病院も作れないだろうし、病人やけが人を病院まで運ぶ救急車がある消防署も作れないはずです。何人もの貴い命が失われることになります。八重山病院があつてよかつた、税金で八重山病院を作つてくれてよかつた、と思ひました。

僕は、税金というのは、なんとなく「とられるもの」というイメージを持つていましたが、僕たちの命に関わることに使われているのだということが、少し分かつた気がしました。「とられるもの」ではなくて、僕たちが安心して生活するために一時「預けるもの」というイメージが変わりました。

財団法人日本税務協会
会長賞 受賞作文

税金の大切さ

北斗市立浜分中学校
二年 北 林 瑠 華

祖母の家の机の本棚には、難しい本が並んでいる。税金に関するもの、申告の手引書などである。そろばん、電卓、文具類、印鑑もたくさん置かれている。祖母は昔、会計事務所に通っていた。企業や自営業などの利益を計算して帳簿を作り、税務署に税金を納めるまでの流れをつくる仕事をしてきた。申告の時期はとても忙しかつたそうだ。

私は中学校に入つて、税金の意味、使われ方、どんな方法で国に税金が納められるのか改めて深く考えさせられた。

納税は国民の義務であるにも関わらず、私たちは身近にある税金についてあまり知らずともしなかつた。

暮らしの中で必要な救急車、消防車、ゴミ収集車、病院、色々な所で税に支えられている。だから、私たちは安心して生活する事ができる。

今年の三月十一日に起つた、東日本大震災。地震や津波の影響により道

路や住宅、がれきの処理などにたくさんのお金が必要となる。今、日本は大変な状況に直面している。苦しい人々に對して私たちは何をすべきか。全てのものが今、復旧が必要な時となっている。私たちの税金の少しでも、被災地の人々の力になることを強く願っている。

社会保障については、約十年前、四人の働き手が高齢者一人を養う社会であつた。だが、未来にいくにつれ、二人が一人の高齢者、一人が一人の高齢者、という時代になつていく。

近年は、医療が発達し、難しい病気や死者数の多い「がん」などを治せるようになってきた。これはとても、素晴らしいことだ。そのため、高齢化が進み、平均寿命が延びる。その反對に今は出生率が減り、将来の働き手が減つてきている。将来の財源はどうなるのだろうか。消費税などの、税率が上がる可能性もあるのではないだろうか。高齢者だけではなく、体の不自由な人々たちに対する福祉の充実も大切な問題だ。私たちは、このような人々たちをしっかりと見守り、支えていきたいと思う。

例えば、私たちの住んでいる北海道の冬は雪が降つて路面が凍り、外を歩く高齢者や足の不自由な人にとっては危険が伴う。横断歩道や、坂道にロードヒーティングを増やしたり、北国ならではの発想も必要かと思う。

今、国は大変な借金を抱えているそ

うだ。

税金が適切に使われている事が、一番重要であり、大切に納めている税金を国は有効に使つてほしいと思う。

税金は、私たちの暮らしになくてはならないものだ。国のいろいろな所で、日本国民みんなが笑顔でいられるように。私の、祖母のように会計事務所計算し税務署に納めたり、協力し合い、支え合いみんな生きていく。将来の負担を少なくするためにも私たちは税を知る権利がある。そして、いつまでも安心して暮らせる日本であれたいと思ふ。

税で復興を

仙台市立七郷中学校
三年 平 内 さやか

今年の三月十一日、東日本大震災が起りました。私が住んでいる宮城県仙台市も多くの被害を出しました。

私の住んでいる地域も揺れがひどく、海も近いので、地震と津波の両方の被害を受けました。そのせいで、家が壊れたり、波にのまれて家に住めなくなつた人がたくさんいました。そんな中、活躍したのは避難所となつた学校の体育館です。

私の家は無事だったので、体育館に行つたのは次の日でしたが、たくさんの人で溢れていました。まだ電気が付

かず、今までに見たことがない、とても悲しい体育館だったのを今でも覚えていますが、それから何度か体育館に行きました。日に日に配給されるものが多くなり、ライフラインも復旧していき、少しずつ雰囲気も明るくなってきました。

体育館で生活するのは不自由だったとは思いますが、もし体育館が無かったらどうなっていたのだろう、と時々思うことがあります。実は私達の中学校は去年、耐震工事をしたばかりだったのです。

去年、バドミントン部だった私は練習が出来ず、耐震工事を悪く思っていたのも正直なところ。しかしこの工事も税で行われていると知り、税の大切や有難みを知ることとなりました。そして今回、税によって行われた耐震工事のおかげで体育館を避難所として使うことが出来たのです。つまり、自分達が納めている税が自分達を助けてくれた、と思えるのではないのでしょうか。

今では公園などにたくさん建っている仮設住宅もその内の一つです。仮設住宅が建つことによって、避難所にいた多くの人々が住む場所を得ることが出来ました。そして、空いた避難所は体育館として使うことが出来、学校も再開することが出来たのです。

今では、震災当時の生活や状況を忘れかけてしまう程にまで復旧しています。こんなにも短い期間で復旧出来た

のは、税が使われたおかげなのではないでしょうか。財源となった税の有難さ、大切さを痛感することになりました。

普段はお金を取られてしまう、納めなければならぬという意識が強いのが税です。しかし、今回の震災で税は、身近に自分にも大きく関係する存在として現れ、今までよりも税の役割や大きさを感じました。

悲しい思いも、悔しい思いもした震災でしたが、学んだこと、心の中で得たものも多かったと思います。常に人々や物に感謝をしながら、日々を大切に生きていきたいです。そして、地球の復興・発展に何らかのお手伝いをしていきたいと考えています。

税金とは何か 震災をとおして

取手市立戸頭中学校

二年 長谷川 麻 鈴

日本は災害の多い国である。昔からずっと地震や台風による被害を受け、多くの人の命が奪われてきた。今年三月に発生した東日本での大規模地震では、各地に大きな被害をもたらした。この災害を受けて、全国から多くの人が集まり救助にあたっている。しかし、人命救助をするにも、修復工事をするにも、人手はもろろのことお金

がかかるものである。私は、この災害の被害状況を調べているうちに、災害募金以外に、税金が人命救助や災害復興のために役立っていることを知った。そして、私たち国民と税金の関わりについて、もっと知りたいと思うようになった。

私は今、中学生だ。あたりを見わたせば、税金で賄われているものが山ほどある。例えば、毎日当たり前のように使っている学校の机、教科書、学校の水道代、電気代などである。また、通学時の道路や公園などの公共物も税金で賄われている。私たちの生活を豊かで安全なものにするために、税金は不可欠なものであり、税金のない社会は成立しないと言えるだろう。税金を納めることは国民の義務であり、税金とは私たちに与ってかけがえのない共有財産である。

最近では、「子ども手当」をめぐる論争をよく耳にする。「子ども手当」が来年、廃止されるといわれる。政府は、東日本大震災の復興に多額の予算が必要となるため、財源確保は困難と判断し、復興財源を優先するための対策であると発表した。それに対して国民からは批判や不満の声が相次いでいるらしい。私は「廃止」という判断が正しい答えなのかは分からない。ただ、税金の使い道として、「助け合い」の精神を忘れないでほしいと強く思う。もちろん、国民の中には「子ども手当」を生活資金の重要な一部とし

て、生活している家庭もあるだろう。しかし、今、日本は大ピンチのときである。全国民が、身を削って、震災の被害にあわれた方たちのために、みんなで助け合うときではないだろうか。生活が少し苦しくなるかもしれない。欲しい物が今までのように買えなくなるかもしれない。電気や水道の制限があるかもしれない。それでも、家族や大切な人を失った人たちの気持ちを考えれば、私は嫌だとは決して言えない。むしろ、私たちの少しの我慢で多くの人を救えることができるなら、いくらでも協力したいと思う。

税金は、必要とされていることにかうべきである。不足の分は、どこかを削らなければ足りなくなってしまう。非常事態では、いろいろな面で苦しくなることを国民が受け入れるべきである。お金よりもっとずっと大切なものがあることに気づいてほしい。この大切なものに気づく人が世の中に一人、また一人と増えてくれたら、日本はもっとすばらしい国になるだろう。

税金が救った小さな命

厚木市立林中学校

三年 小平 七 花

私の下唇は、左半分がわずかに腫れています。三歳のときに転んでつくった傷です。ひどい大怪我でした。首ま

で真っ赤になるほど血を流して、泣き叫んでいたそうです。救急車で病院に運ばれてことなきを得ましたが、十歳になるくらいまでずっと、「一生治らないのではないか」と心配になるくらい、傷を負ったところがいびつに腫れていました。

時が経って傷が癒えても、ふと事故の記憶が甦ってくることはありません。思い出すたびに、考えることはないのも同じです。

もし、救急車がなかったら。

救急車の中で、私は救急隊の方の適切で迅速な手当てを受け、自家用車で駆けつけるよりもずっと早く病院に到着することができました。そのおかげで、十年以上が経った今、怪我の跡はほとんど消え、痛みも残らず、ごく普通に暮らしています。

だけど、その救急車がなかったら。家族はどうしていいかわからずろたえるばかりで時間だけが過ぎていったかもしれません。混雑した道路を走る車はなかなか動かず、ようやく辿り着いた病院で、処置が間に合わず、息絶えていたかもしれません。

救急車の出動には一回に四万から六万ものお金がかかります。しかし、利用者を支払うのではありません。住民の納める税金でまかなわれています。小さな私を救ってくれたのは、名前も顔も知らない大勢の人が懸命に働いた対価だったのです。

そんな、私の命を救ってくれた救急

車ですが、最近は何となく使っている人が増え、消防局は頭を抱えているそうです。擦り傷や虫刺されなどの軽傷で安易に通報する人、通院のためにタクシー代わりに使う人などが後を絶たないと聞いて、怒りがおさまりませんでした。そんな人たちのせいで、救急車を本当に必要としている人が後回しにされたら。軽い気持ちの一九番が、救えるはずの命を奪うことになるかもしれないのです。

人の命を救いたいという救急隊員の熱意や、よりよい暮らしのために税金を納める人の気持ちに踏みじり、何より人の生死がかかっている状況にもかかわらず、自分だけ楽をしようとする身勝手な行為はとても許し難いです。税金は、納める義務だけでなく、使う側にも正しく使う義務があると使います。

学校にも通えること、安心して歩ける道路が整備されていること、きれいな水が飲めること。税金のおかげで成り立っている、当たり前だと思いがちな素晴らしい暮らしに、常に感謝の心を忘れずにいたいです。

会ったことも言葉も交わしたこともない人と、目に見えないところでつながり、支えあい助けあう社会のしくみ、それが税金です。私が自分でお金を稼げるようになったら、明るいまちと大切な命を守るために、必ず税金を納めます。それが少しでも、日本の社会を支えるのに役立てばいいと願っ

私たちの生活を 支える税金

高浜町立内浦中学校

三年 内 藤 有 貴

「とられてしまう」「絶対払わなくてはいけない」「こんななかったらいいのに」そんな言葉が付けられがちなのが税金です。しかし、私は税金について学習して、税金はなくてはならないもので、それは私達がよりよく住むための「会費」だと考えています。その「会費」を私達は、ものを買った時にいっしょに払う消費税や働いて得たお金の一部を納める所得税などの形で納めています。

では、なぜ「会費」と考えるのでしょうか。身近なことで考えてみましょう。まずは学校です。校舎、机や椅子、教科書、授業料などはすべて税金でまかなわれています。もし税金のしくみがなければ、教科書をはじめ、学校で使うもの一式を自分のお金で買わなければなりません。また、そもそも学校がなくなってしまうのです。このことを「税金教室」で聞いた時、教科書の裏表紙に書いてある文を思い出しました。「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、国民の税金によって無償で支給されています。

大切に使いましょう。」とありました。私の中で、聞いたお話とこの文の皆さんが納めてくださった税金によってつくられ、私達が手にすることのできるとても貴重なものだと感じました。同時に、私達はどのように期待されているのだから、学校に行けることを誇りに思い、もっと積極的に学ばなくてはと思いました。

さらに、税金がないと警察や消防署、病院、ゴミ回収などの公共の施設やサービス、そして政治までもが機能しなくなってしまうのです。私達が今普通にあると思っっている暮らしがなくなってしまうのです。このようなことを思い巡らせてみると、改めて税金の大切さやなぜ「会費」として納めなくてはならないのかがよく理解できました。

しかし、世の中には税金を納めない人があるそうです。国民の命や権利は憲法で守られていると学習しました。その憲法にある国民の義務の一つである納税の義務を守らないようでは、憲法で守られる資格がないと思います。人は一人では生きていけないということとを、私は今、多くの見知らぬ人々と税金を通じて支えられているということとで実感しました。だから、次は私達が税金を納めることで、次の世代の人やこれまで私達を支援してくださった人々を支えていきたいと思えます。また、世界の国々の中には、消費税

が二十五％という国があると聞きまし
た。日本の五倍の税率ですが、それら
の国では社会保障制度の充実などを通
じて自分たちの国をより良くしようと
税金を納めています。私達日本人もそ
の精神を学ぶことが大切です。

私は、「税金を納めることはより良
い国づくりにつながる」と考えていき
たいと思います。そして、税金によつ
て私達の命や生活が支えられているこ
とに改めて感謝したいと思います。

未来のための税

学校法人藤枝学園藤枝明誠中学校

二年 田山祥吾

二〇一一年三月一日。東日本大震
災が起きた。テレビで刻々と伝えられ
る被害の状況に、同じ日本で起きてい
る事だとは信じられない思いだった。
その瓦礫の中で黙々と救援を続ける自
衛隊員、警察官、消防士の姿が目につ
きつた。未曾有の災害が起こったと
き誰でもすぐに助けに行きたいと思
う。それには莫大な資金が必要だ。す
ぐに対応できたのは、国民一人一人が
納めている税金があったからだ。
母は「健康で仕事があつて税金を納
められることはいいことだと思わない
とね。」と言うが、「こんなに所得税が
取られている。」「市県民税が高くなつ
た。」とも言っている。どうも税金を

喜んで払っているようにはみえない。

しかし、募金や寄付は熱心にやってい
る。そこにはどんな違いがあるのか僕
なりに考えてみた。それは、自分の
払った税金がどの様に使われたかわか
らないからだと思う。買い物をする
時、その商品やサービスが価格に見合
う価値があれば支払いに不満は生じな
い。価格より価値が高ければ満足し、
低ければ支払うことに抵抗を感じる。
ましてやどんな商品かわからないとな
ればお金は出せない。それと同じ心理
なのではないだろうか。まず、国民に
自分達の納めた税金がどのように使わ
れているのか、誰にどんな恩恵がある
のかを分かりやすく知らしめる事が必
要である。

また、国の借金や赤字、サービスの
低下など悪いニュースが聞こえてく
る。九月三日の静岡新聞の論壇で伊藤
東大教授が「多くの政治家が嫌うの
は、増税の議論をすることだ。増税を
打ち出して選挙に勝てるとは考えない
からだ。」と述べている。政治とは国
民の税金を預かりどの様に使っていく
かを考え、日本という家庭を運営し、
国民と言う子供達を守っていくことだ
と思う。一般家庭では、お金が足りな
いといつてどこからか持つてくるわけ
にはいかない。国も大きな家庭と見え
た時、予算が足りないからと安易に増
税したり、国債発行という借金で賄う
ことなく、徹底的に議論し、納得でき
るようにすることが大切だと思う。先

日就任した野田首相は「復興財源に対
し、歳出削減を徹底しても足りないけれ
ば、臨時増税が必要になる。」と明言
している。その議論や判断、決定が国
民の目に触れるような形でなされ、国
民の意思が反映されたら多くの人が喜
んで納税できると思う。

今までは政府のニュースや国会中継
等は、まったく興味が無く、チャンネ
ルを変えていた。中学生である自分に
は、関係ないと思っていたのだ。今の
政府や税のあり方が将来の日本を作
る。僕たちが大人になった時、安心し
て働き、税を納め、快適な公共サービ
スが受けられる世の中になってほし
い。そのために僕も、政治や経済に関
心を持ち、きちっと納税しその使い道
を見届ける大人になれるよう正しい目
を育てて生きていきたい。

感謝の気持ち

大阪教育大学附属平野中学校

三年 早矢仕 貴美子

少子高齢化。最近、よく問題にされ
ています。お年寄りが増え、その社会
保障の費用を負担する若者が減つてし
まうため、一人当たりの負担が大き
なってしまうからです。これは、現代
この国が抱える大きな問題の一つで
す。でも、今までの私を含め、少子高
齢化について深く考えたことがない人

がたくさんいると思います。

この夏、そんな私の考えを一変させ
る出来事がありました。私の家の近所
で、年金で暮らしを立てていた老夫婦
が生活に行き詰まり、無理心中を図る
という悲しい事件が起こったのです。
それを聞いたとき、私は、今までであ
り意識したことのない少子高齢化
問題をものすごく身近に感じました。
母は、

「これからは子どもが減って、高齢者
が増えていく時代だから、こういう事
件も増えていくかも知れないよ。」
と言っていました。それを聞いて、私
は急に恐くなりました。そして、今ま
で、

「少子高齢化問題なんて言っても、私
にはまだ関係ないよね?」
などと思っていた自分がとても恥ずか
しくなりました。現在のお年寄りたち
は、皆、戦後の厳しい時代を生き抜い
てきた世代です。今、私がこうして幸
せに暮らしていられるのも、全部、そ
の人たちが一生懸命に働き、頑張つて
くれたおかげです。それなのに、私
は、今の暮らしを当たり前のように思
ひ、今の暮らしを作ってくれた人た
ちが苦しんでいる少子高齢化問題に目
を向けようとしませんでした。

私は、これからの日本に必要なもの
は、感謝の気持ちではないかと思いま
す。お年寄りの人たちに對するありが
たの気持ちがあれば、税金を払うの
を嫌だという人や、脱税する人はいな

くなりします。また、税金という形で私たちの生活を支えてくれている人たちのことを思えば、教科書や公共施設の設備などを大切にしようという気持ちが生まれると思います。そうして一人一人がありがたうの心を忘れず、税金を大事にすることができたら、税金のむだも自然となくなつて、そのお金をお年寄りの人たちのために使うことができるようになります。今は若い私たちがもいつかは年を取ります。税金を大切にすることは、将来の私たち自身のためでもあるのです。そして、一人一人の感謝の気持ちは一つ一つなつて大きな力となり、それを引きついでいくことが、これからの日本のため、少しでも良い社会を作っていくためになるのではないかと思います。

税金を納めるということ

学校法人山中学園如水館中学校

三年 佐藤 萌 夏

私は今まで税について何も知らなくてまだ考える必要などないと、知ろつともしませんでした。しかし今回、調べてみて税金は私たちのすべての生活に関わっていることが分かりました。個人や社会の所得税に対しても、土地や家、自動車を所有しても税金がかかっています。また間接的には酒、た

ばこ、ガソリンにも税金がかからないものはほとんどないと言つてもいいほど生活に密着しています。

こんなにあらゆるものに税金がついてまわり、かなり国民の負担になっているのではないかと思いがちですが、税の使われ方に注目すると医療費、年金などの社会保障費、道路や橋などの設備のための公共事業と莫大なお金がかかることが分かります。もし、税金がないと仮定するとどうでしょうか。ゴミの処理は誰がするのでしょうか。悪臭が漂いごみであふれ、毎日の生活はとても不快なものになつてしまひます。警察や消防もないとすると犯罪や火事の被害ははかりしれません。また学校がなければ義務教育も十分に受けることができません。医療に関しても重い病気にかかれば高額のため、治療を受けられせん。税金をみんなが納めなかつたとすると道路も学校も病院も公園も公共的な施設はなくなつてしまひます。社会の治安は乱れ安全な生活は絶対にできません。

人はお互い助け合うことが大切で決して一人では生きていけないと思ひます。私たちが安心して日々の生活を送るためには、お金を出し合つて平等にみんなが幸せになることが必要だと思ひます。税金がなくなつたらと考えると税の果たす役割はとても重要なことだと理解できます。昔の日本を見てみると、年貢の取り立てが非常に厳しくて農民は自分達が作つた米さえ、ろく

に食べられない生活をしてきて貧富の差が著しい時代を経てきました。しかし現代は所得の多いものが税の負担が多く、少ないものが負担が少ない制度で、税金を通して所得が再配分され、貧富の差が縮められるような役割があります。つまり、助け合う心が繁栄したものが税だと私は思ひます。

国民一人一人が汗水垂らして一生懸命に働いて納税しているわけですから一円でも大切にし、不正は絶対に許されることではありません。納税を反対する人がいますが、誰もが平等で納税のいく納税であれば誇りをもって納めたいと思ひます。今日本は高齢化社会に突入し医療費や年金が不足するといふ大きな問題を抱えています。自分の老後なんてまだまだ先のことですが、自分がおばあちゃんになつたときに、安定したゆとりある生活がしたいです。しかし今の状況だとかなり心配です。私も数年後、社会人になれば納税の義務がありますから社会をよく見えて知つて税金が平等に正しく使われていくよう努力することが大切だと思ひます。そして税金を納める喜びと誇りを持ちたいと思ひます。

今、自分にできること

吉野川市立鴨島第一中学校

二年 江本 果穂

私がつ通つている中学校では、昨年度から校舎の改築と耐震工事が行われています。校舎の様々な所がきれいになつたり、職員室棟が新しく立て直されたり、テニスコートが作られたりと、学校がとてきれいなになりました。今も工事は進んでおり、工事用の車両が敷地内を行き来しています。私は学校がきれいなになり、嬉しいと思ひ思つておらず、工事にかかる費用のことなど全く考えてもいませんでした。しかし、ある日、担任の先生から、「トイレの便器を一つ買い替えるだけでも、数十万ものお金がかかる。」ということを聞きました。また、工事にかかる費用は、税金で払われているということも知りました。その時、「税金があるから、私は学校に通うことができているんだ」と思ひました。

私は、毎日当たり前のように学校に通ひ、授業を受けています。毎年、新しい教科書もお金を払わずに受け取り、使用しています。しかし、もし税金がなければ、このように毎日学校に通うことはできないと思ひます。私が毎日勉強することができるのは、たくさん大人たちが汗水を流し、一生懸命働いて税金を納めてくれているから

だと思っています。

私たち中学生一人あたりの年間教育費は、公立学校の場合約九十五万円だそうです。百万円近くの金額を、私たちが学校に通い勉強するために、毎年税金がその金額をまかなってくれています。もし税金がなければ、学校に通えない人もいると思います。税金は、本当にありがたいものだと思います。他にも税金は、私の身の周りでもたくさんの方に使われているし、安全・安心に生活ができるように支えてくれています。

私はまだ自分のお金で税金を納めています。大人たちが納めてくれた税金で、学校に通って勉強をしたり、生活を支えてもらったりしています。世界には学校に通いたくても通えない子どもたちや、勉強がしたくても勉強することができない子どもたちはたくさんいます。今、当たり前のように学校に通い、快適な場で勉強することができると、私たちは、本当に幸せだと思います。

中学生の私たちに今できることは、公共物を大切にしたり、税金に関心をもち、その仕組みについて知識を増やしていくこと、そして日本の将来を担う者として、勉強を一生懸命がんばることだと思います。自分が大人になり、納税者になったら、今まで税金を納めてくれた大人の私たち、そして、私たちの生活を支えてくれた税金に、義務としてではなく、恩返し

をするつもりで納税していきたいです。

私はまだまだ税金について学ぶべきことがたくさんあります。未来の納税者として、もっと税金についてしっかりと学んでいきたいと考えます。そして、今できることをひとつひとつ行い、将来立派な納税者になりたいと思います。

税との共存

久留米市立諏訪中学校

三年 平 田 千 夏

「税金引き上げ!」

私は最近、よくこんなことを耳にします。以前から言われていましたが、三月十一日に起きた東日本大震災の復興資金が足りないことが大きな理由になっっていることは確かだと思います。

私は正直、税金の引き上げには反対でした。税金が高くなって欲しい物を買えなくなる、なんて嫌だったし、復興のために使われる、と言われても自分には無関係だとしか思っていなかったからです。しかし、被災地の様子をテレビなどで見て自分の考えの甘さに気がされました。津波で流されていく家、車、畑……。自分と同じくらいの歳の女の子が、がれきりに向かって「お母さん、お母さん!」と叫んでいる姿。他にも目をおおいた

くなるような現状がそこにはたくさんありました。家や親、お金を失った人はこれからどうやって生きていくのだろうか。私にも何か出来ることはないだろうか。そう考えてみると、中学生の私が出来ることがはとでも限られていると感じました。募金をしようと思っても十円か二十円、ボランティアになんてとても行けません。本当に自分の力って小さいんだなあと思っていたとき、一緒にテレビを見ていた母が

「お金がある人はたくさん寄付ができるけど、普通はなかなか難しいよね。だからこんなときに税金を使うんだらうけど、蓄えが少ないからなあ。」と言いました。私はなるほどと思ったし、なんとなく心の中のもやが晴れるのを感じました。今まで税金を納めるの意味が分からなくて、「取られる」というイメージがあったから、税金の引き上げに対しても嫌な印象しかもてませんでした。しかしこうして、税金を使う目的がはっきり分かると、自分の中でも「納める」というイメージになり、税金を通じて自分の気持ちも届くような気がしてきました。

こうやって考えてみると、税金は私たちの生活といつも隣合わせにあり、離れられないものだ気がしました。だから、生活を、世の中をより良いものにするには税金をより良いものにしていかなければならないと思うし、そのために一人一人が税についての確かな情報をもつことが大事だと思います。

これからの日本を作っていくのは私達です。今の日本が抱えている大震災復興、高齢化などたくさん問題を解決していくためには、税と共存していくことは必要不可欠であり、そのために税を引き上げることも大切なのだと思います。だから、今のうちからみんなが税に対する意識を高めていくことで、これからの日本を支え改善することに繋がるのではないかと思います。税を通じて私達は助け合いながら生きています。そのことに感謝し、大人になったときに一人の納税者としてしっかりと税を納め、日本の社会に貢献できるようにになりたいと思います。

心豊かな生活を送るために

鹿屋市立第一鹿屋中学校

一年 岩 崎 拓 也

「お金があったら、救急車を買って寄付したいぐらいの気持ちだったよ。いろんな人に感謝したよ。」

中学校で教員をしていた祖父は、授業中に突然胸が苦しくなって病院に運ばれた。鹿屋のかかりつけの病院に着くと、主治医の先生に「鹿児島島の病院に運びますので、救急車を要請します。」

と、付き添っていた祖母は言われたそう。その後、救急車に同乗した祖母

は生きた心地がしなかったそうだ。香水フェリー乗り場では、全ての車を待たせて救急車をいちばん最初に乗せてくれた。おかげで病院に早く着き、それでも病院のスタッフの方々が入り口に立って待っていてくださった。それを見て、祖母はうれしかったそうだ。

後日、祖父は一命をとりとめ元気になり、無事退院した。母に聞くと、集中治療室に入り、完全看護で、しかも当時の最高の治療をもらった。そのおかげで元気になったそうだ。

「あんなに高度の治療をもらったのに、治療費は自分たちが支払えるくらいでいいのよ。これも日本にいるからよね。普段は、税金が高いとか、何に使っているのかとか言うけど、助けてもらったときにはじめてありがたさがわかるのよ。やっぱり税金は、みんなのために自分のために払わないとね。」

と祖母は僕によく話してくれる。そこで僕は税金の使われ方について調べてみた。国は国民が健康で文化的な生活を送るために、個人ではできない仕事をしている。そのためには多くの費用が必要になる。その費用をみんなが出し合っているのが「税金」なのだ。

僕の一日を考えると、通学路にある信号機、公園、交番、そして学校、学校に着くと勉強をするための教科書、生活の中で出る多くのごみを処理する

施設、体調が悪くなると診察をお願いする病院など一日の生活でほとんど税金に頼っている。

また、祖父が乗った救急車は税金がないと有料になる。入院費もどれくらいになるのだろうか。

消費税、所得税、住民税、酒税、揮発油税、自動車税、自動車重量税など、国民は毎日の生活で税金を支払う、それらをもとに豊かなくらしができることを知った。同じようにそれがきちんと支払われているかということも、とても大切なことだと分かった。

二学期を新校舎で過ごす僕はクーラーで快適な生活を送れる。これも税金のおかげであり、祖父を病院まで運んでくれた救急車、命を助けてくれた病院もまた、税金でまかなっている。僕はこれら祖父の治療にかかわった人々にとっても感謝している。

これからも税のしくみをはじめとして、いろいろなことに関心を持ち続けていきたい。

税金の重要な役割

沖縄市立コザ中学校

三年 長 嶺 紫 織

みなさんは普段、税金について考えてみた事がありますか。私はあまり深く税金の事を考えたり、疑問に思ったりした事はありませんでした。ですが

最近、ある体験をして、税金の事を考えるようになりました。

私の家は、母と姉と私三人だけの、母子家庭です。母が一人で働いて家計を支えています。ですが最近、その母が病院で倒れてしまいました。生きるか死ぬかの大きな病気でしたが、なんとか命は助かって、元気になって退院できました。が、手術の後遺症で記憶障害が残っていて、今もリハビリ中です。手術や病院での薬代や入院費用でお金に困りました。でも、障害が残っている母はまだ働く事ができません。私はまだ中学生で働いたり、アルバイトをしたりもできません。姉も専門学校で、まだ働いていません。収入がゼロになってしまつては、生活ができません。母が入院している間は、祖母や叔母から援助してもらい生活できました。

でも、このままじゃ駄目だ。叔母さん達も、いつまでも面倒を見られる訳じゃない。私達家族で「自立」しなければならぬ。人に頼りっぱなしではいけない。自分で働いて生活をしていかなければならない。叔母さん達に何度も言われて、その通りだと思いましたが。そこで、生活保護を受ける事になったのです。生活保護とは私達家族のように、病気などで生活が苦しい人が自立できるように手助けしてくれる、国の制度です。保護のお金は、国民の税金が使われます。この制度と、それに使われるのが税金だという事

は、この時初めて知りました。母からもらうお小遣いとは全く違うお金。身内ではなく、他の誰かが、日本の国民が一生懸命働いて得て、税金として払ったお金で、生活を助けられる。すごく、重い感じがしました。働いていないのに、働いている人から助けられるなんて、申し訳ないな、と思いません。でも叔母さんは、恥ずかしがる事はない。税金を無駄にしないように、早く自立してそして大人になってあなたも税金を払う。みんな助け合う、という事なんだよ。と言ってくれました。

この時は税金の重要さを体感しました。義務教育や道路整備、また、災害時の援助など、私達が安全で健康に、豊かに暮らすには私達が払う税金が必要不可欠です。みんな助け合って生きていく、という社会の仕組みの一つが税金だと思えます。今まで私は、税金は国のために払うものだと思っていました。が、国だけでなく国民のため、助け合う心がある事が分かりました。

今回私は助けられました。だから自分が大人になったら逆に、同じように困っている人を助けるつもりできちんと税金を払おうと思います。感謝と助け合う気持ちがあれば、やり直せます。東北大地震も、国民の協力する気持ちで復旧できると思っています。

一般財団法人大蔵財務協会
理事長賞 受賞作文

税 について

鷹栖町立鷹栖中学校
三年 早坂 瑞音

みなさんは税について、どんな印象を持っていますか。正直、私は今まであまり好ましい印象を持っていませんでした。「何のために税金を払うのだろう」百円のものを買う時、「この五円をためれば、何か買えるのに」とさえ思っていました。でも、今は違います。その五円玉に、実際は大きな意味がある、大切な税なのだ知ったからです。

私は今まで、税についてあまり考えたことがありませんでしたが、この作文を書くにあたって、色々考えました。もしも、税金がなくなったらどうなるのでしょうか。
まず一つ目に、道路が私有化され、有料になります。そうなるとどこへ行くにも、何をするにも余計にお金がかかってしまいます。

二つ目に、救急車・消防車・警察も有料になってしまいます。火事や事故がおきてケガ人が出ても、お金がなければ助けてもらえないのです。これで

は、命を落とす人が増えていく一方です。

三つ目には、私たちが普段利用する図書館も使えなくなり、更には教科書などですらお金がかかるようになってしまふのです。

こんな生活は不便です。他の国に比べて治安が良いのも税があるおかげだと知りました。それにもう一つ、税金にお世話になったことがあります。

中学二年生の春、私は町の友好訪問団に参加し、オーストラリアのゴールドコースト市にホームステイしました。それはとても貴重な経験でした。それから私は英語が好きになり、今では、たくさん勉強して英語を使う仕事につきたいと思っています。そして、オーストラリアへ行けたのも税金のおかげです。ホームステイでしたが、旅費は結構かかりました。ですが、半額を団員全員分、町の税金から援助してもらったのです。今考えると、とても助かったなあと思います。そして、私に夢をくれました。

私はまだ十五歳なので、消費税を払うことでしょうか「納税」には貢献できません。ですが、今、私にできることを精一杯していきたいです。

これからは「税」について深く理解し、感謝の気持ちを忘れずに、快く払えるようになりたいです。そして、大人になって色々な税を納める時がきたら「国民の義務だから」・「法律だから」払うのではなく、自分たちの生活

をより良くするために払っていきたいと思います。そして、今から、日本の未来を担えるように頑張りたいです。

「納税」というピース

米沢市立第七中学校
三年 鈴木 由佳里

私が住んでいる米沢市は周りを見渡すと吾妻山をはじめとする山々に囲まれ、強い風に馬のしつ尾のようになびくたくましい稲が広がっています。上を見上げると澄んだ青の空が米沢市を覆っています。そんな自然豊かなこの町が税金で保たれていると知ったのは

それまでの私はこの自然を当たり前に感じ、自然に触れ合いながら元気に遊んでいました。遊んでは怪我をし、遊んではまた怪我をするの繰り返しをするほど私は元気な小学生でした。時には元気が有り余り右腕を骨折してしまったこともありました。十分な治療を受けれたのは国民の払った税金によってつくられている医療機関があるからです。また、医療保険もあるから

こそ、負担する金額が少なく済むので安心して受けられます。世界には、治療を受ける必要があるのに受けられない人々や受けることができず亡くなってしまふ人々があります。また、蛇口をひねれば、いつでも透

明できれいな安心した水を飲むことができます。ですが、川まで行き濁った水をいつものように口に運ぶ人々が世界にはいます。そんな事は私たちにとって考えられないものです。

私たちは安心して治療を受けられる、きれいな水をいつだって飲むことができるということを普通に思いがちです。何が私たちの生活を支えているのかを深く考えることが大切だと思います。

今年の三月には、世界的に大きな東日本大震災が起こりました。多くの人々が津波によって亡くなってしまいました。私は、東北地方の山形県に住んでいます。山を挟んだ隣の県は、津波の被害が多くテレビでも大きく報道していました。人命救助や復興のために税金が使われていることは勉強をする中で知りました。深く考えずに消費税などの税金を払い、その税金が人命を助ける大きな役割を持つていたことも知りました。

私たちの中学校には、福島県の方から原発問題などの理由から避難してきた生徒がいます。今まで住んでいた所から慣れない土地へ来るといふ不安があると思います。いつかまた今まで住んでいた所へ戻れる日が早く来るよう、税金を充分に使い、安心した生活を送れるようにしてほしいと思います。

澄んだ青い空の一つではなく、豊かな自然が広がり、それに澄んだ青い空

が映える米沢をいつまでも大好きな今であってほしいと願います。そのために、私たちができることは「納税」というピースをはめ続けることだと思います。

税の大切さ

みなかみ町立月夜野中学校

三年 深津美帆

「納税」、これは「勤労」と共に、成人した国民の義務です。私たち中学生も、消費税という形で、納税をしています。では、納めたお金はどんな役割を果たし、活かされているのでしょうか。

まず、私たちの教育費。中学生一人あたりの年間教育費は、約九十万円だそうです。あまりに大きな額で、驚きました。皆が平等に日々安心して学校で学べるのは、多くの方々のおかげです。学校に行けて当然、勉強して当然、物や環境が整っていて当然、と自分で与えられた、恵まれた環境を大切にしたいです。

今年三月、東日本大震災が起こりました。みなさんはこの震災を通し、何を感じ、どう思いましたか。ある日突然人々に襲い掛かり、何の備えもないまま、全ての物を奪い去ってしまう大津波。テレビで見たその光景は、あま

りにも衝撃的で言葉を失いました。震災から五ヶ月経った今でも、生活に苦しむ被災者の方々はたくさんいます。そのような場面においても、税金は役立てられているようです。仮設住宅の設置や瓦礫撤去、高齢者や失業者への支援、福祉サービスの充実。そして、今後は施設の建て直しにも、多額のお金が必要とされます。いち早く、国民の力で被災地の復興に努めてほしいです。

以前、母からこんな話を聞きました。岩手県のある村では十二年もかけて、何億円もの税金を使って、十五メートルの堤防をつくった。その村の村長は周りから「そんなもの必要のないのに。」と馬鹿にされてきた。ところがどうでしょう。今回の大津波により、この村だけ助かったというのです。難しいことだと思えますが、先見性を持ち未来へ上手に税を生かした町づくりを、私の住む町でも励んでほしいと思いました。

同時に、医療福祉の充実にも力を入れてほしいと思えます。「社会福祉大国」と呼ばれる、デンマークやスウェーデンでは驚くことに、無料で老人ホームへ入ることができるといふことでした。その分、国民の税の負担が大きいの事実ですが、安心して老後生活をおくれるのも事実です。不景気である現代の日本、増税というのは厳しいと思いますが、税の無駄遣いを見直し、福祉に力を注いでいって

ほしいです。

私たちの使う教科書には「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ国民の税金によって無償で支給されています。」と、記されています。この言葉の意味を充分に噛みしめ、私たちは勉強し、社会貢献できる大人になる責任があると思います。明るく豊かな日本のために、私は将来しっかりと納税をしていきたいと思えます。

生きた税金

都留市立都留第二中学校

三年 近藤しえな

国民の義務である納税。国民が納めた税金は国民のために使われ、その歳出の中では社会保障が一番多くの割合を占めていると聞いた。

身近な税金の使われ方としては、私たちの教育のための年間教育費、生活や安全を守る警察、消防費、家庭から毎日出るゴミの処分についても、税金が使われていると知った。

そして、国民医療費にも多くの税金が充てられている。私は、この国民医療費について考えてみた。病気やケガで病院にかかり、薬を処方してもらっても税金の負担を受け、全額を支払うことはない。生まれてから、国からの負担で多くのワクチンを無料で接種し

ている。今年の子宮頸ガンの予防のため、ワクチンを三回に分けて接種することが決まっています、これも税金からの支出でまかなわれている。両親が毎年受けている市の健康診断も国民健康保険税からの支出を受け、一部の負担金だけで検査を受けることができる。しかし、健康に生活している者にとってはこれで充分だと思える税金の医療負担も重い病気にかかっている人達にとっては充分だと言えるのだろうか。

この夏休みになると病気で入院した。重い病ではあったが家族の対応が速かったのと、病院の処置が良かったおかげで九月には退院することが決まっている。いとこの病気は一般的な自治体の健康診断では発見できない病気である。そのため、CTスキャンやMRIという医療機器の検査でなければ確認できない病気の一種だ。いとこは症状が出てから、病院で検査を受け、大きな手術になった。これが発症する以前にわかっていたら、もっと簡単な手術になり、経過も今よりもっと良いものになっていたのかもしれない。

日本は医療の技術、設備も諸外国に比べてかなり高度なものに進化を上げている。ただその高度な医療の検査や治療を受けるには、高額な費用がかかる。CTスキャンやMRI検査を国の負担により、受診を義務づけることができれば大きな病気も発症前に治療す

ることが可能になり、多くの命を救うことができるのではないだろうか。

今年の三月十一日、東日本震災で多くの子供たちが親を失った。そして多くの老人も一家の働き手を失い、苦しい生活を強いられている。

生活が苦しいために、高額な先進医療を断念する人がたくさんいるのかもしれない。どんな境遇であつても平等な医療を受けられる国であつてほしいと思う。日本の高度な先進医療を全てが国民が税金によって受けられるようになってこそ、「生きた税金」と言えるのではないだろうか。

税金の力

越前町立朝日中学校

三年 梅田 颯山

僕は小学校六年生の時に初めて税金の事について学んだ。税金という言葉は知っていたけど、税金がどんなものなのか、どんな事に使われているのかわらなかつた。

今まで、当たり前のように使っていた道路やあつて当たり前な公共施設はすべて税金の力によって作られた物だった。

僕達の身近な所で、税金は生かされていたのだ。

僕が通う朝日中学校は僕が入学した年に、建設された。鉄筋二階建ての校

舎は、全校生徒みんなで食べられるランチルームや、大きなスクリーンでみんなが勉強できる研修室、防音設備の整った音楽室、広い広い体育館など、それはすばらしい学校だ。

このような環境に恵まれた学校で中学校生活を送っている。これも税金の力なのだ。

この夏、中学三年生で百四五センチ程しかない僕は、低身長を検査を受けた。その結果、成長ホルモン分泌不全性低身長症と診断され成長ホルモンが充分に出てない事が分かった。そして、成長ホルモンの治療を受けなければならなかつた。

その治療に使う薬はとても高価なもので、一般家庭では負担も大きく困難なものだった。そこで、保健所に申請をして、低料金で受けられる助成をもらえる事になった。

そして、主治医の先生が僕に

「この助成は皆が受けられるものではなく、厳しい検査の結果、わずか人だけが受けられるものです。今まで、身長が小さくて、くやしかりたり悲しい思いをした事があつたかもしれない。でも、これを機会に是非がんばって大きくなって下さい。」

と言つた。
お母さんは目に涙をいっぱいためて「ありがとうございます。」
と言つた。ほくも大きな声で「はい。」
と答えた。

そして先生が

「もうひとつ、この助成はお父さんやお母さんやたくさん人達が一生懸命働いて、そして色々な税金として集められたお金で受けられるものです。だから、君が大人になったら、一生懸命働いて返してあげて下さい」と言つた。僕はまた、大きな声で

「はい。」
と答えた。

僕は今、がんばって治療を続けている。

このような形で、税金の力に助けられている事に心から感謝する。

そして、大人になったら、僕と同じ状態で悩んでいる子供達に少しでも多く助成がうけられるように、がんばって働いて税金に恩返ししようと思う。

税について考えた事

名古屋市立神丘中学校

三年 加藤 樹美子

あなたは東山動植物園を知っていますか。私の幼い時からずっと開園している緑豊かな動植物園です。東山動植物園は、明治二十三年に「浪越教育動物園」として誕生しました。東山動植物園には百年以上にわたる歴史があるのです。そんな東山動植物園が今日まで存続しているのは、名古屋市による支援のおかげだと考えることができます

す。東山動植物園の運営費は、来園者が支払う入場料だけではまかない切れません。なぜなら入場料が安く皆が気軽に来ることができるようにと考えられているからです。この東山動植物園の運営を支えているのは、運営費の約半分にあたる十一億円の税金です。東山動植物園はこうして続いて来たのです。

私には東山動植物園で学んだことや、楽しかった思い出が数多くあります。小学生の頃家族で東山動植物園に行つたときにサルを抱かせてもらいました。そのサルは、不安だったのでしよう。爪を立てて尻尾を巻きつけてきました。けれどもクリッとした大きな目はとても可愛く、そしてサルは私が思っていた以上に重たく、これが命の重さなのかなと思いました。私は動物に対して、命に対して愛情を持つて接することの大切さを学びました。また、東山動植物園には、豊富な種類の動物がいます。それによって私は、この地球上には普段の生活の中では見ることができない、数多くの動物がいることを知りました。幼いころから珍しい動物を見てきたためか、私はイモリやヤモリが好きになりました。そして動物だけではなく、昆虫も触ることができるようになりました。

東山動植物園が身近に在り、たくさんのお出を出を作ることができたのも税金のおかげだと思つと、こんな税金の使われ方は、とても素敵だと思いま

す。私に多くのことを教えてくれた公園にとでも感謝しています。こんな素晴らしい東山動植物園が長く存在することを望んだ私は家族に向かって、

「私が大きくなってこの公園はあるよね。無くなってしまうたら嫌だな。」

と言ったそうです。東山動植物園の長い歴史の中で、私と同じようにずっと存続してほしいと思った人はたくさんいるはずですよ。そしてその思いを持ったまま大人になった人も少なくないと思います。いつの時代の人たちにとっても東山動植物園は大切な場所です。この場所が続いてきたのは名古屋市の皆さんが税金を納めてくれているからです。名古屋市の皆さんが東山動植物園に必要な、そして大切な場であると思っっているからです。私が将来納税者になったときには、大切なものに活かされていく、そして生活に役立っていく税ならば、きちんと納税したいと思います。納税者の皆さんは役立つことに税が使われることを願っていると思います。そして私は、大好きな東山動植物園が今後もずっと存続することを願っています。

税の使い道にうるさい国民になろう

西宮市立甲陵中学校

三年 北 口 聖 子

税について述べよと言われて頭に浮かぶのは消費税だ。多くの中学生がそうではないだろうか。買い物に行つて「この値段は消費税込みなのだろうか。」と考えるときくらいしか、私はこれまで税というものをあまり意識したことがなかった。そこで、税にはどんな種類があつて、どのようなことに使われているのかなどを調べてみた。

漠然と、税とは国や地方自治体の収入源で道路や公共施設を造つたり、学校の先生の給与を払つたりするのに使われているくらいの認識しかなかったので、随分物知りになつたような感じがする。税には国税と地方税の区別、直接税と間接税の区別があること知つた。また、直接税の代表が所得税で、間接税の主なものが消費税であることも知つた。

ここ数年の国の財政をみると、歳入の五割くらいが個人・法人の所得税と消費税で、残りの大半が公債金収入という借金であるのに驚かされる。当然、歳出の多くの部分が借金返済に当てられることになるのだが、社会保障費が最も大きいのは理解できる。高齢者が増えて医療費も老人介護にかかる

費用が多くなつたり、不景気で生活保護を受ける人が増え続けていることはよくニュースで耳にするからだ。今年度から数年間に關しては、東日本震災の被災地の復興にかかる費用を所得税の増税でまかなうらしい。国債を発行して結局のところ私たち将来の納税世代に負担を先送りするよりも好ましいし、納得できるやり方だと思う。そうでなくても、国の負債は膨れ上がり続けているのだから。

そこで思い起こされるのが二〇〇九年民主党政権が始めた「事業仕分け」である。国政の無駄な支出を排除するといつても、経済効率ばかりを基準にしてよいものだろうか。科学技術や文教関係の予算は、直接国民の生活に利益をもたらすように見えなからうとも、やたら削つてはいけない性質のものだと思ふ。例えば、およそ六千五百年前の白亜紀に生きていたティラノサウルスの歩き方を研究している学者がいるとする。昔の恐竜がどんな姿をしてどんな歩き方をしていたとしても、私たちに何の関係もないから無駄だと切り捨ててよいものか。だからといって、恐竜の動き方が巨大な重機の開発等の役に立つとか何とか私たちの経済活動上の利点があるとかこじつけられるのもさもしい発想ではないか。私たち人類が出現するはるか以前の太古の地球上をのし歩く恐竜たちに思いを馳せる。そんなロマンに満ちた研究を許容できないようでは文化国家とは言い

税金の必要性

新見市立新見第一中学校

三年 田 原 早央莉

私達が生活をしていく上で、税金の必要性について考えたことがあるでしょうか。

私は今まで税金を納めることについて疑問を持っていました。なぜなら、高速道路無料化や高校無償化などは、国民の負担を増やし、税金の無駄使いだと思ふからです。そんな所に使う以前に、もっと使うべき所があるのではないか。今最先されるべきは、原発事故処理やエネルギー問題、震災復興処理なのではないか。苦勞して働いて納めた税金を無駄使いされるのなら税金を納める意味があるのかなと思ひます。

しかし、私がそう思つていたのはニュースに出る公の部分しか見ていなかったからです。

そもそも税金とは、私達が豊かで安定した生活を送れるようにする為の資金を賄うものです。今回、この作文を書く上で税金の使い道について調べてみました。すると、私達の身近な所で税金が使われていると分かりました。

私にとって一番身近な所は学校です。私達が使っている机やいす、教科書は税金で賄われています。私がこうして字が書けるのも、読めるのも税金によって学校に行き、授業を受けることができるからです。私は、普段学校に行けることが当たり前だと思っていました。しかし、その背景にはたくさんの人々が納めてくれた税金があったのです。世界には学校に行けないという子供がたくさんいるのに、私の考えは浅はかでした。私はこの恵まれた国に生まれたことを感謝しなければいけない立場にあるのだと思いました。

また、私達が安い治療費で治療を受けることができるのも、税金のおかげなのだと分かりました。また、私達の側には救急車があり、緊急時にはいつでも出動してくれるシステムがあります。税金があることで、たくさんの方々が助かり、本当に税金の大事さが分かります。税金を納めても、何の見返りもないと思われがちですが、税金によってつくられた物、税によるシステムで私達の元へ返ってきていると思います。

税を納めることは、本当に必要なと思うようになりました。しかし、今の

世の中は少子高齢社会で、税を納める者も少なくなっています。それに加え納税の義務がありながら、働かず税を納めない者も少なくありません。そんな人が増えると高齢者を支える人も少なくなってしまうと思います。私達は日本国民なので一人ひとりが日本を支える役割を担っていると考えています。だから、税を納めない人は無責任だと思います。税についての重要性をもっと考えるべきです。私が大人になって税金を納めると思っています。私は税金に感謝をして、責任を持って税金を納め、国を支える一員になりたいと思います。

エールのバトン

丸亀市立南中学校

一年 長尾嘉大

憲法で「国民の三大義務」に定められている一つに「納税の義務」がある。

僕は、その税のおかげで、今ここに生きていると言っても過言ではない。理由の一つに生まれてすぐに、先天性心疾患の病気で、カテーテル検査をはじめたくさん検査をし、二カ月で手術をした。この時、多額の治療費を東京都の公費で負担してもらった。薬代は今でも負担し続けてもらっている。こんな僕を救うために税金で医療費を

負担してくれたのだと思うと今までの自分がとてもはざかしくなった。二つの理由として、三才の夏、香川県に引越して幼稚園編入。東京は私立の幼稚園しかなかったので入園金七万、授業料二万円かかっていたものが授業料六千円。住む地域によってこんなに違いがある事がわかった。

次に、この夏休みに丸亀市の姉妹都市であるサンセバスチャン市へ親善使節団として行ってきた。その時の結団式で教育長のあいさつの言葉の中に「市民の皆様のおかげで行けるので感謝の気持ちを忘れずに行ってください。」

と、言われた。自己負担金は子ども手当で払うと、母から聞いていたので、今回のホームステイは税のおかげだと思った。スペインを知りたく調べてわかったことは、中学生の教科書代金は、自分で支払っているということ。一冊二十五〜三十ユーロ。三千五百円〜四千二百円。進級したら新しい教科書がもらえる日本とは違うということ。それと体験してわかったことで消費税は国によって違うということ。日本は五%、ドイツのフランクフルト空港でキーホルダーを買ったら十九%も税金がかかっていた。五ユーロ以下だと七%、スペインでバスタオルを買ったら十六%。でも、高い税率でも各国とも平和で楽しく過ごせた。

この作文を書くきっかけで、母から自分の小さかった時の話を聞き、いつ

も何気なく見ていた胸の傷跡だが「赤ちゃんだった僕ががんばったくん章」とエールで送られた事に感動するとともに、税について考えさせられた。毎晩薬を飲むたびに、その日出会った人達を思い出す。工事現場で働いていたおじさん。看護師さん。学校の先生。みんな働いて税を納めているんだ。その人達に僕は今、支えられているんだ。僕のかたわらには、たくさんの方の励ましのつまった教科書がある。その教科書の重みを感じて勉強したいと思う。そして大人になって働けるようになったら、今度は僕が支える番だ。将来、一生懸命働いて納税し自分が支えていけるように努力するつもりだ。すべての人々が安全で快適に生活できるように、みんなが適切な医療が受けられるように。そして、お年寄りが安心して心おだやかに暮らせる社会を維持するために。エールのバトンをつなげていきたい。

祖父は納税者

新宮町立新宮中学校

三年 上敷領万貴

七十五歳、職業は農業。今も現役で柑橘類を栽培している。これは、私の祖父のプロフィールだ。

祖父の一年の締めくくりは、三月に

提出する青色申告書。毎年決まって祖父は、

「今年の所得税は、これだけあったバ

と、自慢気に言ってくる。今までは、税についての知識や興味がなかった私には、みんなが嫌がる税金を、祖父はなぜ誇らしげに納めるのだろうか、不思議でならなかった。

しかし先日、学校で税務署の方から、税の仕組みや、はたらきなどについてのお話をうかがってから、税への思いが少しずつ変わってきた。私達の生活は、朝家を出た瞬間から、税なしでは成り立たないことに気付いた。道路では、ガードレールや信号が、安全な登下校を支えてくれる。学校では、配付された教科書を当然のように出して授業を受けていた。部活動を終えて帰る時も、街灯が照らしてくれた夜道を、安心して帰宅することができた。

これらは、すべて税金によってまかなわれていることを、税務署の方のお話で理解した。私達の生活は税金によって守られ、支えられていると知った時、所得税を納めることに喜びさえ感じている祖父のことを思った。もしかしたら、祖父にとっての納税は、国民の義務として、単に税金を納めているだけではないのかもしれない、そう思えてきたのだ。

今年の三月十一日に起きた、東日本大震災では、災害発生直後の救助や、復興に向けての援助等が行われてい

る。そしてこれからもまた、税金によって支えられているというから、税金によって支えられているというから、税金の力はすごい。今回の震災は、過去に類のないほど多くの人命や建造物が失われ、まだまだ援助が必要らしい。それには現在の税金では足りないの、税金を上げなければならぬという。被災された人たちのためには、少しでも税金が上がっても、仕方ないのかなと思う。しかし、税金を納めている両親のことを考えると複雑な気持ちである。

夏休みに祖父と話す機会があったので、思い切って尋ねてみた。祖父が税金を納めることに誇りをもっているようにみえる理由を。

「じいちゃん、これまでにたくさんの人に助けられて生きてきたから、今度はその人の助けになる番だと思ってる。その手段のひとつが、きちんと納税することなんだよ。」

笑顔で話す祖父を、改めて立派だと感じた。祖父のわずかばかりの所得税も、私達の生活に役立っている。そしてその祖父は、税金を納めることを生きがいとして、今日まで元気に農業を続けることができるのだ。

私も数年後には納税者となる。祖父をはじめとする、納税者への感謝の心を忘れずに、税について考えていきたい。そしてチャンスがあれば祖父に伝えよう。「納税ご苦労様。ありがとう。」と。

震災から税を学ぶ

合志市立合志中学校

一年 高岡さり

三月十一日に起きた東日本大震災は、私にとっても衝撃的なものでした。人の命はこうも簡単に失なわれてしまうものなのか。人間の作り出したものはこうも簡単に破壊されてしまうものなのかと、改めて自然の力のすごさを感じました。それと同時に、お互い助け合う被災者の姿、全てを失いながらも立ち上がる姿を見て、私はこの震災の復興のために、何ができるのか、考えてみました。

そのために、これまでに例のない多額の税金が必要なのは、私にも分かります。しかし、復興震災のための増税について、反対の意見もあります。復興のための増税は本当に必要なのか、疑問に思いました。

私は毎日のように、被災地で必死に生活を立て直そうとがんばる人達をテレビで見ます。前に私は、被災地の漁船が津波によってなくなってしまうため、北海道の港から中古の漁船が無料で被災地の港へ送られたというニュースをテレビで見ました。被災した人々を必死に助けようとする人々がいるという事実は、とても心に残っています。他にも、食べ物に分け合って生活したり、帰る家がない人達が助け

合って生きていくという事が、心に響きました。しかし、被災地復興のための増税に、反対する人がいるということもインターネットで知りました。

私は、被災しながらも、懸命に生きようとする人達のために、何ができるのか。そう考えた時、増税は必要だと思えました。なぜなら、被災地で必死に生きようとする人達は何もかも失っても、あきらめずに今を生きています。たとえ税が増えても、その税が被災地のために使われるのなら、とても意味のある事なのだと思います。しかし、インターネットなどでは、反対の意見なども数多くあります。でも、やはり私は、被災者の人達のためにも、増税は必要であり、たとえ自分のお金が減るとしても、受け入れるべきなのではないかと思いました。

私は今まで、税金を納めるのは嫌だなと思っていました。買い物をするたびに消費税で何円か払わなければならないと知った時は、「税金なんて何で納めなくちゃいけないんだろう。税金がなかったら、お金持ちになれるのに。」と思いました。しかし、税金がさまざまなことに使われていて、私の払ったお金も、社会の役に立つ事を知り、「税金ってやっぱり必要なんだな。」と思いました。又、私の払う税金も、被災地の役に立てると思うと嬉しく思います。税金を払うということは、社会の役に立つという事なのだと思います。今までは税金を払うのは嫌

でしたが、これからは税金を納めると
いうことを誇りに思いたいです。そし
て、被災地へ、少しでも復興のため
力が届いて、一日でも早く東北が元
気になるようにしたいです。

祖父母の店の確定申告

那覇市立城北中学校

三年 玉城 千瀬

私の祖父母は小さなピザ屋さんを営
んでいます。祖父母は、お客さんから
注文を受けた時や配達の際には必ず伝
票を書きます。材料の仕入れをする時
も業者の方から必ず領収証をもらいま
す。また、スーパーへ買い物に行く時
でさえ、レシートはもちろん領収証を
書いてもらいます。私が幼い頃はなぜ
こんなに領収証をもらうのか、毎回欠
かさず伝票を書くのか、私には全くわ
かりませんでした。しかし、最近に
なつてこの領収証や伝票の大切さがわ
かってきました。それは、還暦もこ
え、だんだん年が老いてきた祖父母の
手伝いをするようになってからです。
自営業者は、年に一度「確定申告
書」という書類を税務署に提出しなけ
ればなりません。確定申告書とは、そ
の店の一年間の収支決算報告のこと
です。この決算書によって所得税の金
額が決まり、その金額が多ければ多い
程、税金を多く納めることになりま

す。そして、所得金額によって所得
税、市民税、県民税、健康保険税の金
額が決まります。

私は三月に近づくと、これらの税金
を納める為に大切な確定申告書の作成
を手伝います。私の仕事は、主に伝票
整理と記帳です。伝票を整理し、日ご
との売り上げも帳簿に記入していき、
計算して各月の集計、一年を通しての
集計を出していきます。これを見る
と、年間の売り上げの推移がよくわか
ります。例えば、四月、十二月は入学
式やクリスマス等の行事があるし、七
・八月は夏休みなので家族連れで来る
お客さんが増えるため、売り上げが伸
びます。反対に、赤字が続いてしま
うと、お店を継続できなくなり、閉めな
くてはなりません。しっかりと働いて税
金を納める為にも、少しでも売り上げ
を伸ばし、お店を継続させることが大
切です。

私の祖父は、
「人は税金を納めて一人前」

とよく言います。何の事か私には理解
できませんでしたが、最近になって少
しずつわかってきました。税金は、国
を支え、困っている人達を助けていま
す。また、道を整備したり、クリーン
センターを運営したりと住みやすい環
境にしてくれるのも税金のおかげで
す。

私は今中学生です。今は、働いてい
る人達が一生懸命頑張って税金を納め
ています。私が大人になって働く時

は、祖父が言うように税金を納められ
る一人前の人になりたいです。そし
て、今の社会よりもっと良くなるよう
にバトンタッチしていきたいです。
国民が頑張つて働いて納めた大切な
税金は、一円たりとも無駄にせず、国
民の為に正しく使つて欲しいと思いま
す。

日本税理士会連合会
会長賞 受賞作文

日本のための税

札幌市立月寒中学校

三年 佐藤 好

様々な場面をよく、「税金の無駄遣
い」という言葉を耳にします。具体的
にどのようなことが無駄遣いに当たる
のか。そのようなことを考えていると
き、社会の公民の授業の中で私は「若
者の政治に対する関心が薄れ、選挙に
おける投票率が低下している」という
話題に興味を持ちました。

内容としては、二十歳から三十歳代
の若い年齢層の人の中には選挙につ
いて、「投票に行くのは個人の自由」と
の考え方を持っている人が約三割もい
て、その考えが投票率の低下につな
がっている、というものでした。

私はそのあと、選挙について調べて
みました。すると、選挙と税は深いか
わりがあることがわかってきたので
す。

投票や選挙活動を行うためには、お
金が必要です。そのお金の一部にも、
税金が使われています。その内訳は、
ポスター代、投票所の運営経費、選挙
カーの使用代、投票用紙代など様々

で、多額の税金が必要となります。これらは選挙になくてはならないものばかりなので、選挙を支えているのは、主に税金である、ということがわかります。多額の税がかけられている選挙に参加しない、ということは、「税金の無駄遣い」と言えるのではないのでしょうか。

税があつてこそその選挙、その選挙は国を動かす国民の代表者を決めるものです。このことから、税は実質、日本という一つの国家を形成するために必要不可欠なものであると私は思いません。

また、税金を無駄にしないということとは、「税をかけるべき事柄を明白すること」にも関連してくると思います。

三月十一日、東北地方を襲った大きな地震と津波で、街は壊滅状態にまでなりました。あれから数ヶ月が経った今、全国からの支援が多く集まり、復興への兆しが少しずつ見えてきました。が、まだ被災地は建物のがれきが残っている現状を、テレビの情報番組などでは今も取り上げられています。一刻も早く、元の活気あふれる日本に戻るためにも、「税金をかけるべき事柄」は、被災地の復興の他にないと思いません。

これまで、「税金の無駄遣い」のこのと、「税金をかけるべき事柄を明白にすること」について述べてきました。このどちらにも言えることが、

「税とは何の為にあるか考えなければならぬ」ということです。私も将来社会に出て税金を納めることになったとき、何の為に税金なのか、という点を考えながら生きていきたいです。

税金への感謝

秋田市立桜中学校

三年 宮崎 凌介

税金は、みんなで助け合ったり、いざという時に使うことができるようにみんなが少しずつ貯めていた貯金のように思える。みんなが力を合わせる協力の精神が生んだ物のように感じられる。

僕は生まれた時から、たくさん税金にお世話になっている。僕は未熟児で生まれ、未熟児養育医療給付が適応になり高度な治療を受けることができた。もし未熟児養育医療給付という制度が無く全額個人負担になると、約三百万円かかっていたらと思う。僕はこの話を聞いてとても驚き、税金のありがたさを実感した。その後一人倍病院にお世話になっていたので、その都市の制度により子供の医療費が低額で済み、安心して通院することができたという話を聞いた。医療制度という税金の使われ方によって僕は助けられ、健康に生活できるのは、みんなが税金という助け合いを行っているお陰だと思

う。この制度に僕は税金の使い方ができ、毎日本自由なく生活を送ることができ感謝している。こうして僕の家はあらゆる制度により助かっているのだ。

こうしてたくさんの人々が僕と同じように税金によって助けられている。税金があることで、「感謝」「助かった」「ありがとう」と感じられる人がたくさんいることは、とても素晴らしいことだと思う。こうして税金を通して助け合いの精神を築き、素晴らしい社会を作っているのだと思う。そしてその社会は次の世代に受け継がれ、さらに発展していくのだ。

だが、その社会に八百兆円以上の膨大な借金があるのだ。家庭の負債額にすると千七百万円以上もある。返すメドさえ立たないこの借金は、これから僕達に付回しされていきこれから借金はますます膨んでいく。もしこのまま膨らんでいったら僕のような人に医療制度は適応されるのか、老後の年金は減るのではないだろうか、これまで当たり前だった公共サービスや公共施設のありがたさを、その時初めて実感するかも知れない。だから現役世代にはこの異常な国家財政に対する責任があるのだと思う。そして国の借金を強く意識する必要があると考える。

今の日本では助け合いの精神が薄くなっていくように感じられる。膨大な借金がある中で消費税引き上げに対して反対の人も多くいる。でもそれは後

に何らかの形で自分に返って来るのだと思う。だから今は税金でどのように日本の制度や借金を変えていくのかが大切か考える必要がある。

僕は、いかに自分の生活が税金によってサポートされているのか、という事を学んだ。その税金をいかに有効に使い、これからの明るい日本を作り上げるかが、将来の自分達に大切な事だと思ふ。そして、そのためにも税金の重要性を十分に理解して、快く納税する一人の社会人になりたい。

税金と命

越谷市立光陽中学校

一年 磯部 友香

「どうしよう。間に合わない。」祖母との約束の時間まであと二十分。いつも両親と車で行っていたので、駅から日赤病院までの道のりに自信がない。しかも、大宮駅は広すぎて出口すらわからない。「地図かこうか。」と言った父に、「もう中一だし、お姉ちゃんが行った事があるから大丈夫。」と胸を張ったことを後悔した。天気予報では、「三十度を下回り、過ぎやすい一日になるでしょう。」なんて言っていたが、ドキドキして汗が滝のように背中を流れた。すると突然、「どうしましたか？迷っちゃったのかな？」振り向くとそこには、警察

官の姿。焦りすぎていた私は、近くの交番すら見えていなかった。病院までの近道を案内していただいてる最中、「税金を無駄遣いするな。」と大声をあげ、お酒臭い男性が入って来た。警察官は、「この辺は、昼間でも酔っぱらいがいるから気をつけて病院まで行くんだよ。走れば間に合う、頑張つて。」と言つて見送つてくださった。

えばつい最近私と姉は子宮ガンの予防接種を受けた。案内用紙には費用無料と書いてあった。医療の面からみても予防、発見、治療と私達の健康は税に守られている。交番の設置も安全な生活に不可欠だ。私達のくらしは税と切り離すことが出来ないことを実感し、交番で会つた男性の言葉を思い出した。

近道のおかげで、約束の時間より三分早くリハビリ室に到着した。祖母は、悪性関節リウマチという病気で入院をくり返している。定期的な診察やリハビリにより、今の祖母の生活が成り立っている。枯枝のような細い腕に力を入れ、手すりにつかまり、足を一歩ふみ出すだけでも足腰はもろろん、全身に痛みが走るらしく、歯をくいしばり顔をしかめ、それでも前進する姿を目の当たりにし涙がこぼれそうになった。

国会中継で、居眠りをしている議員さんにシヨックを受けたが、私自身はどうだろう。恵まれた学校生活を当り前だと思ひ感謝の気持ち忘れ、「学校に冷房があれば良いのに。」と言つて、下じきをパタパタさせた自分はずかしく思った。時間割の勉強だけでなく、新聞もじっくり読み、政治や経済、海外にも関心を持ち、二〇才になって選挙権を得た時国民の声をしっかり国会に届けてくれる方に自信をもつて一票を投じることのできる大人になりたいと思つた。

納税と福祉

「友香が応援してくれたから、今日はいつもよりたくさん歩けたよ。この病気は、原因不明で完治はしないけど、治療費は国が負担してくれているの。みんなの助けで、おばあちゃんは生きているのよ。ありがたいね。税金を無駄にしないように頑張らなきゃね。」と祖母は言った。

千葉県立稲毛高等学校附属中学校
三年 大塚 美香子

リハビリが終わった頃、母が私達を迎えに来た。帰りの車中でおじがガンで入院することを知った。母は「健康診断のおかげで、早期発見できて本当に良かった。」と言っていた。そう言

私は以前、書写の学習で「納税と福祉」という字を半紙に書いたことがありません。そのときは言葉の意味をよく知らないままに書いていました。作品を出品して、私は「納税」、「福祉」の

それぞれの意味が気になり辞書で調べてみました。「税金をきちんと納めること」、「公的配慮によって社会の成員が等しく受けることのできる安定した生活環境。」というものでした。

今、私たちの生活の中でこの二つのことはきちんとなされているのかを考えました。

現代社会において、国家を成立させ、それを維持し、運営していくためには多くの費用が掛かります。そのため、国家を運営するために必要な経費は、税金を通して国民が負担するといふ義務があります。私はこの税金の仕組みを知り、物を買うたびに少しずつ払っている消費税に責任感を持つようになりました。

しかし昨今、税金の滞納についての報道や所得隠しをしている国民がいるという報道が何度かニュースで流れました。「納税」の義務を放棄している人たちがいることに私は強くシヨックを受けました。

私はあと半年で九年間の義務教育を終えようとしています。ふり返つてみると、何十冊の教科書を使って勉強できたことや楽しい仲間との日々を当たり前のよう感じています。でも税金はその教育費用にも多く使われていることを知り、とても驚きました。

また、父から普段の生活は税金によつて出来ているものに囲まれていることを聞きました。自分が小さい頃に遊んでいた公園や毎日通っている学

校、道路や交番など税金は私達の暮らしを支えてくれる身近な存在であったことに、嬉しく思いました。

同時に、日本国民誰もがが世話になつていて税金に関心を持つようになりました。

税金は災害による被害の復旧の費用にも使われています。例えば、二〇一一年三月十一日に起きた東日本大震災の復興にもたくさん税金が使われ、東北の人たちの大きな力となっています。自然災害は突然起こります。私たちが毎日少しずつ納めている税金がいざというときの助けになつていてことに感謝しました。

日本は資源の少ない国です。だからこそ他の国よりも、「物を大切に使う」という意識を強く持たなければなりません。みんながきちんと当たり前に税金を納め、今日から未来に向けて行動しなければいけないと思います。たつた五パーセントだからこそ一人一人の協力が大事なのです。

「納税と福祉」を半紙におさめるように、バランスよく私たちの生活に税を活用してくれたらいいなと思います。

税Ⅱ 共生社会の「核」

学校法人北陸学園北陸中学校

三年 本田 侑己

去年の夏、僕は交通事故に遭った。すると、周りにたくさんの方が集まってきた。その中に救急車を呼んでくれた人がいて、救急隊員が駆けつけてきてくれた。これを至って当たり前前の事と思っていたが、よくよく考えてみると、電話をしただけで救急隊員がすぐに駆けつけてくれるなんて不思議な話だ。また、その後病院に運ばれ治療を受けたのだが、医療にかかった費用を全て負担する必要がなかった。僕はこの二つの事について疑問に思った。

そこで、僕はこれらの事についてお父さんに聞いてみた。すると、救急隊員が駆けつけてくれるのも、医療費を全て負担しなくてもいいのも、僕らが税金を納めているからだということが分かった。僕はこれを聞いて、このような公共サービスを利用するのに、税金は重要な役割を担っていることが分かった。

これをきっかけに他の身近な税金の使い道についても調べてみた。すると、普段僕たちが使っている教科書も税金によって無償で提供されているものだと分かった。僕はそれを知って、この教科書にはたくさんの方の思いや期待が込められているものなのだと実

感した。そして、この事の発見によってこれからはもっとこの思いを大切にしていきたいと思った。

世間では、税金と聞くだけでため息をついてしまう人も多くいると思う。その人達は、税金はお金を払わなければならないという物理的な負担を強いるものだと思うのだろう。しかし、公共サービスを利用する際に、一部負担を和らげてくれるし、精神的な安心も得ることができる。例えば、近日起きた東日本大震災がいい例である。この震災では、とても大規模な被害に見舞われたが、税金によって大型の重機によるがれきの撤去や、犠牲になつた人達を救うことができ、復興に向かつて駒を進めている。これを可能にしたのは、普段国民から納められた税金である。

しかし、もし税金という仕組みが無かったら、確かに普段さまざまな税金を納めることはないであろうが、さまざまな事故や震災等の被害に対する援助もないでしょう。このようにしてみると、税金は一人ではできない、現実にはできないことを実現させる「力」のようなものだと思う。

僕は、共生社会の「核」たるものが税金であると思う。常に安心して暮らせる社会、そして支え合う精神にあふれた社会、それらの中心であり、それによってより豊かに日常を送れる社会を築いていくと信じている。だから、税に「抵抗」を持つのではない

く、税に「感謝」や「期待」を持つて、これからは納税できるようになりたい。

将来への貯金

豊田市立朝日丘中学校

三年 庄司 光

「警察をよぶことができない」この事実には驚きました。僕たちのことを守ってくれるのが当たり前だと思つてた警察が、税金のない世界では、お金をたくさん払わないと助けてくれないなんて…。

僕は、学校で租税教室の授業を受けました。税金の中でも、実際に払うことのある消費税のことは少し知つていましたが、その消費税もコンビニで何かを買ったときぐらいにしか払いませんし、その額もわずかなので、今まで税金がどう使われていようと知つたことじゃない、という感じでした。

でも、その使い道が分かつていくうちに税金のすごさを感じました。警察をよべる、教育を受けられる、火事を消してもらえる、これらは全て税金のおかげで成り立っているものです。逆にいえば、税金がなければ僕をふくめてほとんどの人が、今まで当たり前だと思つていた生活をおくることはできないのです。そう考えると、こんなすごいことをしている税金を消費税だけ

ですが、納めていることに誇らしさを感じました。

僕の親はたまに「税金、とりすぎじゃないか」そう言うことがありますが。大人になると所得税やなんやらで払う税金の種類は増えるといいますが。しかし、払った税金に見合うことは必ず自分のみえないところでおこつていきます。いや、それ以上かもしれません。

でも、税金をとられている、そう考えると払いたくないもののように感じます。だから僕は、こう考えることにしました。将来への貯金、だ。貯金をするとき、嫌な思いをする人はいないと思います。その貯金が、将来してくれる事の大きさを分かっているからです。

僕が今、何かものを買つて消費税を払つたとしても、それがすぐに僕に対して何かをしてくれるわけではありせん。そのお金は将来の、そして次の世代のよりよい環境のために生かされていくのです。また、この何気なく過ごしている生活は、僕の親が、そしてその親がつくってくれたものでもありません。自分だけがいいことをしてもらつてばかりじゃだめですしね。

今この国では、少子高齢社会が進展し、国力の衰退が懸念されています。だからこそ世代を超えた貯金でもある税金の役割が、ますます重要になってきていると思います。子どもから老人まで、みんなが納得する集め方を考え

ていくことが必要です。

また、千年に一度の大災害といわれる東日本震災でも、復興のため我々国民がみんなで貯金⇨納税していくことの意義を感じます。

今回の租税教室は、税金のことを考えるいいきっかけになりました。そして大人になって多くの税金を納めることになっても僕は、快く税金を納めていると思います。なにせ僕は、貯金をしているんですから。

ふるさと納税について

八尾市立龍華中学校

三年 林

愛

私は、税について調べていくうちに「ふるさと納税」という言葉に興味をもったので深く理解しようと思いました。

まず、この「ふるさと納税」とは新たに税を納めるものではなく、ふるさと（自分が貢献したいと思う都道府県・市区町村）への寄付金のこと、個人が五千円を超える寄付を行ったときに、住民税と所得税から一定の控除を受けられることができる制度です。つまり、ふるさとに貢献して、税も軽減されるということなのだと思えました。

そこで私は、自分の住んでいる八尾市ではこの「ふるさと納税」による収

入がいくらか、またどういった形で使われているのか調べました。平成二十二年度においては、二十一件合計八百万五千円の寄付がありました。ちなみに大阪市における件数は千九百九十一件で金額が二億四千四百二十七万円です。件数においては八尾市の五十六倍、金額においては二十七倍の多さに驚きました。やはり、人口の数もちがうし、その分人々の思い入れも違うのだらうと感じました。

話は戻り、八尾市では「ふるさと納税」という募集ではなく、がんばれ八尾応援寄付金と称していました。八尾市の文化・産業の振興、子供育成支援や緑化推進など、あらゆる方面で使用されようとしています。特におもしろかったのは「市長におまかせ」という項目があったこと。そこには四件より、七十四万の寄付がありました。

一方大阪府では「ふるさと納税」の使い道として「大阪ミュージアム構想」というのがあります。これは、大阪の街全体を博物館に見立てて発掘することにより再発見し、また磨くことにより際立たせ、そして最終的には企業や団体と結びつけることによりその魅力を内外に発信することで、大阪がより活性化することを考えています。

私は、自分の故郷が沈んでいくよりも、発展して栄えていくことを望むので、もし故郷大阪を離れることがあれば、また、大人になり収入を得るようになった時にはこの「ふるさと納税」

を使って貢献したいと思います。

このように具体的にホームページなどを使って使用目的を挙げてもらえる、より分かりやすくいいと思います。また、市によっては「ふるさと納税」で寄付すると減税などの特典だけでなく、自治体からお礼が送られてきたりします。例えば岸和田市は「一万円以上の寄付であれば有名な「だんじり」にちなんで、キーホルダーやパンダ、味噌、煎餅など十五種類から選べます。この特典は寄付することで、地方自治体を元気にして、さらに地方の産業にも貢献する、そして何よりもちよつといい事をして、得した気分になれるのがいいと思いました。

「ふるさと納税」とは寄付する側もされた側も損をしない、とっておきの税金だと私は思います。

「義務と権利」税金と学校

岡山市立岡輝中学校

一年 塩川 飛悠生

八百万円。これは、一人あたりの義務教育のために税金から使われている金額です。こんなにもかかるといわれるは、僕の予想をはるかに超えています。全体で考えてみると、国の総予算の六・三%にあたる、なんと約五兆五千億円のお金が教育の為に使われて

います。学校とは、こんなにも費用がかかるのかなかと思いました。

小学生のころ税務署の方が来られて、税についての授業をしてくださったのを覚えています。そのお話の中に、もしも税金が無くなったら、学校や警察、救急車などの施設が有料になってしまふという内容がありました。僕には将来警察官になる夢があります。警察が有料になってしまふとお金を持っている人しか助けられませぬ。それはおかしいじゃないか、そう感じました。

アフリカ大陸の中には、学校に行くことのできない子供がたくさんいます。十二ヶ国で百三十万人の子供たちが学校に行くことができていません。一方、僕たちは当たり前のように学校に通っています。そして当たり前のように教科書を配られています。実はこれらは税金で賄われているのです。

学校に行けないなんて想像が付きません。しかし、中には学校になんか行きたくないと思う人がいます。僕も宿題やテストのことを考えると、嫌になる時があります。しかし、僕たちが教育を受けることは決して義務ではなく、権利なのです。

教育費に使われる税金が無いと、当然学校には行けない子供が出てきます。当然学力はつきません。すると大人になって仕事に就こうとしても、字が読めない、書けない、計算もできな

い。必然的にお金がもらえないのでますます学校に行けなくなるという悪循環に陥ります。そう考えると税金はとても大切なものです。普段は当たり前のように通っていた学校が、かけがえないものになってきました。学校があつたからこそ作ることができた思い出が、僕には数えきれないほどあるのです。

世界には税金がない国があるそうです。その中でもナウル共和国に注目してみました。この国は教育費や医療費など全てが無料です。裕福だったので働く人もごくわずかです。しかし一九九六年に鉱石や石油が底をつき、どんな国の財産が無くなつていききました。その後の結果は火を見るよりもあきらかです。

税金を払うということは、損をしていると思う人もいます。しかし、税金を払うことで僕たちはとても有益な暮らしを送ることができているのです。未来の自分へメッセージを送りたい。君がいるのは、子どものころにかかった費用を、たかさんの人が税金として納めてくれたからだよ。今度は自分がその一人になるため、義務を果たすために、きちんと税金を納めよう。

見知らぬ人に 支えられている!!

高松市立屋島中学校

三年 浅田 結生華

私は今、冷暖房完備の四階建ての校舎という、とても恵まれた環境で学校生活を送っている。昨年できたばかりで吹き抜けもある、素敵でデザインが私の自慢だ。校舎が完成した時に校長先生がおっしゃっていた。

「この校舎を作るのに、生徒一人あたり二百万円の税金が使われています。そのことを忘れずに、感謝しながら大切に使うて下さい。」「えっ、税金?」私は不思議に思った。それまでの私は、税金といえば「消費税」くらいしか知らなかった。消費税でさえ、本やお菓子を買った時一緒に払っているの、それほど意識していたとは言えない。どうして校舎と税金が関係があるのか、調べてみた。

国民が納めた税金は、本当に様々な分野で役立てられている。身近な使われ方としては医療費の公費負担、ゴミ処理費用、警察・消防費、そして公立学校の教育費等である。中でも「公立中学校の生徒一人当たりの年間教育費」は、ずばぬけて高く何と約百万円である。今まで当たり前のように使ってきた教科書、校舎、授業…それらが全部、税金でまかなわれていたのだ。し

かも、私のために使われている。私はこれを知った時、このことをもつとみんなに知ってもらうべきだと思った。そうすれば、教科書を乱暴に扱うことなんてできないだろう。教科書を使って一生懸命勉強しなければいけない。

納税についても考えてみた。今の日本は、とても多額の借金をかかえている。国全体では九四三兆円、国民一人あたりに直すと約七四〇万円である。百歳を越えたお年寄りや今産まれたばかりの赤ちゃんも含めてである。これは将来、私達の負担となる。国の借金を減らすためには、「税金の無駄使い」をなくして歳出を減らしたり、増税することが考えられる。政治家はよく、「増税すると言えば選挙に負ける。」と言つて議論を後回しにしていた。しかし、三月に東日本大震災が起きた後、復興のための財源としてどうしても増税せざるを得ないという方向に、世論も変わってきたようだ。父もこう言っていた。

「将来の為にある程度の増税は仕方ないだろう。ただ、無駄使いを減らすことや一部の脱税をしたり未納の人への対応も考えてほしい。」私はまた驚いた。納税することは、国民の三大義務の一つである。その義務を果たしていない人がいるのか。その人だって、義務教育を受けただろうし、今もゴミを出しているだろうし、もしかしたら救急車で病院に行くかもしれない。その全てに税金が使われていることを知っ

ているのだろうか。今回いろいろ調べてみて、私も気づかないうちに、税金によって私の生活が支えられていることが分かった。大人になり納税する立場になったら、今までの恩返しとしてきちんと納税しようと思う。

「日本人に生まれて」

学校法人東明館学園東明館中学校

二年 山元 美保子

衝撃的で悲惨な、千年に一度とも言われる大震災が起こった。私は映画でも観ているような、現実の事とは思えない気持ちで、ただテレビの画面に見入っていた。あれから半年が経つというのに、未だに自分の家に帰れない人も多い。原発事故の被害も深刻化して、人々の健康も心配される。私達の暮らしはどうなっていくのだろうか。

そんな中、外国メディアは、日本人を取り上げた。災害に遭いながらも、日本国民は冷静に対応し規律正しかったからだ。今もボランティアにかけつけたり募金活動をしたりして、被災者を励まし続けている。

また、「震災復興税」という税金の話もある。被災者をみんなで支援しよう、震災の復興の負担を国民みんなに分かちあおうという考えだ。「みんなで力を合わせて」という日本人の考えが私は大好きだ。復興税が現実になれ

ば、がれきに囲まれた人達が少しでも早く普段の生活に戻れるかもしれない。

税金は、みんながお互いに助け合うための貯金みたいなものだ。みんなが少しずつ貯金すれば、あつという間に大金になる。そしたらいざという時に、多くの人を救えると思う。

社会の授業で、日本国憲法が定めた「国民の三大義務」を習った。教育の義務・勤労の義務・納税の義務の三つだ。義務というと、「無理にしなければならないこと、させられること」という印象がある。しかし「税金」について調べてみると、それは全く違うことが分かった。

例えば、東北大震災にいち早くかけつけた自衛隊員、事件があれば時間を問わず出勤してくれる警察官や消防隊員。命の危険性があるにも関わらず国民のために働いてくれる公務員の給料も、税金から払われている。税金のおかげで、私たちは毎日平和で安心して暮らしているのだ。他にも、医療や福祉・道路の整備・学校や図書館の整備。学校の教科書も無料で配布されている。世界には学校のない国、またその中で勉強したくても十分にできない子どもたちもいる。その中で社会へ出る知識など学校で学ばせてもらえることはすごくありがたいことだと思う。またけがや病気をしたらすぐ病院にもかかれる。世界にはお金が払えず医療が受けられない人々もいる。私たちの

健康も国民の税金によって支えられているのだ。

私はまだ子供なので消費税以外の税金は払っていない。でも大人になったらしっかり納税をし、たった一部だけど、国の平和の維持、国民の安全のために使われてほしい。

「頑張ろう日本」を合言葉に、私たち国民は一九となり災害復興に取り組んでいる。新しい税制が導入され、一日も早い復興ができればいいと思う。私たちは国民一人ひとり、そして国の平和を支えるために今日も税金を納める。日本人として生まれ、そうして支え合う。そうして税金は成り立っていると思う。

税は復興の力ギ

熊本大学教育学部附属中学校
二年 前田 莉穂

平成二十三年三月十一日。私たち日本人が、この日をまた「新たな教訓の日」として、語り継いでいくことになる。それは、一体誰が予想しただろう。この日を境に、東日本人々の生活は一変した。そしてその様子を、遠く九州にいる私たちも固唾をのんで見守った。

世界中の人々を震撼させた東日本大震災。あの日から、もうすぐ半年が経とうとしている。徐々に復興の兆しを

見せ始めているものの、私と同じくらいの中学生在未だに不便な生活をしているところを見ると心が痛む。私もこの春から、街頭や母の仕事場の募金に加えてもらったり、学校のリサイクル活動に参加したりしてきた。「義損金」、「復興支援金」と名の付く事にはできるだけ参加できるようにしているが、中学生の私ができる募金など、たかが知れている。

インターネットで調べてみると、現在、国民が募金した支援のお金は十四億円とあつた。世界各地から集まってきた金額を足せば数百億円といわれている。私達のような一般人から見ると、こんなにお金が集まっている、と感動と希望を感じる。しかし、いつかのテレビで「復興にかかるお金は少なくとも十四兆円以上」との数字が出ていた。とても足りない。十四兆円を国民からの均一寄付金で捻出しようとすると、一人あたり十四万円。これを国民に義務づけるのは、かなり厳しいと思う。けれど、だからといって、新しいお金を作ったり国債を発行して復興のお金に充てたらどうだろう。日本は、大きな借金を抱えているのに、この上十兆円以上も発行したら深刻なインフレになると思う。

だとすると、お金や国債の発行は、上手に調整しながら少しずつ行って、あとは税金で補うしかないのではないだろうか。特に、日本中の人が、一日も早い復興を望んでいるし、何とかし

て被災者を助けたいと思っっているのだ。このような時こそ税金の出番だと、私は思う。小学校の時の租税教室で、「税金は国民が気持ちよく生活していくための、会費みたいなもの」だと教わったのを覚えている。同じ日本人として、東北の人々の生活を支えるための会費として使うのなら、みんなに賛成してもらえないのではないだろうか。

今、復興税という税金が話題になっている。賛否両論あるけれど、私は、使い方をさえ計画的に、用途をはっきりさせてもらえるのなら、一つの方法としていいのではないかと思う。私たちだって、いつどんな災害に襲われるかわからない。だからこそ、国民が助け合っている「税金」の考え方は、大切にしていくべきだ。この大震災では、世界各地から日本国民の姿勢に感動の声が寄せられた。我が国は、どんな状況でも最低限の生活は税金で保障してくれるという安心感が、この一大事でもお互いを思いやりながら過ごしていける日本人の気質をうみ出したのではないだろうか。

税の存在

那覇市立小祿中学校

三年 上地 媛子

「税」。これは、私にとってあまり

なじみのない言葉で、授業やテレビで税金の話が出て、あまり関心はなく、ただ知識だけが頭の中に残っていました。

今年の四月末、父が心筋梗塞で入院し、私はとても大きなショックを受けました。いつも優しく元氣な父が家からいなくなるなんて、考えられませんでした。私には知らされてなかったけれど、父は入院してから一ヶ月間意識がなく、ICUで全身を管でつながれていたと、後から母に聞きました。そんな父も、今では退院し、車の運転もできるほどに回復しています。

父が退院する時、母が「ああ、税金をちゃんと払っておいてよかった。」と安心していたのを見て、私は不思議に思いました。なぜ、父の退院で税金の話が出てくるのだろうと思ったからです。母に聞いてみると

「お父さんの医療費ね、すごい金額だったのよ。ちゃんと税金を払っていたから、安く済ませることができたけど、もし払っていなかったら大変なことになってたわ。」

と答えました。私は心の底から驚きました。今まで遠く感じていた「税」が急に近い存在になったような気がしました。税が、私の家族を助けてくれたのだと、そして、自分の周りは「税」に満ちあふれているということに気がついたのでした。

それから私は、インターネットで税のことについて調べました。そこで、

私達の生活に税はものすごく深く関わっているのだということ、税金はたくさんのお金の役に立っているということを知りました。今まで持っていた税の「知識」が、一気に「理解」へと変わったような気がしました。

ニュースでは、税の引き上げの問題が議論されています。私は、無駄に使われるのは大反対だけど、人の命を救ったり、困っている人達を助けるために使うのなら大賛成です。自分の力では助けられない人も、税金を納めることによってその人の役に立つならともうれしいし、誇りにもなります。

私もいつかは大人になり、色々な税金を納めることになるでしょう。日本は、世界は、私が大人になる頃にどんな姿になっているかわかりません。けれど、税によって社会が支えられているという事実は、変わってないと思います。

税が、これから生まれてくる子ども達や成長していく自分達、そして日本のために正しく使う。そんな社会を作っていきたいです。

公益財団法人全国法人会総連合
会長賞
受賞作文

税が救うもの

江別市立大麻東中学校
三年 佐藤 みきと

平成十五年四月十二日に、僕は目の手術を受けた。まだ小学校に入学したばかりのことです。両眼識障害と言った内斜視のため、早急に手術を受けなければなりません。もし手術を受けなかったら普段の生活はもうろく、将来の職業も限られたものとなってしまう。

両眼識障害と診断されてから、重いメガネでストレスは溜まるし、眼科にも行かなければならず、それが嫌で仕方なかった。おまけに当時は田舎に住んでおり、札幌の眼科まで行くのに電車で片道二時間ほど掛かり、とても日帰りを通える距離じゃありませんでした。また、やんちゃな僕は何度もメガネを壊し、車で片道三十分ほど掛けて隣の市まで直しに行かなければなりません。

「ゲームのやりすぎで目が悪いのだ」と、冗談を言われた時は、すごく悔しかった。

いで酷い人生だな、と思った。生まれつきだったこともあり、憎むべき対象が親に向いたこともあった。

手術を知った僕は、人生で初めての体験に興奮し、同時に不安もありました。そんな中、手術が行われ成功しました。しかし手術後、麻酔が切れてきて「意識はあるのに目が開かない」という状況に陥り、恐怖を覚え、同時に自分が内斜視となった運命を呪いました。

しかし大きくなるにつれ、もうひとつの事実を知ります。僕の人生を内斜視から救ってくれたのは、国民から集められた税金だと言うことです。児童福祉法により、治療費として二十万円近くのお金を北海道の税金から賄われました。そのお金で行われた手術のおかげで、今もまだメガネを掛けているものの先生の話では、断然良くなったそうです。そんな今の僕があるのは、「人々から集められた税金」と「希望」があつたからだと思えます。税金は、僕を障害から救う仕組みになっていたのです。今は、この仕組みのおかげで無事に手術を受けられたことに感謝しています。

僕の手術は「税」によって救われた例の一つです。まだまだ世の中には助けを必要としている人がいる。そのことを心にとめておかねばならない。自己中心的な考えでは良い社会はできない。だから自分のためにも、他の人たちのためにも「税」は必要なのだ

う。
これからまた、多くの人の運命を担うことになる「税」を重んじ、まだまだ進化する社会に適応できるように見守る必要があると思う。また「恩返し」の意味も含めて、この社会に貢献していきたい。

「復興への架け橋」

登米市立南方中学校

三年 佐々木 志玲奈

笑顔、家族、仲間、仕事…。東北から、日本から、かけがえないものを次々に奪っていった三月十一日の東日本大震災から早いもので約半年が経過としていきます。

そんなある日、私はテレビで震災復興税についての案を耳にしました。震災復興税とは、震災から復興する為に使われる資金の財源であり、おそらくは消費税の増税の様な形で実行されるのでは、という話でした。反対の案も多いようですが、私はこの案に賛成です。

震災が残していった傷痕は深く、半年がたった今も、仮設住宅に入れず、いまだに避難生活をおくっている方や、仮設住宅には入れたものの震災により仕事を失い、どうやって家族を養っていかうと悩んでいる方など政府の対応を今か今かと待ち望んでいる方

が数え切れないほどいるわけで、復興へ向けて出口がまだ全然見えてきていないのが今の現状です。「復興は気持ちだ」とか「みんなで協力すれば」とかいう方もいるかと思いますが、時間が流れていくとともに国民の震災の記憶が風化していく中ではやはり難しい考えだと思います。もっと現実を見れば、復興のために必要な物の一つに金銭面が確実に関わってきます。だから

復興税を実施して、復興に向けて大きな一歩を踏み出すとともに、国民の皆さんにもう一度あの震災の記憶を思いだしてもらうことが大切なのです。震災復興税をきっかけにもう一度日本全体で一つになって意識を高めることが、復興に向けての近道になると私は考えます。

もしかしたら可決しないかもしれませんが、もし震災復興税が可決した際には、気持ちよく税を納めてもらえるように、復興に向けて一生懸命前を向いて歩んでいく被災地の姿をあらゆるメディアを通して国民の皆さんに伝え、「納めた税金が役に立っているな。」と納得してもらおうのが被災地にいる私たちになすべきことではないかと私は考えます。

税金は支えあいの仕組みです。震災復興税は復興への架け橋です。納めるのも義務であると同時にそれを使う私たちは、将来社会に還元できる大人になれるように、心と体を鍛練する必要があります。

があります。

「納税してよかった」と、「税金を納めてくれてありがとう」という二つの気持ちが一つになることが復興に向けて大きなかぎになるのではないかと私は思います。

税金は人と人との絆

加須市立加須平成中学校

三年 藤田 真綾

私は「税金」と聞いて思い浮かぶのは消費税くらいなもので、その消費税についても、買い物をするたびに支払いながら「なんで中学生の私まで税金を払わなきゃいけないんだろう。」と不満だけを抱いていて、税金の果たしている大切な役割を全く理解していませんでした。

しかし、東日本大震災の発生が、私の税金に対する考え方を大きく変えました。

震災発生後、毎日のようにテレビニュースで報じられる被災地の様子や、被災された人達の避難生活を見て、私は「こんなに壊滅してしまった町が元に戻るのだろうか。こんなに多くの人達が家や大切な家族まで失い、元の生活に戻れるのだろうか。」と、とても悲しく、不安な気持ちになっっていました。そんな中、日がたつにつれ、消防や自衛隊の人達の救助活

動によって助けられた人や、山のように積み上がった壊れた家や車などが徐々に片付き仮設住宅の建設もはじまった様子がテレビニュースでも流れるようになり、そうした救助活動や復興作業が進んでいることで、本当に少しずつだけ被災された人達の表情も明るくなっていく姿を見て、私は安心すると同時に強く感じたことがありました。それは、同じテレビニュースで、被災地の救助活動や復興作業が税金によって支えられていることを知り、税金の必要性和大切さを強く感じたのです。

もし、税金がなかったら一体被災地はどうなってしまったのか。被災して家も家族も失ってしまった人達はどうやって生活していかなければならなかったのか。想像もしたくありません。税金という仕組みがあり、税金という形で日本中の人達が被災された人達の救助活動と被災地の復興作業を支えることができているからこそ、被災された人達の明るい笑顔を少しずつでも取り戻すことができたんだと思います。

まだまだ被災地が震災前の様な姿に戻するには長い時間と多くのお金、そして何よりも日本中の人達の協力が必要だと思えます。税金を納めている人の中には、わずかな消費税しか払っていない私がそうだったように、「何で税金を納めなきゃいけないんだろう。」とか、「税金なんて必要ない。」と思っ

ている人も多くいると思いますが、税金が、被災された人達が希望を取り戻すための大きな支えとなっているというのを知り、税金が果たしている役割をしっかりと理解すれば、税金を納得して納めることが出来、納めている自分を誇らしく感じられるようになると思います。

私は、税金は、被災された人達はもちろん、多くの困っている人を助け、小さな子どもからお年寄りまですべての人達が安心して暮らせる社会をつくるために必要な、人と人との絆となるものだと思うようになりました。

税金について 考えたこと

横芝光町立横芝中学校

一年 小林 由花

私の中学校は、新設移転して三年目なので、校舎もグラウンドも体育館も全てが真新しくとつても立派で快適に勉強することができます。この学校の建設費は約二十九億円もかかったそうです。ものすごい金額ですが、これも税金からつくられているそうです。

又、私ひとりに使われている税金を調べてみると、一年間の教育費九十五万七千円、子ども手当月額一万三千円、他には医療費も町に申請すれば、全額助成され戻ってきます。一ヶ月に

すると、約九万三千円もの金額が税金から私のために使われていたのです。これが日本中の子供達に使われていると考えると、巨大な金額になりますね。当り前のように私達は教育を受け生活している中で、様々な形で沢山の税金が使われていて、びっくりしました。実を言うと私は、税金はお金ごと

られてしまうと言うイメージを持っていましたので、税金は少ない方がいいと思っていました。しかし、私達の暮らしは、国民が所得税や消費税など色々な方法で納めている税金で、誰もが安心して生活が出来るように公共サービスが行われ、成り立っていたのです。

私が税金のことを調べ、一番驚いたのは、一年間の国家予算が税金で集めた金額を大きく超えて作られていることでした。税収でまかなっているのは、全体の四割ほどで五割弱は、公債金に依存していたのですから。つまり、国が借金を毎年増やし続けて、国が運営されているのです。だから歳出も、国民への公共サービスのために使われるだけでなく、二割弱も国債の元利払いに充てられているのです。この借金は、私達の未来にも大きな負担がかかり続くことになります。このままいったら国が破綻するようなことにならないのでしょうか。私は、すごく不安になりました。

また、少子・高齢化が進み、公共サービスの軸である社会保障費は、どんどんふくらみ、それを支える働き手

が減少していることは、切実な問題です。私達が働きはじめた二十六才の時には、一・八人で一人のお年寄りを支えることになるそうです。社会保障の医療・福祉・介護・生活保護は、どれもなくてはならない重要な公共サービスです。しかし、それを保障し、継続させていくためには、税収をふやし、徴収のしくみやバランスを、時代に合わせて変えていく必要があると思います。例えば消費税も日本では五%ですが、ノルウェーでは二十五%、韓国では十%と、各国で随分違います。消費税だけでなく間接税の税収比率を上げれば、働き手だけにかかる負担が軽減できると思います。

私は、私達が支払う税金で豊かで安全・安心な社会が実現していることを知り、税金について正しく理解し、誰もが責任を持って関わっていかなくてはいけないと強く思いました。みんなが考え知恵を出し合い、よりよい未来にしていかなくてはならないのですから。

「助け合い」のかたち

東京都立武蔵高等学校附属中学校

三年 金原 正太郎

二〇一一年三月二一日。辛い悲しい出来事が起きました。東日本を巨大地震が襲い、大津波で多くの尊い命が失

われました。

僕の祖父は仙台市若林区に住んでいます。海岸からは離れた土地だったので、危うく難を逃れることができた。しかし、大地震の影響で、家の様々なところに亀裂が入ったり、外壁が剥がれてしまったりしました。そのため、国から補助金を受けることになりました。

大震災を経験した事により、僕は今まであまり意識したことなかった税金の使い道について深く考える機会を得ました。僕は、消費税等身近な所でも税金を払っています。僕は普段、税を払うという立場から税金というものを見てしまいがちで、税金によって様々な公共のものが造られているという事はあまり考えません。しかし、今回のような大震災が起こった場合、膨大な数の被災者を助けるのは何でしょうか。どうやってあれ程広範囲の被災地を復興させていく事ができるのでしょうか。そう考えると、税金の大切さが見えてきます。僕の祖父も、補助金を受けた事によって家を修理する事ができました。被災地を復興するのにもやはり沢山のお金が必要になってきます。これらのお金はすべて僕達が払っている税金から賄われています。

僕達の身の周りを見てみると、税金によって賄われている事が実は沢山あります。例えば、図書館や市民センターは税金で造られていますし、僕達

が学校で勉強していけるのも税金のお陰です。

税金を払って、恩恵を受ける。このサイクルが止めどなく続いている事で僕達は生活しています。このサイクルを無くし、税金を払わずに自分一人で中学校を造る事などできません。税金を払うというのは「国民全員が助け合う」という事だと僕は思います。国民全員、誰でも助け合える方法はこれ以外にないのではないのでしょうか。助け合うことで、個人の力だけではできないこともできるようになります。納税をする、という事がこんな仕組みを成り立たせていたんだと僕は初めて気が付きました。

最近、消費税率の引き上げが話題となっています。引き上げが必要だと言うことは、これからもっと国民同士での助け合いが必要だということなのかもしれません。助け合うことは、国民全員、それに自分自身のためであり、すべての人が安心して未来を生きたいけるためにあるのだと、僕は考えています。

被災地復興のために使われた僕達国民の税金が、一人でも多くの尊い命を助けてくれるよう、僕は願っています。そして、これから先同じような問題が起きたとき、税金を通してみんなが助け合えるような社会になればいいなと僕は思います。皆が安心できる社会を築いていくために、そして、明るい未来をつくっていくために。

税と私

射水市立大門中学校

三年 野尻陽菜

毎朝、私はあわただしく家を出て学校へ向かいます。学校は六時間授業です。授業中には校舎で行われている耐震工事の音が響きます。耳を澄ませばたくさん笑いの声が聞こえてきます。いつもと変わらない当たり前の毎日。そんな当たり前を支えているものがあります。それは「税」です。税によって学校が建てられ、税によって教育を受けることができるのです。税によって私の生活が支えられていたのです。

私は陸上部で長距離を走っています。その姿はいたって普通です。しかし、私は膠原病と戦っています。薬を飲まなければすぐに体の調子が悪くなり、ひどい場合死に至ります。私にとって薬はなくてはならない必要不可欠な存在なのです。ここでも税は私の生活を支えてくれました。税によって薬を無料で受けることができるとのことです。また私の住んでいる射水市は中学三年生まで医療費が無料です。税金を通してさまざまな人に支えてもらっていたのです。私は税という縁の下の力持ちに支えられて生活しているのです。

税金は私だけでなく国全体を支えています。もし税金がなかったら、事

故が起きた場合救急車や警察は来ません。またごみの処理をしなくなるので市や町、国はごみだらけになってしまいます。きつと税金がなかったら私たちは生活できないでしょう。身近だけれども見えない所で税は私たちを支えてくれていたのです。

最近、ますます少子高齢化が進んでいます。高齢者の方は今まで社会に貢献してこられた先輩です。しかし高齢者がふえると医療、介護として使われる税金が増えてしまいます。国にとって大きな負担になってしまうのです。それなのに少子化で子供が減り社会を支える人たちが減っています。日本はどうなるのでしょうか。私たちにできることはないのでしょうか。

私たち一人一人の力はごくちっぽけなものです。しかし、ちっぽけな力がたくさん集まればその力でどんなことでも乗りこえられると思うのです。だから、まず今できることを始めようと思います。

私がすごしている毎日は当たり前ではありません。当たり前には税があり、税の裏にはたくさん人の汗、温もりがあるのです。つまり、たくさんの人によって当たり前の毎日が創られているのです。今の私は税金に頼ってばかりですが、近い将来私がたくさんの人を支えられるようになります。たくさんの人に当たり前の毎日を届けたらいいと思います。そのために私は当たり前毎日に感謝の心を忘れないように

にします。

「税」

それは人と人をつなぐかけはしのよな素晴らしいものだと思います。

税の在り方

富士市立吉原第一中学校

一年 飯塚海渡

三月十一日。東日本大震災によって多くの命が奪われました。僕は、そんな中で必死に行方不明者を探す自衛隊を誇らしく思いました。毎日大きな声を出し、重い荷物を持ち、危険な場所にも救助に行く自衛隊を尊敬しました。そんなとき、自衛隊が税金で給料をもらっていることを思い出しました。それまで僕は、税に対して関心はなくて、良いイメージもありませんでした。(なくなればいいのにな)と思うこともありました。けれども今回のことで、税のことが気になり、調べてみることにしました。

調べてみると、身近に多くの税があるとわかりました。僕達の親が納めている税も多く、それは国の収入になります。そのお金は、国の政策や道路、病院や公園、衛生関係の設備などに使われます。図書館などの、普段利用している公共施設も、税金で成り立っています。そして、医者や警察、学校の先生や自衛隊など、僕達のために働い

てくれている人達にも使われていま
す。もしも税金がなかったとしたら、
僕達の当たり前の暮らしはありませ
ん。つまり、地震のとき多くの人が、
人と税金の協力で助けられたのです。
税金によって、多くの助け合いが生ま
れているのです。

そんな中、国民の義務である納税を
しない人が世間にはいます。国債が多
くなり、税を上げなければいけないの
に、自分の事しか考えず、増税に反対
する人がいます。こんなときこそ、税
の大切さを世間に発信し、未納税を防
ぐのです。世の中には、しっかりと税
を納めている人も多くいます。なか
には、納税に余裕がなくともしっかり納
めている人だっています。ですが、誰
かが納税を怠れば、それは不公平にな
ります。それは、正しい税の仕組みで
はないのです。確かに僕達は中学生
で、消費税しか払ったことがないと思
います。それにそのお金も、自分達が
働いて稼いだわけではありません。そ
んな僕達に、納税の大変さは分からな
いかもありません。しかし、これから
「税」という仕組みのイメージを変え
ていくのは僕達です。自分達と税が関
係ないと思っただけではありません。もしも
僕達の世代の中に、税についてしっか
りと理解していない人がいたとしま
す。そうなれば、今までと何も変わり
ません。そのために、考えを広めてい
くのも僕達の役目だと思います。そし
て、「税金を払っている分、自分達に

返ってきている」という良いイメー
ジ、それを定着させていくことも、大
切なことだと思います。

僕達が今できる一番大切なことは、
学校で勉強できることに感謝し、しっ
かり勉強することです。そして、将来
きちんと納税をし、国を支える立派な
国民になりたいと思います。国と国民
が協力し、税で日本をより良くしてい
くことが、税の在り方だと思っています。

日本の復興に向けて

防府市立国府中学校

三年 松 富 香名子

税金と聞いて、まず思い浮かぶの
が、消費税である。そして、公民の授
業で勉強した「国民の義務である」と
いうこと。最近でいえば、ハンガリー
のポテトチップス税。この位しか、私
の頭には浮かばない。

税金は、「払うもの」という意識が
強くて、労働をしていない私には、あ
まり関係のないことのように思えてく
る。消費税にしても、私が買い物をする
ようになった時は、商品が、課税後
の価格表示になっていたので、税金を
納めている感覚はあまりない。しか
し、消費税アップの議論が話題になっ
た時は、税率アップに反対派の立場
だった。だが、学校生活や日常生活
に、税金が使われていて、私の生活

が、税金と大きく関わっていること
は、何となく知っていた。このよう
に、今まで税について考えたことがな
かったのも、とても薄っぺらな知識し
かない。

税を知る機会なので、まず、身近な
ところでは、どんなことに、税金が使
われているのか、私なりに考えてみ
た。すぐに思いつくのが、学校、警
察、消防、ゴミ処理、公園、市役所、
道路の建設。どれも、当たり前よう
に日常生活にあり、なくてはならな
い、必要なものばかりである。

インターネットで調べていると、驚
く数字が目飛び込んできた。公立学
校の中学生一人当たりの年間教育費の
負担額は、九十五万七千円ということ
だ。日本全国の子どもの人数分を税金
で賄っているとすると、莫大な金額に
なる。教育面だけを考えても、税金の
有難さが実感できる。もし、警察、消
防、ゴミ処理がなかったらと考える
と、ぞつとする。一人では、安全で健
康な生活は、送れないこと、税金に
よって、社会生活が成り立っているこ
とがわかった。

税金の有難さがわかってくると、
「払うもの」から、「より良い社会に
なるのなら、納めたい」という考えに
変わってきた。

今、私が是非、税金をたくさん充て
てほしいと思うものは、三月十一日の
東日本大震災で、被災された方の生活
支援や、街の復旧、復興の為の資金で

ある。義援金やボランティアなど沢山
の支援があったが、先日の新聞による
と、この先十年で復興費が、二十三兆
円必要と知った。建物の被害だけでな
く、家族を亡くされた方もおられる。
目に見えない心のケアにも税金を使っ
てほしい。健康で安心した生活ができ
るように、復興資金には、日本国民が
納めた税金で、息の長い支援をしてい
くことができると願う。消費税アッ
プには、反対だったが、このような資
金が必要なら賛成である。

これから、大人になると税金を納め
る機会が増えるが、税に対して関心を
持つ大人になりたい。そして、国民
の義務である「納税の義務」をしっか
り果たし、東日本の復興を日本国民全
員で応援していきたい。

税について

南国市立香長中学校

三年 高 橋 咲百合

教育費は大学まで無料、給食費も高
校まで無料、少人数で手厚く教育され
ており、塾は不要、医療費もほぼ無料
で、民間保険に入る必要がない。夢
のような話ですが、これはスウェーデ
ンの国民に保障されている権利の一部
です。スウェーデンの消費税は二十五
%ですが、社会保障がしっかりしてお
り、日本の五倍の消費税を負担するこ

とに国民の不満はないそうです。
日本とスウェーデンの違いは大きく分けて二つあります。

まず一つ目は、税に対する信頼、安心感です。日本の場合は、自分達の払っている税金が適切に、有意義に使われているのか多くの国民が疑問を抱いています。いまだに不要な公共事業も多いし、不透明な使われ方をしています。そもそも、消費税の5%という数字は低いと見ることができなのか。財政再建のため、震災復興のための増税は避けられないのか、政府の説明も、いまひとつ納得できないところがあります。

もともとスウェーデンは貧しい国だったそうです。特別な財源があるわけでもありません。国防費に大舵をふるい、税金のやりくりをしながら、財源を確保しています。国民にとつては、払った税金の六割が国民年金や児童手当などで返ってくるのです。貯金代わりに国という金庫に預けているようなものです。

二つ目は、政治への関心です。スウェーデンの投票率は常に80%以上。それに対して、日本の投票率は五十〜六十%。酷いときには四十%にまで落ちることもあります。若い世代については、二十五歳以下の投票率は二十五%以下と、非常に低くなっています。何だか情けない気もしますが、きつと「どうせ何も変わらないだろう」と諦めている人が多いのでしょ

う。でも、結局自分達が一番損をしてしまうことに気付かなければなりません。

私達、特に若い世代は税金の使い道にもっと関心を持たなければならぬと思います。そもそも、若い世代の人の中に、税金についてちゃんと知っている人はどれくらいいるのでしょうか。私も直接自分に関わりがある消費税ぐらいいいか知りませんでした。税金と私達との関わりや、税金の種類を知って、私達の生活のあらゆることに税金が使われていることを知りましょう。普段はなかなか気が付きませんが、学校の校舎や備品、教科書もそれに含まれます。

スウェーデンの税政も全てがパーフェクトではないと思いますが、国民が政治に関心を持ち、税のしくみについて真剣に考える姿勢は見習うべきだと思います。

これからの少子高齢化社会において、皆が幸せに暮らしていくためには、社会保障の充実が必要です。私達若い世代が中心となって、日本の財政や税のあり方についての意識を持ち続けていきたいです。

「税」は「輪」と「和」

平戸市立田平中学校

三年 波多江 茉 柚

社会科の先生から「お中元」が届いた。四十四ページにも及ぶ、「夏休みの宿題プリント」だ。丁寧な表紙には「のし」まで印刷してあるという凝った宿題である。ユーモアたっぷりの先生には脱帽だが、受験生としての自覚はあるものの、さすがに量が多く、少々めげそうになっていた。ペンは滞りがち。

その時、ふっと教科書に視線がいった。「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、国民の税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」背表紙に書かれているあの文だ。

私は「はっ」とした。義務教育には多くの税金が使われていることを思い出したのだ。私たち中学生一人に対する年間負担額は九十五万七千円。公民の授業で「納税の義務」について学んだ時、興味を持った私は、国税庁のホームページを開いた。税の学習コーナーで、投入されている金額に驚き、その数字を覚えていたのだ。

私たちは公民で「納税の義務」について学んでも、享受するばかりで、実

感としてはまだ遠い。また、日々受けている税によって成り立っている社会の有難みについて深く考えることすら忘れがちである。

今日、しみじみと考えを巡らせた。宿題の手を止め窓の外を見た。自宅から眼下に広がる美しい風景。まっ青な海に架かる赤く立派な平戸大橋、それに続く道路、街灯。

この風景を構成している多くのものが、税によって成り立っているではないか。

もし、税がうまく使われなかったら、生活に密着している、警察、消防、医療、ゴミの回収と処理など全てが滞る。考えるだけでもゾッとする。私たちの生活は麻痺してしまう。この社会の先生からの宿題も有料だ。

「税」というと「負担」というイメージが先行し、こちらの部分には特に敏感に反応してしまいがちだ。しかし、今日の日本の現状を冷静に捉え、皆で公平に支え合うべき時だと思ふ。東日本大震災と少子高齢化。厳しい現実の日本を皆で押し上げていかなければならない。皆が本気で日本を支えた上で平等に税の恩恵を被れるような社会が訪れてほしい。

皆が繋がりが、ひとつの大きな「輪」が出来る。そして「平和」な日本になればと心より願う。税をベースに結ばれながら安心して暮らせる社会へと前進だ。

社会科の先生からの「お中元」に感

謝の気持ちも忘れ、くじけそうになつた自分が情けない。

「これからの日本を担う。」という自覚を持って、もっとしつかり勉強し、知識を身に付け、きちんと「納税の義務」の果たせる人間に成長したい。

まずは、この「お中元」を仕上げ、先生にお返ししよう。小さな「輪(和)」の積み重ねが未来へと繋がっていく。

学校生活と税

山鹿市立菊鹿中学校

三年 坂本 麻衣子

私は先日、国の一般会計歳出額の資料を見て、とても驚きました。なぜなら、文教及び科学振興費、つまり教育や科学技術をさかんにするために使う費用の割合が、二番目に高かったからです。また、県の支出では、教育費が一番割合が高かったです。

私は、中学三年生です。小学校六年間と、中学校約二年半を過ごしてきました。小学生一人につき、一年間に八十二万七千円、中学生一人につき、一年間に九十五万七千円、国や地方公共団体は支出しているそうです。私は今まで、自分が教育を受けるのに、いくらかかっているのかわらなかつたし、知ろうとも思いませんでした。「教科

書は、税金で払われているから、無料でもらえるんです」と小学校低学年のころから今まで、新年度を迎え、新しい教科書が配られるたびに言われてきました。だから、教科書が無料でもらえるのは、税で払ってもらっているおかげだ、ということを知っていました。

でも、私は今まで、小・中の九年間は義務教育で、学校に通うのが当たり前。教科書を無料でもらえることも当たり前前のことだったので、先生方が「感謝して、大切に使いなさい」と言われても、びんと来ませんでした。私たちが学校で楽しく授業が受けられること、自分の将来に向かって、知識という自分の財産を増やしていかれること、勉強に必要な教科書ももらえることなど、学校生活の多くを税に支えてもらい、納税者である、私の父や母をはじめ、身の周りの大人、全国の人々に支えられていることを知りました。

私は小学生のころ、インドの貧しい子供たちと交流をしました。自分より小さな子供たちが、家族のため、生きるために働きました。私たちの募金で集めたお金で、ノートやえんぴつ、服などを買って贈ると、とても喜んで大切に使うてくれました。制服を着て、新しいノートとえんぴつを使って勉強していた彼らは、満面の笑顔で、写真に

写っていました。会ったこともないし、言葉も育った環境もちがうけど、彼らは心からの感謝を伝えてくれたし、私は彼らの仲間になれた気がしました。

今、私は自分に足りなかつたことは、心からの感謝だと気付きました。ノートを買えることが当たり前ではない。教育を受けられることが当たり前ではない。当たり前であつてはいけなしいと思えました。大人が一日中働いて稼いだお金の一部を税として納めてくれているおかげで、教育を受けられることを感じました。私たちが教育費を払ってもらえているのは、私たちがより良い授業を受け、自分たちの将来を、国の未来を良くしていったほしいという親や大人たちの想いがあるからです。

私は、教育を受けられる自分は、幸せだということを忘れずに、教育を受けさせてくれる全ての人たちに感謝しています。

奨学金制度について

那覇市立鏡原中学校

三年 田場 貫太

夏休みの三者面談の時、先生が親に奨学金のパンフレットを渡した。「みんなに渡しているのではなく、必要だと思つた方に渡しています。夏休み明

けにまた連絡しますので、考えてみてくださいね。」と先生は言った。母は「助かるね、ちゃんと将来返すのよ、みんなの税金でこういう制度があるからね」と言う。

最初、先生に勧められて、簡単にすぐ安心しきつた母には腹が立って仕方がなかつた。なんで離婚なんかしたんだ、ちゃんと両親揃って余裕があつたら、部活や学校で必要なものは迷うことなく買え、お金を使うことへの罪悪感や後ろめたさはなかつた気がする。

僕は、去年から税金は助け合いの凄いい制度だと関心が大きくなつていたので、実際に自分がみんなの納める税金を一時的に借りて、高校に行かせてもらうかもしれない、ということに緊張した。高校は中学とは違って、交通費のかかる所に行くかもしれないし、部活動もしたいという気持ちがあるのでも、母の不安も知っていたし、僕としても「将来俺が返すから、奨学金というみんなの税金で高校に行かせてもらいたい」と強く思った。

母の弟は大学でこの制度を利用して、会社勤めをするようになってから毎月返済したらしい。実際に完済してからは、また文書が届き、払えない人がたくさんいるので、もし、よければ払ってもらえませんか？という内容が届いたというのを聞いてそれには驚いた。

借りっぱなしで返さない人がたくさんいるんだ。でも事情が日々変わって

いくので、やむを得ない状況になる人達がいるのだろう。僕も中学に入って二回も骨折し、他に肉離れや色んなことが予告もなく起こり、部活動がまったくできない状況に追いこまれたこともあり、未来は予測できないなあ、と何度も思っただけで落ちこむことが多かった。だから、払えなくなってしまう人達を責める気持ちはない。返済する気持ちがあったのに、いろんなことが起こって払えなくなってしまうのだろう。先の事を考えず利用し、ただ借りっぱなしとはならない強い決意で奨学金制度を利用していただきたいと思っただ。

僕にとって、税金制度とは、働いた金額や買う物に対して課税され、納めた税金で公共施設などに使用し、働けない人達の生活補助とか老人、障害者の援助となる本当に助け合う素晴らしい制度だと思う。みんな考え方も違い、感情の表現の仕方も違うので、すべてに謙虚にありたい態度を全員がとるわけではないと思う。感謝の気持ちを忘れるほど、追い込まれたり、体の痛みや、いろんな理由で税金の不払いや返済が滞ったりするかもしれない。僕は将来、できるだけたくさん人が、希望をもって働いて納める税金が、誰かの役に立つことを信じて、喜んで税金をたくさん納めたいと思っている。

第45回 中学生の「税についての作文」応募状況（前年対比）

（単位：校、人）

国税局	県 別	応 募 校 数			応 募 編 数		
		23年度	22年度	増 減	23年度	22年度	増 減
札 幌	北 海 道	209	216	-7	10,225	10,058	167
仙 台	宮 城	42	89	-47	1,318	3,041	-1,723
	岩 手	61	85	-24	2,264	2,822	-558
	福 島	35	164	-129	1,526	6,789	-5,263
	秋 田	100	97	3	5,667	5,526	141
	青 森	51	48	3	704	526	178
	山 形	75	76	-1	4,557	4,271	286
	計	364	559	-195	16,036	22,975	-6,939
関 東 信 越	埼 玉	365	373	-8	42,860	39,556	3,304
	茨 城	204	212	-8	16,162	16,705	-543
	栃 木	142	135	7	9,731	8,404	1,327
	群 馬	151	154	-3	11,001	10,713	288
	長 野	97	105	-8	5,007	4,862	145
	新 潟	166	157	9	8,759	8,283	476
	計	1,125	1,136	-11	93,520	88,523	4,997
東 京	東 京	675	675	0	68,342	65,015	3,327
	神 奈 川	376	382	-6	31,575	28,682	2,893
	千 葉	367	356	11	37,261	37,495	-234
	山 梨	84	81	3	4,907	4,306	601
	計	1,502	1,494	8	142,085	135,498	6,587
金 沢	石 川	53	48	5	2,146	2,247	-101
	福 井	62	57	5	3,462	3,408	54
	富 山	72	65	7	2,509	1,931	578
	計	187	170	17	8,117	7,586	531
名 古 屋	愛 知	285	291	-6	20,378	20,852	-474
	静 岡	194	205	-11	12,703	13,080	-377
	三 重	45	55	-10	2,004	1,880	124
	岐 阜	92	92	0	3,118	2,995	123
	計	616	643	-27	38,203	38,807	-604
大 阪	大 阪	428	428	0	48,742	44,634	4,108
	京 都	157	166	-9	12,468	11,529	939
	兵 庫	324	327	-3	33,083	30,721	2,362
	奈 良	109	105	4	13,349	13,000	349
	和 歌 山	132	136	-4	13,324	12,700	624
	滋 賀	97	95	2	9,272	8,539	733
	計	1,247	1,257	-10	130,238	121,123	9,115
広 島	広 島	178	181	-3	8,419	8,753	-334
	山 口	106	110	-4	3,648	3,766	-118
	岡 山	115	109	6	3,158	3,204	-46
	島 根	36	31	5	944	832	112
	鳥 取	29	27	2	592	547	45
	計	464	458	6	16,761	17,102	-341
高 松	香 川	65	62	3	4,014	3,594	420
	愛 媛	106	111	-5	6,919	7,601	-682
	徳 島	86	86	0	7,522	7,730	-208
	高 知	54	60	-6	1,953	1,973	-20
	計	311	319	-8	20,408	20,898	-490
福 岡	福 岡	335	335	0	34,393	33,879	514
	佐 賀	91	91	0	8,622	7,799	823
	長 崎	180	183	-3	14,031	12,624	1,407
	計	606	609	-3	57,046	54,302	2,744
熊 本	熊 本	106	116	-10	7,990	7,154	836
	大 分	97	84	13	5,236	3,503	1,733
	鹿 児 島	93	99	-6	3,015	3,111	-96
	宮 崎	53	61	-8	2,973	3,815	-842
	計	349	360	-11	19,214	17,583	1,631
沖 縄	沖 縄	125	124	1	9,684	9,281	403
全 国 計		7,105	7,345	-240	561,537	543,736	17,801
応 募 割 合		66.1%	67.9%	-1.8P	15.7%	15.3%	+0.4P

（注）「増減」欄の数値は、前年度から増加又は減少した数を示す。

注 意 事 項

今後実施される中学生の「税についての作文」募集に当たり、中学生の皆さんが応募作品を作成される際、この作品集に収録されている文章を、そのまま引用することはできませんので、ご注意ください。

平成二十三年十二月発行

発行 全国納税貯蓄組合連合会

住所 〒一〇一—〇〇四一

東京都千代田区神田須田町一—十四 A K ビル

電話 〇三—三二五四—一〇四五

国税庁

住所 〒一〇〇—八九七八

東京都千代田区霞が関三—一—一

電話 〇三—三五八一—四一六一

